

第3章 第20次調査（フロンティア研究センター地点）

第1節 調査の経過と概要

1. 調査に至る経緯

2012年度に、常三島キャンパス東半の工学部エリア北西部に位置する駐車場として利用されていた敷地に、フロンティア研究センター新営の計画が示された。常三島キャンパスの位置する常三島地区は、近世徳島城下町跡の一つとして、周知の埋蔵文化財包蔵地に指定されている。『御山下島分絵図』（安政年間、個人蔵）などの実測分間絵図によれば、建設予定地は、長谷川家の屋敷地の一角にあたるのが明らかであり、範囲内にこれに関する遺構・遺物の存在が予測された。なお、予定地の南東側に位置する第8次調査地点（総合情報処理センター地点）では、長谷川家屋敷地裏庭の畑地、他の屋敷地との境界を区画する溝などが検出されている。そこで、2013年6月27日から調査員3名が担当して、約1か月半の期間の予定で発掘調査を実施することとなった。調査面積は756㎡である。

2. 調査組織

調査組織は以下の通りである。

調査主体 国立大学法人徳島大学埋蔵文化財調査室（室長・端野晋平）

調査担当 端野晋平（調査主任）

遠部 慎（埋蔵文化財調査室・助教）

山口雄治（埋蔵文化財調査室・特任助教）

調査補助 古川裕美・前田千夏（以上、施設マネジメント部・技術補佐員）

3. 調査の経過（第59図）

6月27日から重機掘削を開始し、28日からは同じキャンパスで発掘調査を終えつつあった地域連携プラザ地点から器材の搬入を始めた。7月1日には、器材の搬入を終え、環境整備を開始した。その後、調査区内の地下水排水のためのウェルポイント設置に数日間を要し、結局、現場に作業員を入れ、作業を開始したのは4日からであった。同日からは、まず重機掘削では取り除けなかったコンクリート杭などの攪乱除去を行い、そして調査区壁の清掃、側溝の掘削を開始した。重機によって攪乱部分を除去した結果、オリーブ褐色細砂～シルト層が現れ、11日からは、これを第1遺構面として遺構検出を進めた。その結果、多



第59図 作業風景

数の土坑・ピットが検出され、17日からはこれらの掘削を行いつつ、遺構・調査区壁土層の写真撮影と実測を行った。26日は、第1遺構面の全景写真の撮影に備えて、清掃を行った。29日は、全景写真の撮影を行い、その後、I・II層の掘り下げを始めた。掘り下げは、III層（地山）の上面（第2遺構面）とI層の上面（第1遺構面）との中間に、遺構面（第1.5遺構面）を設定して、そこまで行った。30日からは、遺構面までの掘り下げと遺構検出を併行して行い、8月1日からはそれらの作業に加え、遺構掘削を行いつつ、遺構・調査区壁土層の写真撮影と実測を行った。また、山口特任助教の岡山大学転出によって、以後、端野・遠部の調査員2人体制で調査を実施することとなった。12日から16日まではお盆休みとして作業を中断し、19日から再開した。20日からは、第1.5遺構面をIII層上面まで掘り下げ、それを第2遺構面とみなして遺構検出を始めた。22日からはそれらの作業に同時併行で遺構掘削を行い、遺構・調査区壁土層の写真撮影と実測も行った。また、調査区西側に落ち込み（本報告での池状遺構〔SG401〕を指す。以下、同じ。）が検出されたので、その範囲を確認するためのサブトレンチを、東西方向・南北方向で二つ設定し、それぞれを掘削した。東西方向サブトレンチの土層断面を観察した結果、この落ち込みが遺構ではなく、自然地形であると考えられたため、当初は南北方向サブトレンチで範囲を確認することとどめ、落ち込み部分の掘削は行わずに調査を終了する予定であった。ところが、南北方向サブトレンチを掘削時に、石組み遺構が検出され、それが西側まで延びることが確認された。そのため、第2遺構面については、調査期間の制約上、全景写真撮影後に、落ち込み部分を掘削し、石組み遺構の調査を行うことにした。26日の午前中は雨天のため、作業を中止したが、午後になり天候が回復したので、全景写真撮影のための清掃を行い、その終了後に写真撮影を行った。27日以降は落ち込みの掘削と石組み遺構の検出、遺構・サブトレンチ壁土層の写真撮影・実測を行った。30日には落ち込みの掘削と石組み遺構の検出、写真撮影が完了し、台風の接近が予想されたので、石組み遺構についてはシートで養生を施した。9月に入ると、遠部助教の北海道大学転出によって、調査員は端野1名となった。9月2日は、台風接近による天候不良のため、遺構の実測が思うように進行せず、3・4日は雨天のため、現場作業を実施することはできなかった。5日に作業を再開したが、台風通過中、調査区内は大雨により一時冠水したにもかかわらず、石組み遺構は養生を十分に行ったかいもあって、検出時の状態をほぼ保っていた。同日より石組み遺構の実測を開始し、9日にはそれを完了した。10日からは石組み遺構の石は除去して、その下の盛土の掘り下げを開始し、11日にはそれらの作業を完了した。そして、石組み遺構の周囲や盛土の下で検出された杭などの実測を行った。同日には撤収作業を終え、すべての調査を完了した。

4. 調査の概要

本調査地点では、3面の遺構面が調査され、17世紀前葉～明治期にかけての遺構が確認された。以下、各遺構面で調査された遺構、出土遺物の概要を述べる。

第2遺構面 本遺構面では、17世紀代に掘削された池状遺構1基、石組み遺構1基、溝1条、土坑57基が検出された。遺構密度は低い。明治期に埋没したとみられる池状遺構と石組み遺構を除いて、遺構からは17世紀中葉以降まで下る遺物は得られなかった。調査区西側に位置する池状遺構(SG401)とその中に造られた石組み遺構(SX402)は、飲料水以外の生活用水を利用するための施設と考えられ、

これは常三島遺跡では初出である。調査区南東部に位置する溝（SD371）の用途は不明である。土坑は調査区の南端部を除き、広く分布する。このなかには、建物などの柱穴が含まれていると思われるが、規則的な配置を見出すことにはいたらなかった。

第1.5 遺構面 本遺構面では、土坑・ピット126基が検出された。遺構密度は中程度である。出土遺物は、17世紀前葉～中葉のものに限られる。個々の遺構の時期を決定するのは難しいが、層位からみて、多くが17世紀～18世紀前半のものと思われる。土坑・ピットは、調査区の全域に広く分布するが、南半部は分布が疎である。土坑は、形態やサイズが多様であり、一つ一つの性格を確定するのは難しいが、なかにはゴミ穴や柱穴が含まれるものと考えられる。これらには、底面に礎石とみなせる礫が確認されたもの（SP254・SP291）もあったが、建物などの構造物を復元することはできなかった。

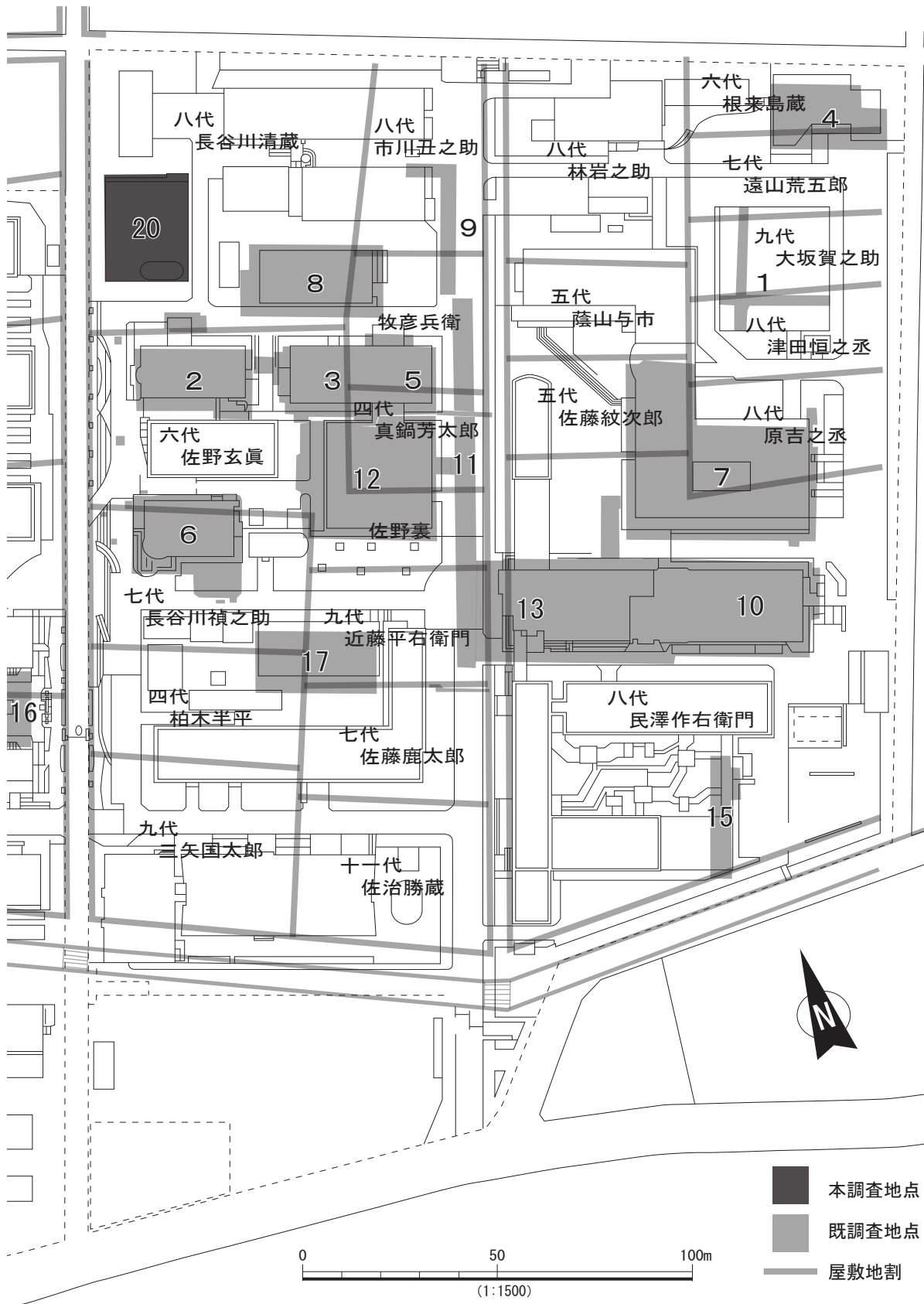
第1 遺構面 本遺構面では、18世紀後半～幕末の溝5条、土坑・ピット203基が検出された。遺構密度は高い。出土遺物は、16世紀末～幕末にかけての幅広い時期のものである。基盤となるⅠ・Ⅱ層から出土した遺物は、おおむね17世紀代のものに限られるが、近接する第2・3・5・6次調査地点での層位所見に準拠して、こうした遺構の時期を想定した。溝には、南北方向のもの（SD01）、東西方向のもの（SD128・SD130・SD206・SD210）の二者がある。さらに、東西方向のものは、短いもの（SD128・SD130）と長いもの（SD206・SD210）とに分かれる。南北方向のものは北東隅、東西方向の短いものは東側中央部、長いものは南側に位置する。これらの溝の用途は不明である。土坑・ピットは、調査区の全域に広く分布するが、南半部は分布がやや疎である。土坑は、形態・サイズともに多様である。第1.5遺構面と同様、なかにはゴミ穴や柱穴が含まれるものと考えられる。これらには、柱の痕跡が確認されたもの（SP81）もあったが、位置関係などから建物などの構造物を復元することはできなかった。

出土遺物 池状遺構、石組み遺構、溝、土坑・ピット、包含層から、陶磁器・土器・土製品、金属製品、ガラス製品、瓦、石製品、骨製品、動植物遺体がコンテナ16箱分出土した。

第2節 調査の記録

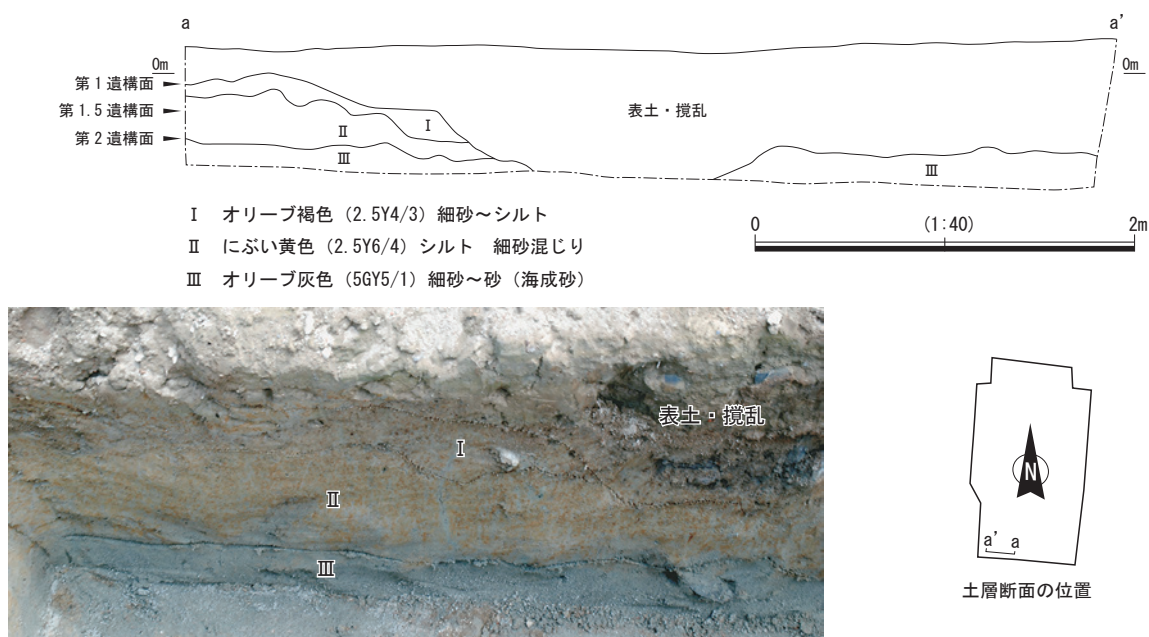
1. 調査地点の位置

徳島大学常三島キャンパスは、南北に走る道路を境として、西側の総合科学部エリアと東側の工学部エリアに分けられる。本調査地点は、工学部エリアの北西部に位置する（第60図）。東側には近世武家屋敷内の畑跡、藩主蜂須賀家家紋入り蒔絵漆碗、漁網錘の鋳型などが検出された第8次調査地点（総合情報処理センター地点）、南側には近世の青銅製品埋納遺構、幕末から明治期の方形水溜遺構などが検出された第2次調査地点（地域共同研究センター地点）がある。『御山下画図（綱矩様御代御山下画図）』（元禄4年〔1691〕）、『御城下絵図』（享保年間〔1716～1735〕）、『御山下画図』（天明年間〔1781～1789〕）、『徳島御山下絵図』（文化・文政年間〔1804～1830〕）、『御山下島分絵図』（安政年間〔1854～1860〕）、『徳島藩御城下絵図』（明治2～3年〔1869～1870〕）といった絵図によれば、本調査地点は江戸時代の元禄期から明治期初めまで継続して、長谷川家の屋敷地内であったことがわ



第 60 図 調査地点の位置

屋敷地割・屋敷主名は『御山下島分絵図』（安政年間、個人蔵）と徳島藩士譜（宮本編 1973）をもとに作成。



第 61 図 調査区南壁土層断面

かる^{註1)}。また、『徳島藩土譜』（宮本編 1973）によれば、この間の長谷川家の祿高は 150 石である。

なお、調査にあたっては、調査区外の南西側に原点をとり、南北軸を真北に合わせ、5 m グリッドを設定した。

2. 基本層序

本調査地点の基本土層は 3 層に分けられる。以下、調査区南壁の土層断面（第 61 図）にもとづいて詳述する。なお、現地表面は標高 0.10 ～ 0.20 m であり、そこから標高 0.00 ～ 0.60 m 辺りまでは近代以降の攪乱を受けている。

I 層：オリーブ褐色 (2.5Y4/3) 細砂～シルトからなる。上面の標高は約 0.00 m、残存厚は 3 ～ 15 cm を測る。近世の整地層と考えられる。

II 層：にぶい黄色 (2.5Y6/4) シルトからなる。上面の標高は 0.10 ～ 0.35 m 前後、厚さは 7 ～ 30 cm を測る。近世の整地層と考えられる。

III 層：オリーブ灰色 (5GY5/1) 細砂～砂からなる。上面の標高は 0.40 m 前後を測る。海成砂からなる地山と考えられる。

本調査地点では、1 層上面を第 1 遺構面、3 層上面を第 2 遺構面、第 1 遺構面と第 2 遺構面の中間を第 1.5 遺構面として遺構検出を実施した。

3. 第 2 遺構面の遺構と遺物（第 62 図）

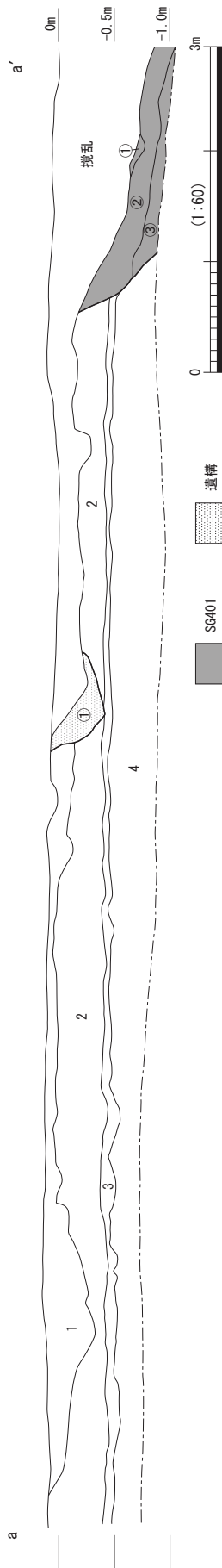
(1) 池状遺構

SG401（第 62 ～ 67 図）

調査区西側中央部に位置する池状遺構である。概報では「落ち込み」として報告した（端野



第 62 図 第 2 遺構面全体図



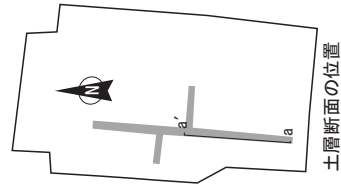
- 1 浅黄色 (2.5Y7/3) 砂質土 木炭径 0.5 cm 微量含む 礫径 0.5 ~ 1.0 cm 少量含む
 - 2 明黄褐色 (2.5Y6/6) 砂質土 黄灰色 (2.5Y5/1) 砂質土 ブロック径 1.0 cm 少量含む
 - 3 灰白色 (2.5Y7/1) 砂質土
 - 4 黄灰色 (2.5Y6/1) 砂
- * 調査区南壁土層断面 (基本土層) との対応 1→I 2→II 3・4→III

[SG401]

- ① 黄灰色 (2.5Y6/1) 砂質土 灰白色 (2.5Y7/1) 粘質土
土ブロック径 0.5 ~ 3.0 cm 含む 礫径 2.0 cm 微量含む
- ② 黄灰色 (2.5Y4/1) 砂質土 木質径 5.0 cm ・ 礫径
0.5 ~ 2.0 cm 多量含む
- ③ 黄灰色 (2.5Y4/1) 砂質土 黄灰色 (2.5Y6/1) 砂質
土ブロック幅 2.0 ~ 3.0 cm ラミナ状に含む 木質径
5.0 ~ 20.0 cm 多量含む

【遺構】

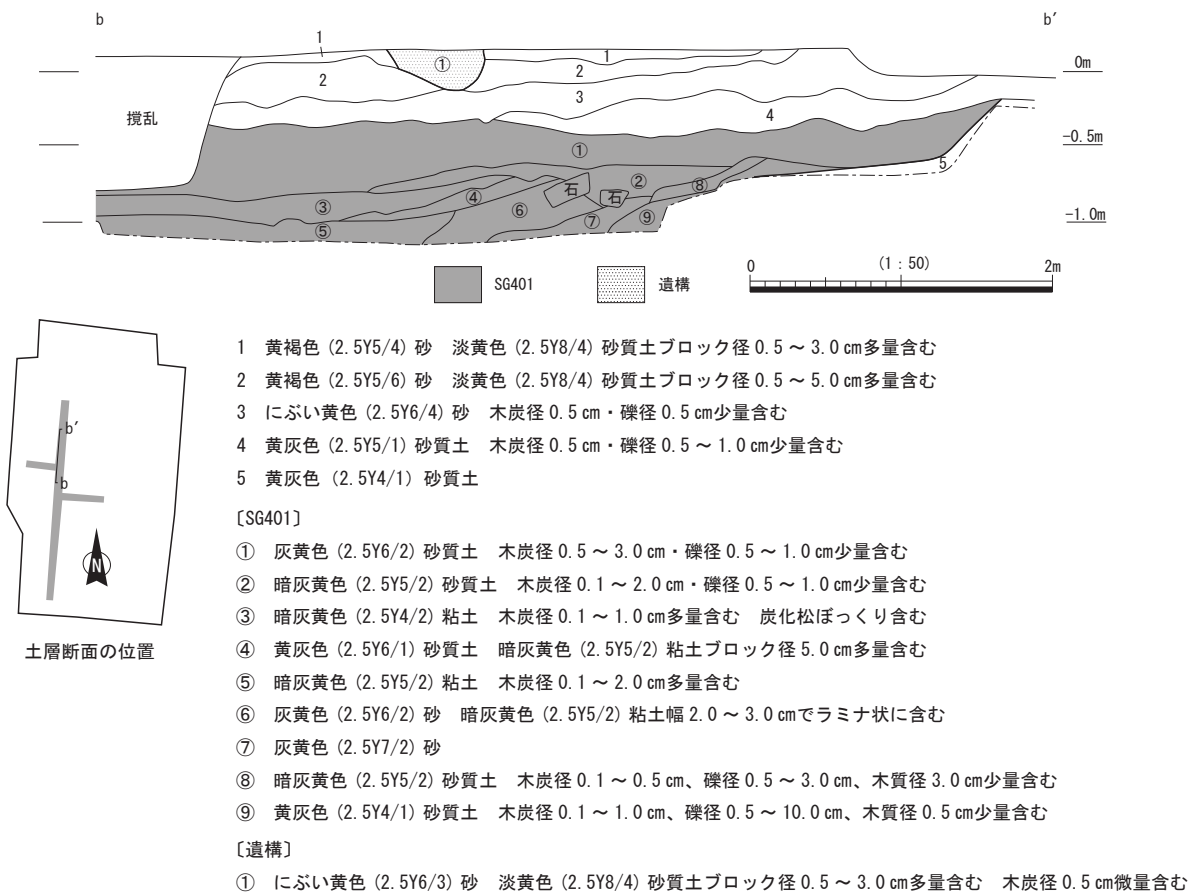
- ① 灰黄色 (2.5Y6/2) 砂質土 土器片径 0.5 cm ・ 礫径
0.5 cm 微量含む



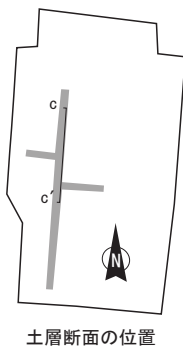
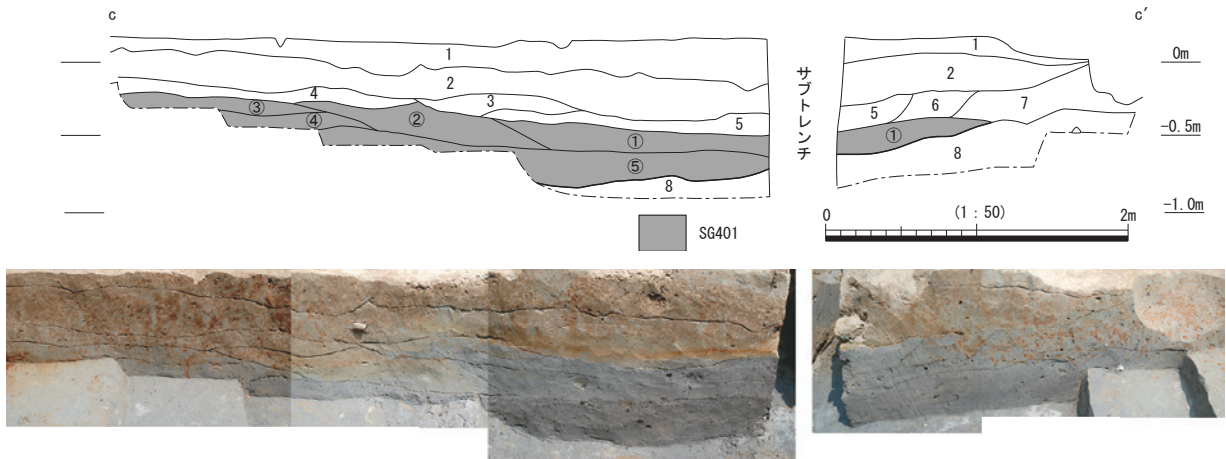
土層断面の位置



第 63 図 SG401 土層断面 a-a'



第 64 図 SG401 土層断面 b-b'

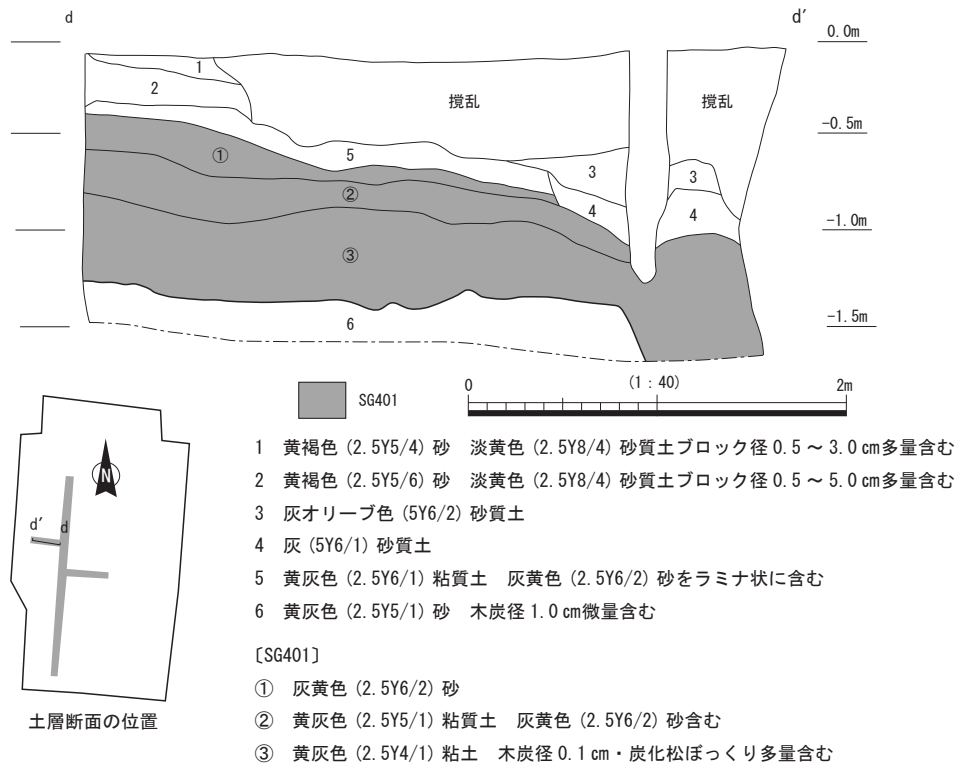


- 1 灰黄色 (2.5Y7/2) 砂 淡黄色 (2.5Y8/4) 砂質土ブロック径 1.0 ~ 5.0 cm 多量含む 木炭径 0.1 ~ 1.0 cm 少量含む
- 2 黄褐色 (2.5Y5/4) 砂質土 淡黄色 (2.5Y8/4) 砂質土ブロック径 1.0 ~ 5.0 cm 多量含む
- 3 黄灰色 (2.5Y5/1) 砂 黄灰色 (2.5Y6/1) 粘質土ブロック径 1.0 ~ 3.0 cm 少量含む 木炭径 0.1 ~ 0.5 cm 少量含む 礫径 0.5 cm・瓦片径 5.0 cm 微量含む
- 4 灰黄褐色 (10YR6/2) 砂 灰黄色 (2.5Y7/2) 砂質土ブロック径 1.0 ~ 3.0 cm 少量含む 木炭径 0.1 ~ 0.5 cm 少量含む
- 5 黄灰色 (2.5Y6/1) 粘質土 黄灰色 (2.5Y5/1) 砂ブロック径 20.0 cm 少量含む 木炭径 0.1 ~ 0.5 cm、炭化松ぼっくり少量含む
- 6 褐灰色 (10YR6/1) 砂質土 黄褐色 (2.5Y5/4) 砂ブロック径 10.0 cm 含む 木炭径 0.5 cm 少量含む
- 7 明褐灰色 (7.5YR7/1) 砂質土 黄褐色 (2.5Y5/4) 砂ブロック径 5.0 ~ 10.0 cm 含む 木炭径 1.0 cm・礫径 1.0 ~ 3.0 cm 少量含む
- 8 黄灰色 (2.5Y5/1) 砂質土 黄灰色 (2.5Y4/1) 粘土ブロック幅 1.0 cm が帯状に水平方向で伸びる 木炭径 0.5 ~ 2.0 cm 少量含む

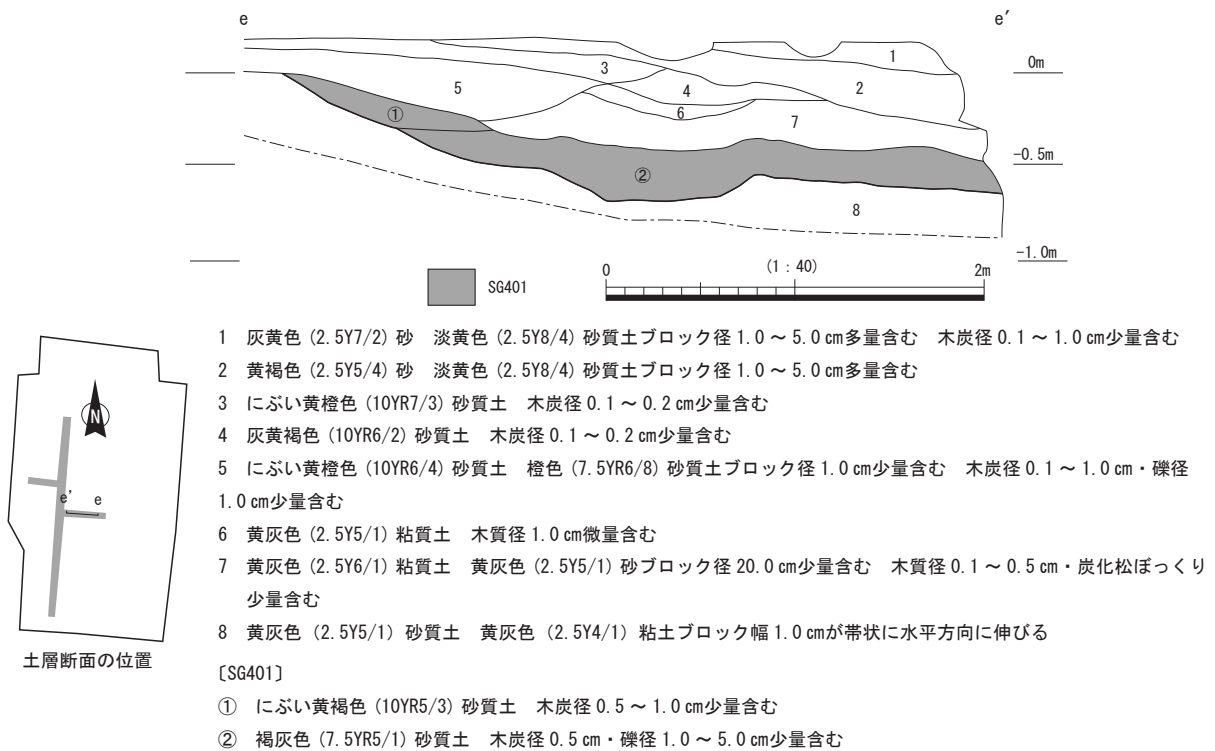
[SG401]

- ① 褐灰色 (7.5YR5/1) 砂質土 木炭径 0.5 cm・礫径 1.0 ~ 5.0 cm 少量含む
- ② 灰黄色 (2.5Y6/2) 砂 木炭径 0.1 cm・礫径 0.5 cm 少量含む
- ③ 黄灰色 (2.5Y6/1) 砂質土 木炭径 0.1 cm 少量含む
- ④ 黄灰色 (2.5Y5/1) 砂質土 木炭径 0.1 cm 微量含む
- ⑤ 黄灰色 (2.5Y4/1) 粘土 黄灰色 (2.5Y5/1) 砂ブロック帯状に含む 木炭径 0.1 ~ 2.0 cm 多量含む 炭化松ぼっくり含む

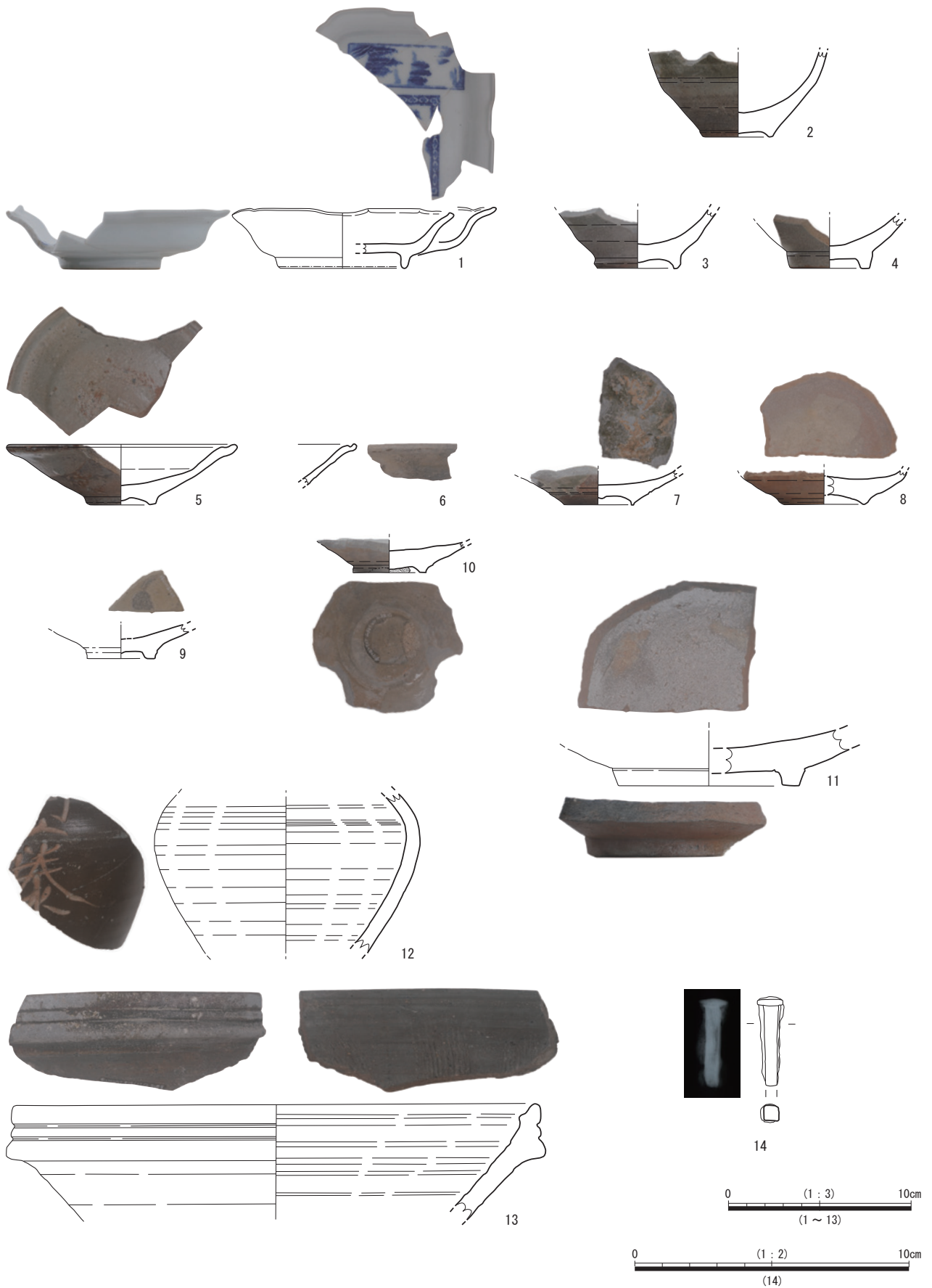
第 65 図 SG401 土層断面 c-c'



第 66 図 SG401 土層断面 d-d'



第 67 図 SG401 土層断面 e-e'



第68図 SG401 出土遺物

第17表 SG401 遺物観察表

報告番号	胎質	器種	生産地	口径 (cm)	底径・摘み径 (cm)	器高 (cm)	成形技法	釉薬	絵付	装飾技法	銘・刻印・墨書	胎土色	遺構・層位	備考
1	磁器	皿	肥前系	—	(6.8)	3.3	型打	透明釉	染付 (酸化コバルト)	銅版転写		灰白色 N8/ (白色味強い)	SG401 石組み間	輪花、1887年～
2	陶器	碗	肥前系	—	3.8	—	ロクロ	灰釉 (底部除く)				灰白色 2.5Y8/1	SG401 ④	17世紀前葉
3	陶器	碗	肥前系	—	(4.4)	—	ロクロ	灰釉 (底部除く)				灰白色 5Y7/1	SG401 ⑨	17世紀前葉
4	陶器	碗	肥前系	—	4.4	—	ロクロ	灰釉 (壘付除く)				灰褐色 5YR6/2	SG401 ③	17世紀前葉
5	陶器	皿	肥前系	(12.4)	3.8	3.3	ロクロ	灰釉 (底部除く)				灰白色 5Y7/1 (灰色味強い) にぶい橙色 2.5YR6/4	SG401 ⑤	灰釉溝縁皿、見込砂目、1610～1640年代
6	陶器	皿	肥前系	—	—	—	ロクロ	灰釉				にぶい黄橙色 10YR7/3	SG401 石組み間	灰釉溝縁皿、1610～1640年代
7	陶器	皿	肥前系	—	3.8	—	ロクロ	灰釉 (底部除く)				褐色 10YR6/1	SG401 石組み間	見込胎土目跡、1594年頃～1610年代
8	陶器	皿	肥前系	—	(4.9)	—	ロクロ	灰釉 (内面)				浅黄橙色 7.5YR8/4	SG401 ⑧	見込蛇目/目触ぎ?、釉剥ぎ部分に砂目(アルミナ砂?)跡?、1650～1690年代
9	陶器	皿	肥前系	—	(3.7)	—	ロクロ	灰釉 (内面)				淡黄色 2.5Y8/3	SG401 石組み間	見込砂目、高台縁～壘付スス付着、1610～1690年代
10	陶器	皿	肥前系	—	4.0	—	ロクロ	灰釉 (底部除く)				褐色 10YR6/1	SG401 石組み間	高台内砂付着
11	陶器	鉢	肥前系	—	(10.0)	—	ロクロ	灰釉 (内面)				にぶい橙色 2.5YR6/4	SG401 ⑥	見込砂目
12	陶器	瓶	大谷	—	—	—	ロクロ	鉄釉 (外面)				陰刻「一藤」 (外面肩部)	SG401 石組み間	19世紀
13	陶器	播鉢	備前系	(28.5)	—	—	ロクロ					灰褐色 5YR6/2	SG401 ⑩	スリメ11条/単位、口縁部外面黄ゴマ、乗岡近世2a期(17世紀前葉) 胴部外面・強い回転ナデ

「—」は、「不明」を示す。()内の数字は、残存部から復元した数値を示す。
備考欄に記載した年代は、生産地における製作年代を示す。
遺構・層位欄の丸数字は、第73・74図と対応する。

報告番号	遺物名	最大長 (cm) *	最大幅 (cm) *	最大厚 (cm) *	重量 (g) *	材質 **	遺構・層位	備考
14	釘	[3.2]	0.9 (頭部)	0.7 (身部)	[3.46]	鉄	SG401	身部断面方形。

* [] は残存部のサイズを示す。重量は錆びを含む。
** 肉眼観察による。

2015)。しかし、絵図をみると、本調査地点のすぐ西側には道路が南北に走っており、この遺構の平面プランは長谷川家の屋敷地内で完結するものとみなせる。したがって、ここでは人為的な営力による「池状遺構」として報告する。遺構全体が検出できたわけではないが、平面形は隅丸方形あるいは長方形と思われ、南北12.8m、東西9.6mを測る。湧水のため、底面まで完掘できなかったが、断面形は遺構の肩から中央に向かって緩やかに傾斜し、中央部で急に深く落ち込む。深さは1.4m以上である。埋土は、土層断面d-d'で、①層が灰黄色砂、②層が黄灰色粘質土、③層が黄灰色粘土である。

遺物は、肥前系磁器、肥前系陶器、備前系陶器、大谷焼、土師質土器、瓦、貝などが少量、埋土から出土した。ここでは、製作年代が明らかなものや生産地・器種が把握し得、かつ残存率が比較的高いものを中心に図化した(第68図・第17表)。遺物の時期は、16世紀末から近代にかけてと幅広いが、なかでも17世紀前葉のものが多い。本遺構の掘削時期の決め手となり得るのは、これら遺物のうち、内部の石組み遺構(SX402)の構築に伴い、埋没したとみなせるものである。石組みの下や隙間から出土した肥前系陶器の碗(第68図3)と備前系陶器の播鉢(第68図13)が、これに該当する。これらの製作年代は17世紀前葉であることから、本遺構はその時期に掘削されたものとみなせる。後述するSX402盛土から出土した遺物の製作年代もまた、この見解に矛盾しない。

では、埋没時期はどうか。本遺構からは、17世紀代の遺物のほか、19世紀代の大谷焼の瓶(第68図12)、19世紀末以降のものともみなせる肥前系磁器の皿(第68図1)も出土した。このうち肥前系磁器は、本遺構の埋没時期を示す重要な遺物である。17世紀前葉に掘削された本遺構は、その後、3世紀近くわたって屋敷地の一角で池としての機能を有し、明治期の武家屋敷廃絶後に埋没したもの

とみなせよう。土層断面 a-a'（第63図）をみると、基本土層Ⅱ層（2層）の上方から、本遺構の肩が下りていることがわかる。このことは、整地層であるⅡ層の堆積後に、この遺構が埋没したことを示しており、ここでの主張を裏づける事実といえる。

なお、本遺構は第2遺構面で検出したが、先述の通り、出土遺物には近代まで下るものも含まれ、本来は第1遺構面で調査すべきものであった。こうしたことの原因は当初、調査区の西側は近代以降の攪乱のため、破壊されているとみて、調査範囲から外してしまい、包含層を掘り下げるまで、この遺構の存在を正しく認識し得ていなかったことによる。

ところで、常三島地区で確認されている大規模な溝を、治水対策の一環としての排水溜めの「調整池」とみなす見解（北條2006）がある。本遺構も洪水時にはそうした機能を有した可能性がある。

（2）石組み遺構

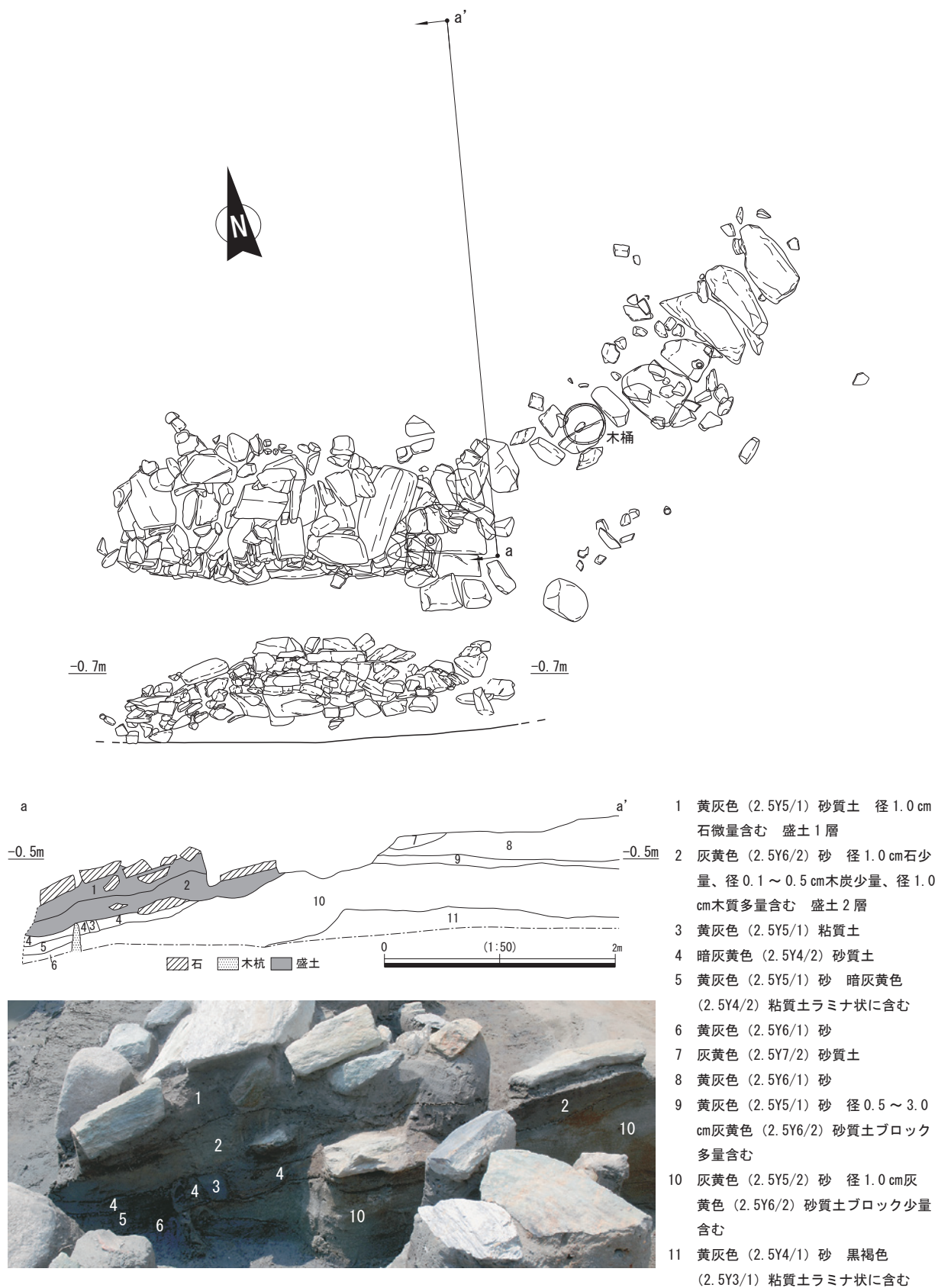
SX402（第69～74図）

調査区西側に位置するSG401の斜面から底面にかけての場所で検出された石組み遺構である。この遺構は、緑色片岩（通称・青石）を含む10～80cm大の石からなり、大きくみて、SG401の北東付近から南西方向へと石が階段状に並べられた部分（階段状部分）と、SG401の底面に大小の石が東西方向で数段にわたって積み重ねられた部分（積石状部分）とに分けられる。石の分布範囲は、階段状部分で長さ2.8m、幅0.9m、積石状部分で長さ3.5m、幅1.3mを測る。石の高さは、階段状部分の最も高いところで標高0.16m、積石状部分の最も低いところで標高-1.30mである。階段状部分の南西端の石を除去すると、木桶が検出された（第72・76～82図）。また、積石状部分の石を除去すると、盛土が検出された。さらに、盛土を除去する過程で、数本の木杭が現れた。これらは積石を構築する前の基礎となった構造物と理解される。

盛土は、黄灰色砂質土の1層と灰黄色砂の2層とに分層できる。1層からは肥前系？陶器、瀬戸・美濃系陶器が、2層からは肥前系磁器、肥前系陶器、備前系陶器、瓦質？土器、土師質土器、瓦、砥石、碁石、貝？などが少量出土した。ほかに盛土からは、松かさ、土師質土器も出土した。ここでは、製作年代が明らかなものや生産地・器種が把握し得、かつ残存率が比較的高いものを中心に図化した（第75図・第18表）。これらの遺物のうち、肥前系陶器の皿（第75図1）、肥前系陶器の皿？（第75図2）、肥前系陶器の鉢（第75図3）の製作年代はいずれも、17世紀代である。SG401で述べたように、石組みの下や隙間から出土した遺物の製作年代からみて、本遺構もまた、17世紀前葉に構築されたとみなせる。

なお、上述した木桶のタガ（タケ亜科）の炭素年代測定を行った結果、15世紀後半～17世紀前半の年代が得られた（第4章第3節）。この結果は、出土遺物の製作年代からみた本遺構の構築時期よりも、古い年代までさかのぼる可能性を含んでいるものの、矛盾するものではない。

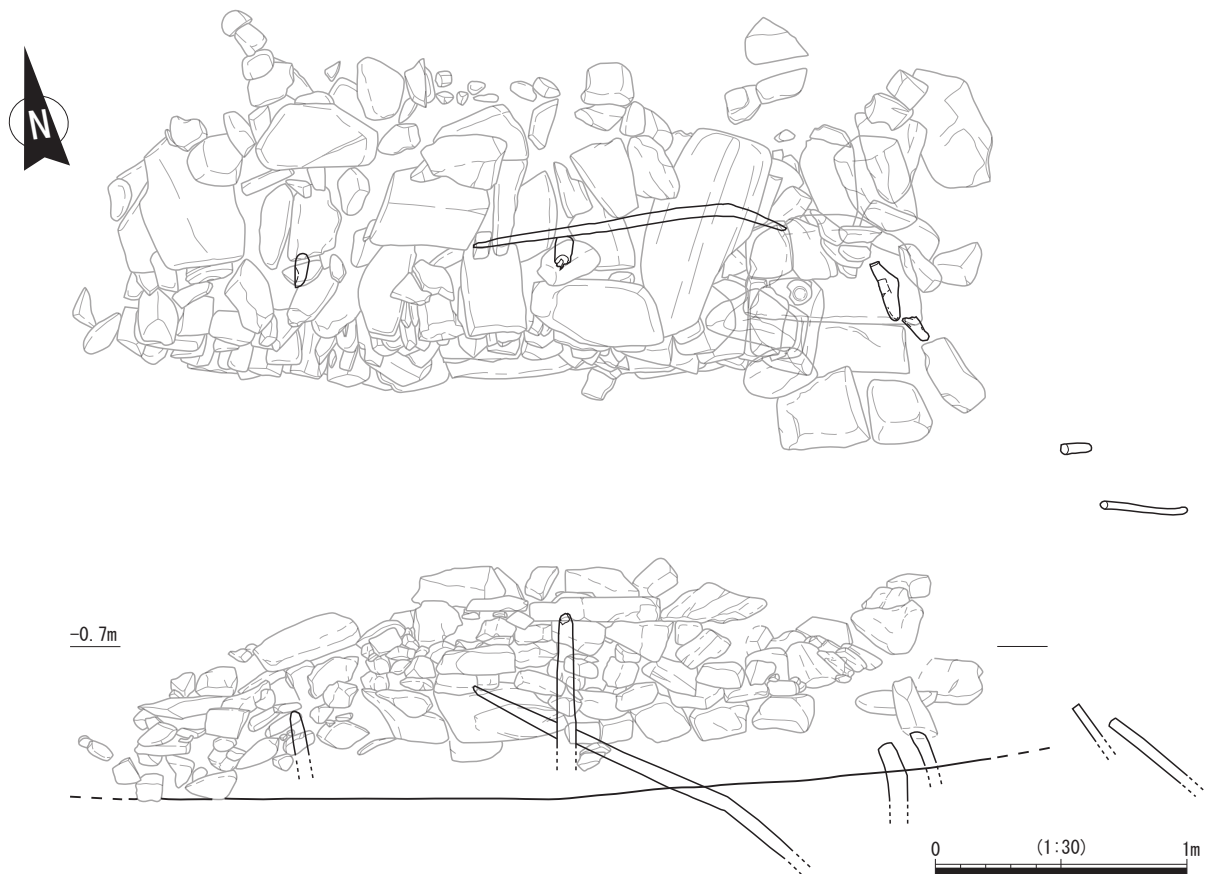
では、この遺構の用途についてはどうであろうか。SG401の底面のレベルは、標高-1.30mにも達し、調査中はウェルポイントで排水を行っていたにもかかわらず、湧水を止めることはできなかった。過去に多少の海水準変動はあったとしても、SG401の中には埋没前、常時、水が溜まっていたものと考えられる。したがって、SG401の中へとつづく、SX402は生活用水を得るための水場へと降りる階段、足場としての用途が推定されよう。ただし、生活用水とは言っても、ここで得られた水には塩分が多



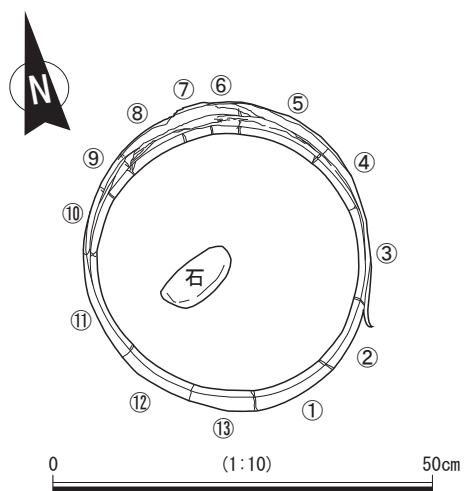
第 69 図 SX402 (1)



第70図 SX402 (2)



第71図 SX402 木杭検出状況



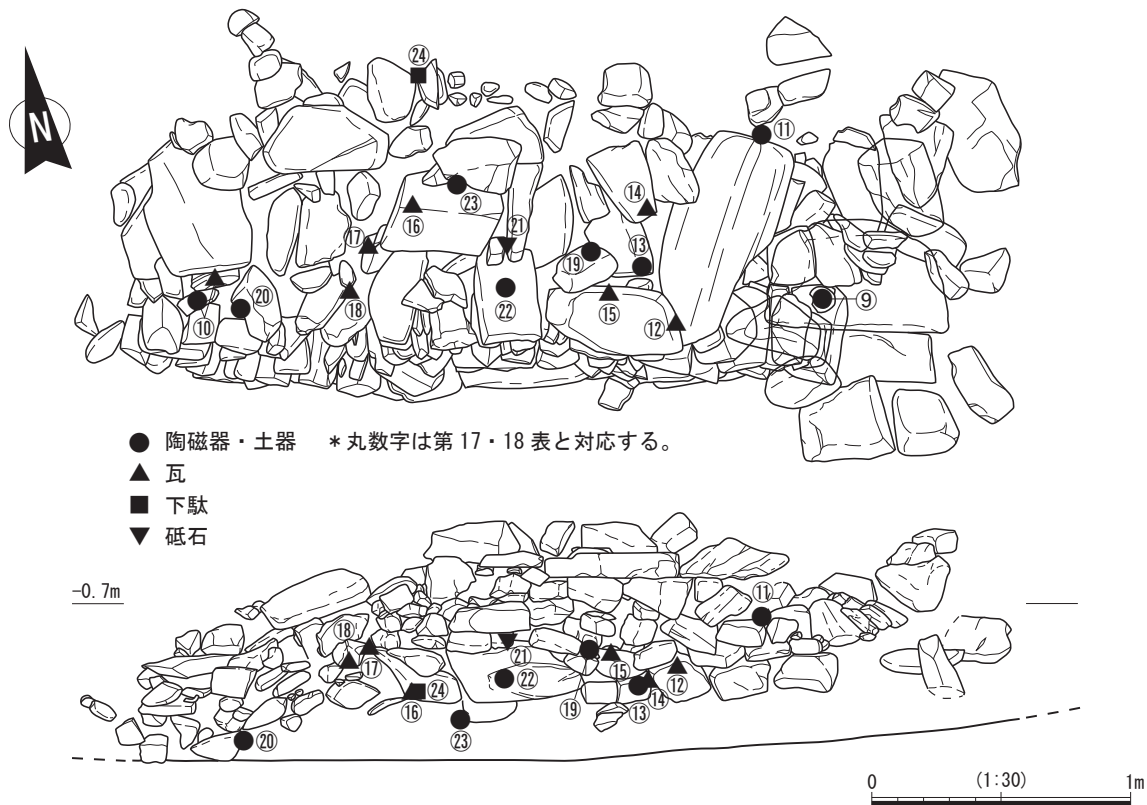
(西から)

第72図 SX402 木桶検出状況

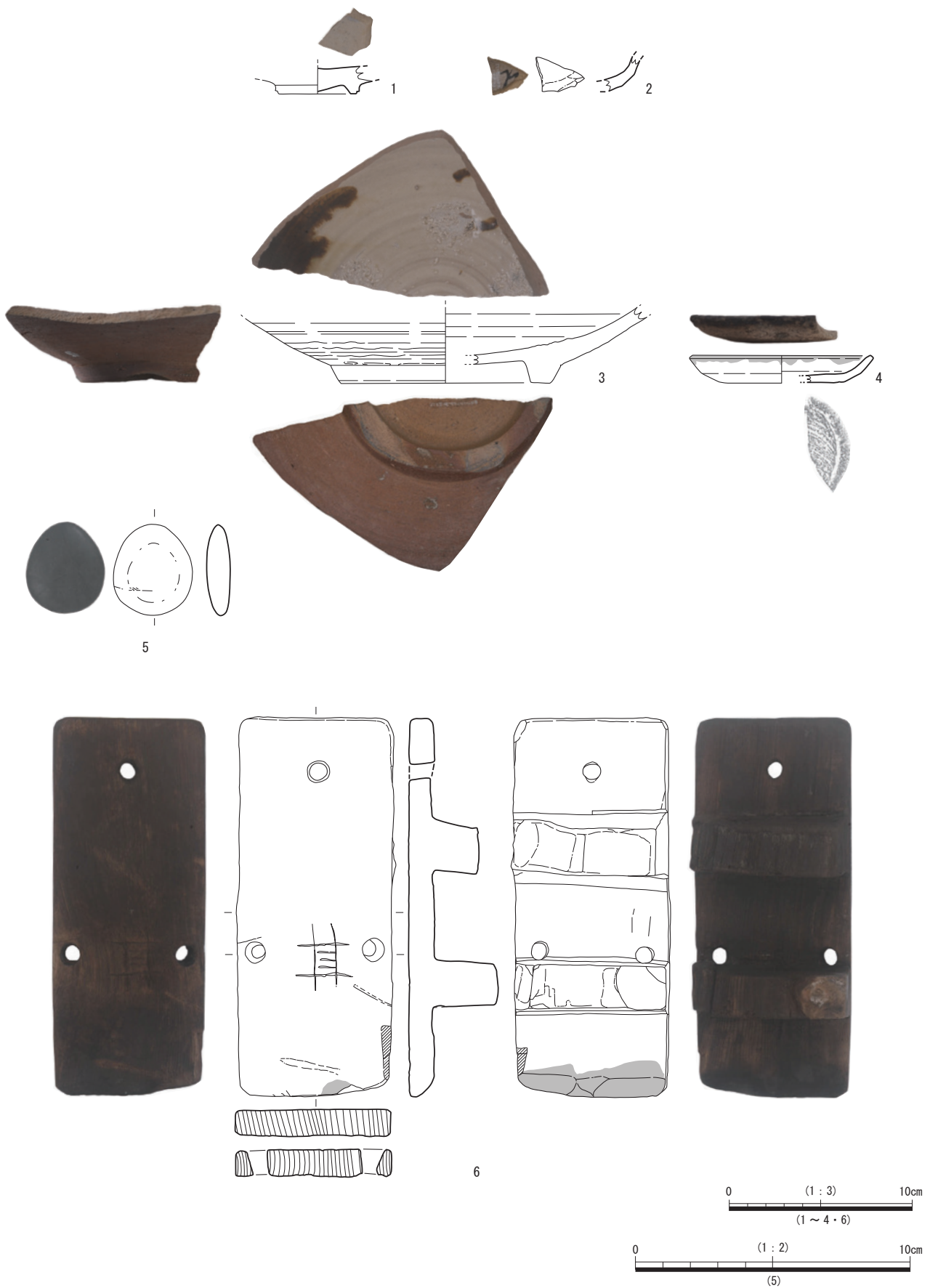
丸数字は第82図の表と対応する。



第73図 SX402 遺物出土状況（階段状部分）



第74図 SX402 遺物出土状況（積石状部分）



第75図 SX402 盛土出土遺物

第18表 SX402 盛土遺物観察表

報告番号	胎質	器種	生産地	口径 (cm)	底径・摘み径 (cm)	器高 (cm)	成形技法	釉薬	絵付	装飾技法	銘・刻印・墨書	胎土色・含有鉱物	遺構・層位	備考
1	陶器	皿	肥前系	—	(4.2)	—	ロクロ	灰釉 (底部除く)				灰白色 10YR8/2	SX402 盛土	見込砂目、1610～1690年代
2	陶器	皿?	肥前系	—	—	—	ロクロ	灰釉	鉄絵	手描き		淡黄色 2.5Y8/4	SX402 盛土	絵唐津、17世紀
3	陶器	鉢	肥前系	—	(11.4)	—	ロクロ	透明釉 (内面)	白化粧土 鉄絵	二彩手		にぶい橙色 7.5YR7/3	SX402 盛土⑳	見込砂目、畳付に胎土目をはずす際に生じた欠損あり?、17世紀前半～
4	土師質土器	皿	—	(9.7)	(6.8)	1.5	ロクロ					浅黄橙色 7.5YR8/3 長石・黒色粒 (極小、少量)	SX402 盛土⑲	灯芯油痕、外・内面スス付着 外面：右回転糸切り離し (底部)、回転ナデ 内面：回転ナデ、ナデ

「—」は、「不明」を示す。()内の数字は、残存部から復元した数値を示す。
含有鉱物は、土器のみ記載。備考欄に記載した年代は、生産地における製作年代を示す。
遺構・層位欄の丸数字は、第74図と対応する。

報告番号	遺物名	最大長 (cm) *	最大幅 (cm) *	最大厚 (cm) *	重量 (g) *	石材 **	遺構・層位	備考
5	基石	3.3	2.9	0.9	11.79	頁岩	SX402 盛土2層	

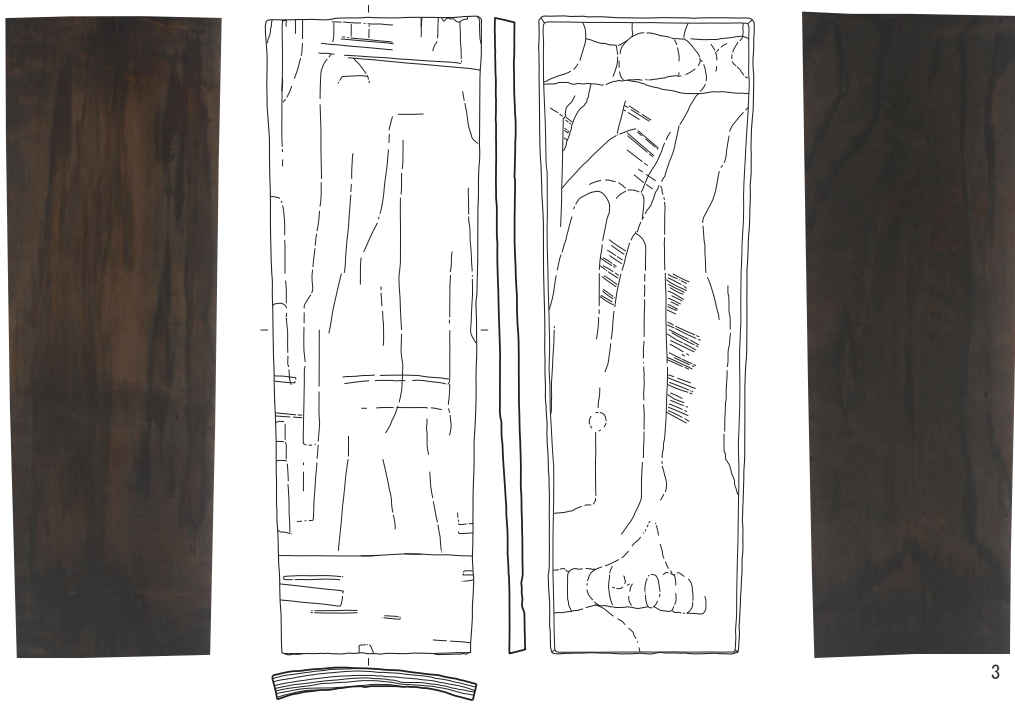
* [] は残存部のサイズ・重量を示す。
** 肉眼観察による。

報告番号	遺物名	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	遺構・層位	備考
6	下駄	20.7	8.5	4.9 (高さ) 1.4 (台部)	SX402 ㉔	台と歯を一木でつくる連歯下駄 (町田・上原編 1985)。前壺を台の中央にあげ、後壺を歯の内側にあげる。歯は台と同じ幅で、断面は方形である。下駄の平面形は長方形である。下面の歯と台の境界に直線的な切り込みがみられる。台の上面に陰刻で記号あるいは文字が施される。台の後端部が焼け炭化する。

遺構・層位欄の丸数字は、第74図と対応する。

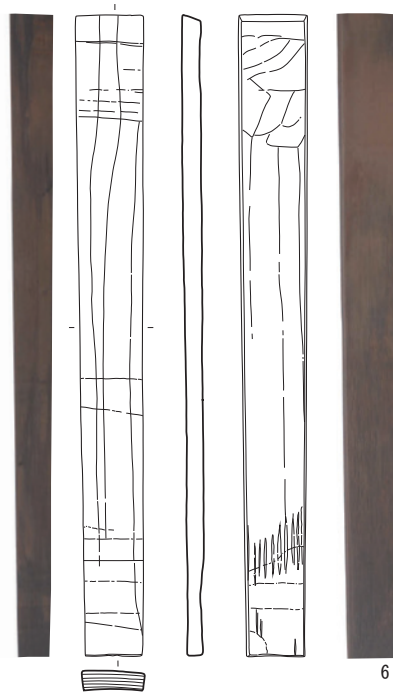
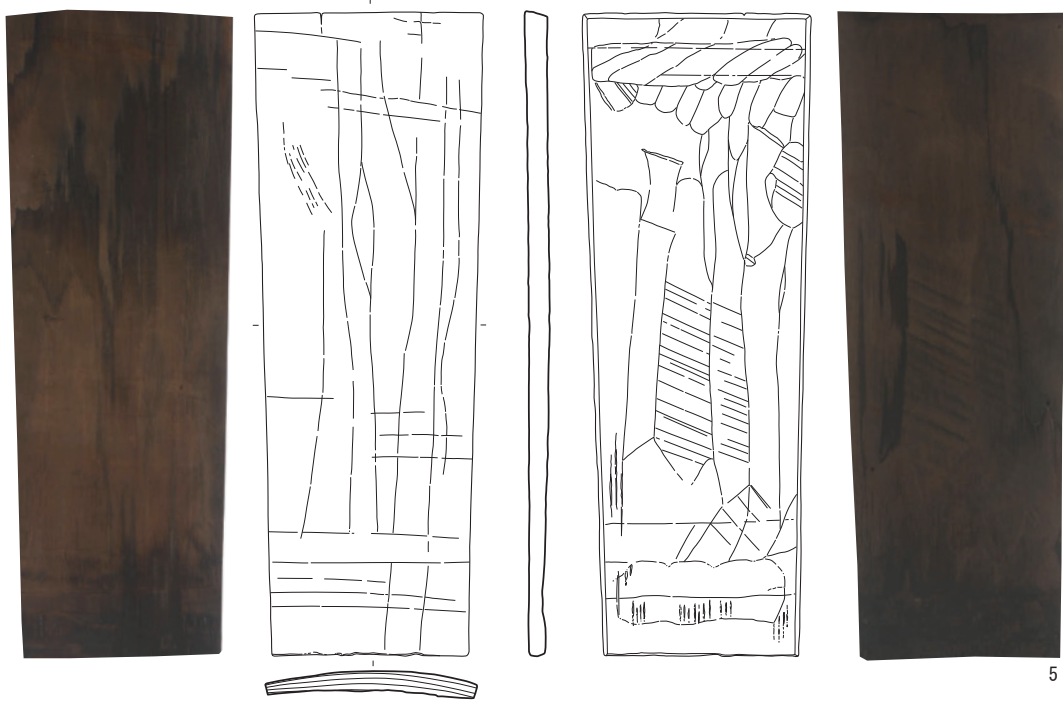


第76図 SX402 出土遺物 (1)



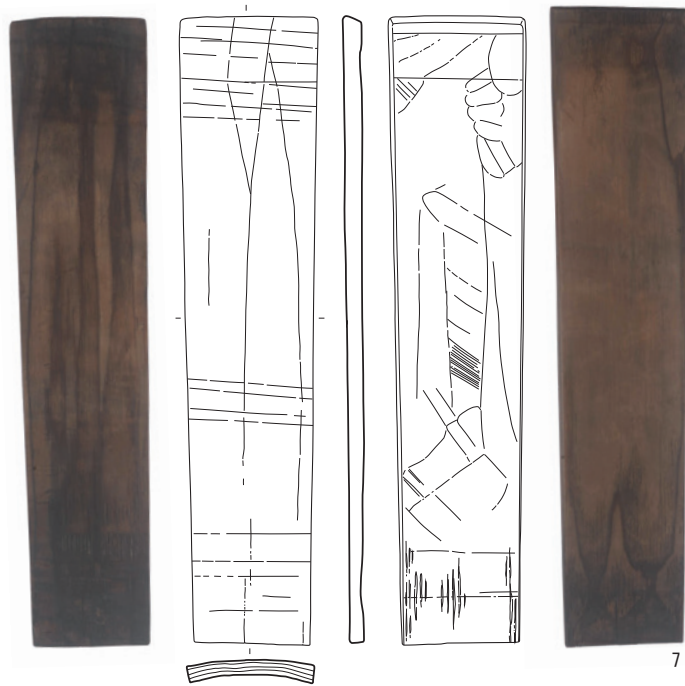
0 (1 : 4) 10cm

第77図 SX402 出土遺物 (2)



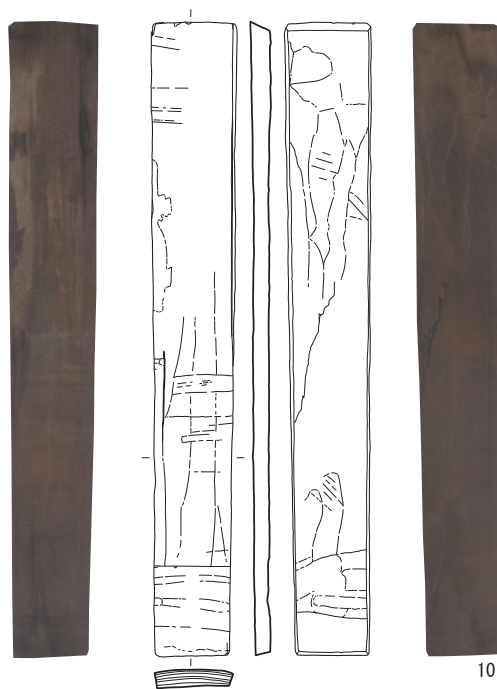
0 (1 : 4) 10cm

第78図 SX402 出土遺物 (3)



0 (1 : 4) 10cm

第79図 SX402 出土遺物 (4)



0 (1 : 4) 10cm

第80図 SX402 出土遺物 (5)



第81図 SX402 出土遺物 (6)



報告番号	遺物名	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	造構・層位	備考
1	桶側板①	33.7	11.5	1.1	SX402	側板外面に箍痕が上端・中位・下端の3段にみられる。側板内面の下位に、底板をはめる溝が手斧で形成される。側板内面の上端に、手斧痕がみられる。側板内外面に鋸痕、鉋痕がみられる。側板外面の下位に切り込みがめぐる。
2	桶側板②	33.8	11.8	1.1	SX402	
3	桶側板③	33.7	11.5	1.0	SX402	
4	桶側板④	33.7	11.1	1.1	SX402	
5	桶側板⑤	33.6	11.9	1.2	SX402	
6	桶側板⑥	33.5	3.6	1.0	SX402	
7	桶側板⑦	33.3	7.3	1.0	SX402	
8	桶側板⑧	33.6	3.4	1.0	SX402	
9	桶側板⑨	33.3	2.1	0.9	SX402	
9	桶側板⑩	33.5	7.9	1.0	SX402	
10	桶側板⑪	33.7	4.5	1.1	SX402	
11	桶側板⑫	33.6	10.6	1.1	SX402	
12	桶側板⑬	33.7	11.9	1.1	SX402	
13	桶側板⑭	33.8	11.3	1.2	SX402	
14	桶側板⑮	33.8	11.3	1.1	SX402	

遺物名欄の丸数字は第72図と対応する。

第82図 SX402 出土遺物 (7)

く含まれるため、飲用には適さなかったであろう。洗濯や入浴、まき水などに用いたのではないか。飲料水は、水売り商人からの入手などが考えられようか^{註2)}。

本調査地点のすぐ東側に位置する第8次調査地点の西半は、長谷川家の屋敷地にあたり、ここでは畑跡が検出されている。当然、農業用水が必要となるが、やはりここで得られた水はそれには適さない。おそらく農業においては、水甕や天水桶のような貯水設備を利用していたと思われる。常三島地区において、飲料水や農業用水をどのように確保していたのかは、今後解明すべき課題である。

(端野晋平)

(3) 溝

SD371 (第84図)

C-4・5区で検出された溝。残存部の長さ2.0m、幅0.6m、深さ0.2m。断面形は楕形。

(4) 土坑

SK330 (第83図)

C・D-3区で検出された土坑。平面形は不整形で、長さ1.2m、幅1.1m、深さ0.4m。断面形は楕形。埋土に0.1m以上の礫が含まれる。

埋土より備前系陶器の播鉢2点(第86図1・2)が出土した。1の顎部をもち張り出しが明瞭な点、口縁部内面の段が明瞭な点、スリメの間隔が粗く口縁部まで及ばずナナメ方向のスリメを有する点、体部外面にヘラケズリが認められずロクロメが明瞭な点、胎土に黒色鉍物粒を含む点、断面が(暗)灰色である点、火襷がみられない点、黄ゴマがつく点、口縁部上端・顎部に重ね焼き時の溶着痕がつく点は、乗岡(2002)の近世1c期(17世紀初頭)頃の特徴と一致する。2の底部が不整形で細かな凹凸がみられる点、スリメの間隔が粗くナナメ方向のスリメを有する点、見込みのスリメが*形である点、体部外面にヘラケズリが認められずロクロメが明瞭な点、胎土に黒色鉍物粒を含む点、断面がセピア色・(暗)灰色である点は、乗岡(2002)の近世1c期(17世紀初頭)頃の特徴と一致する。

SK335 (第83図)

C-3区で検出された土坑。平面形は不整形で、直径0.5m、深さ0.1m。断面形はレンズ形。

SK336 (第83図)

C-3区で検出された土坑。平面形は隅丸方形で、長さ0.7m、幅0.4m、深さ0.1m。断面形はレンズ形。

SK346 (第83図)

G-5区で検出された土坑。平面形は不整形楕円形で、長径0.4m、短径0.3m、深さ0.1m。断面形は楕形。

SK347 (第83図)

G-5区で検出された土坑。平面形は不整形楕円形で、長径0.5m、短径0.3m、深さ0.2m。断面形は楕形。

SK348 (第83図)

G-5区で検出された土坑。平面形は円形で、直径0.2m、深さ0.05m。断面形は台形。

SK349 (第83図)

F・G-5区で検出された土坑。平面形は不整形楕円形で、長径0.6m、短径0.4m、深さ0.1m。断面形はレンズ形。

SK350 (第83図)

F-5区で検出された土坑。平面形は不整形円で、直径0.3m、深さ0.1m。断面形はレンズ形。

SK351 (第83図)

F-5区で検出された土坑。平面形は楕円形で、長径0.3m、短径0.2m、深さ0.1m。断面形はレンズ形。

SK352 (第83図)

F-5区で検出された土坑。平面形は楕円形で、長径0.3m、短径0.2m、深さ0.1m。断面形はレンズ形。

SK353 (第83図)

F-5区で検出された土坑。平面形は不整形楕円形で、長径0.3m、短径0.2m、深さ0.1m。断面形はレンズ形。

SK354 (第83図)

E-5区で検出された土坑。平面形は楕円形で、長径0.3m、短径0.2m、深さ0.1m。断面形は楕形。

SK355 (第83図)

F-5区で検出された土坑。平面形は楕円形で、長径0.6m、短径0.4m、深さ0.2m。断面形は楕形。埋土に0.1m以上の礫が含まれる。

SK356 (第83図)

F-5区で検出された土坑。平面形は円形で、直径0.3m、深さ0.1m。断面形はレンズ形。埋土に0.1m以上の礫が含まれる。

SK357 (第83図)

F-4区で検出された土坑。平面形は円形で、直径0.3m、深さ0.1m。断面形は楕形。

SK358 (第83図)

F-4区で検出された土坑。平面形は楕円形で、長径0.5m、短径0.4m、深さ0.1m。断面形はレンズ形。

SK359 (第83図)

F-4区で検出された土坑。平面形は円形で、直径0.3m、深さ0.1m。断面形は楕形。

SK360 (第83図)

F-3区で検出された土坑。平面形は円形で、直径0.2m、深さ0.1m。断面形はレンズ形。

SK361 (第83図)

F-3区で検出された土坑。平面形は不整形円で、直径0.5m、深さ0.3m。断面形は楕形。埋土に0.1m以上の礫が含まれる。

SK362 (第83図)

F-3区で検出された土坑。平面形は楕円形で、長径0.4m、短径0.3m、深さ0.1m。断面形は楕形。

SK387 (第83図)

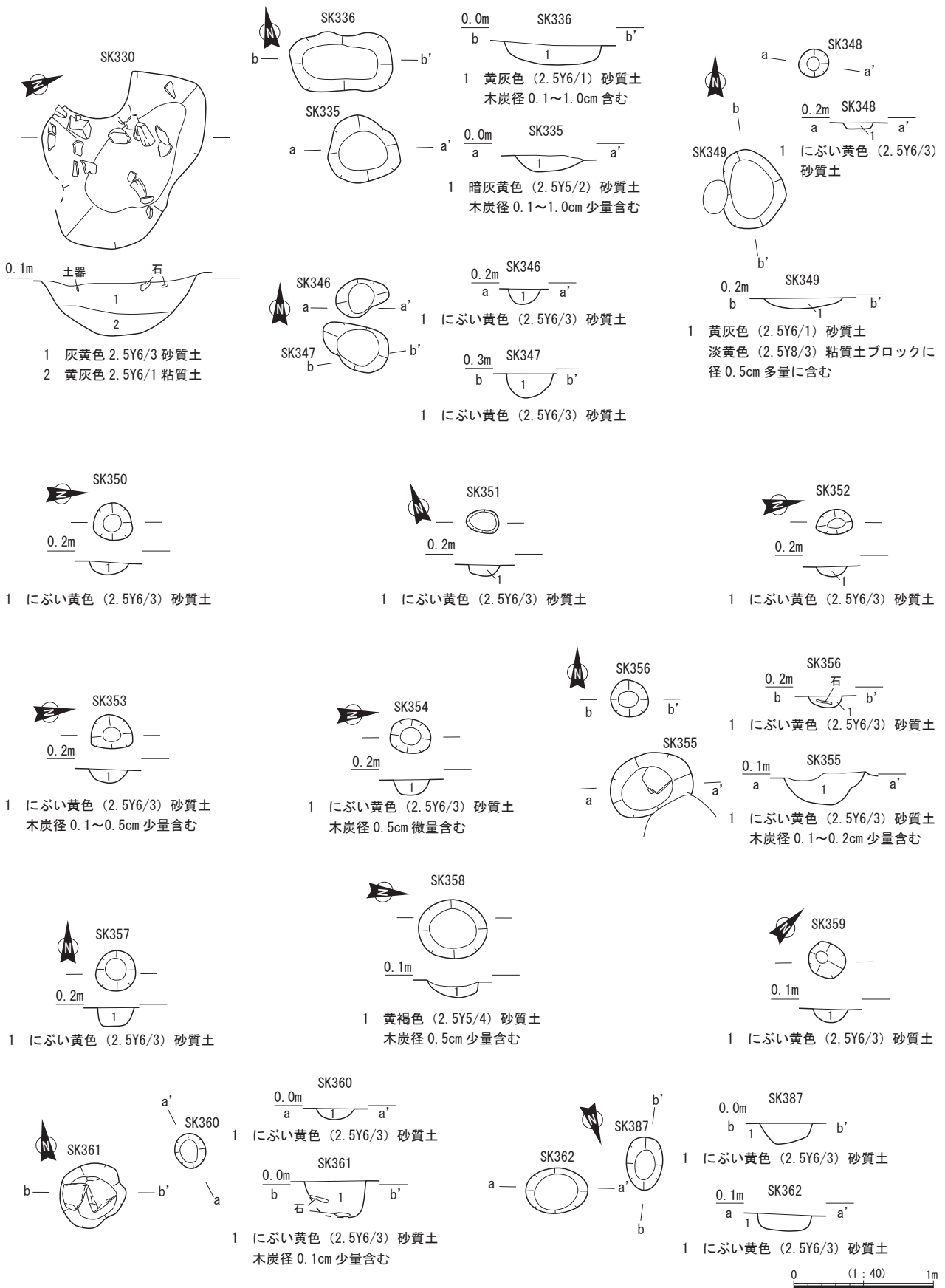
F-3区で検出された土坑。平面形は楕円形で、長径0.4m、短径0.3m、深さ0.1m。断面形は楕形。

SK363 (第84図)

F・G -3区で検出された土坑。平面形は楕円形と推定され、残存部の長径0.6m、短径0.3m、深さ0.2m。断面形は楕形と推定される。

SK364 (第84図)

F-3区で検出された土坑。平面形は楕円形で、長径0.5m、短径0.4m、深さ0.1m。断面形はレンズ形。



第 83 図 第 2 遺構面検出遺構 (1)

SK365 (第84図)

F・G-2区で検出された土坑。平面形は不整円形で、直径0.7m、深さ0.4m。断面形は台形。

SK366 (第84図)

G-1区で検出された土坑。平面形は円形で、直径0.4m、深さ0.2m。断面形は楕形。

SK367 (第84図)

B・C-4・5区で検出された土坑。平面形は不整円形で、直径0.8m、深さ0.2m。断面形は台形。埋土に0.1m以上の礫が含まれる。SK398を切る。

SK398 (第84図)

B・C-4・5区で検出された土坑。平面形は不整楕円形で、長径1.2m、短径0.8m、深さ0.4m。断面形は台形。埋土に0.1m以上の礫が含まれる。埋土より鉄釘(第87図1)が出土した。SK367に切られる。

SK368 (第84図)

B-4区で検出された土坑。平面形は円形で、直径1.1m、深さ0.2m。断面形はレンズ形。

SK369 (第84図)

B-4区で検出された土坑。平面形は円形で、直径0.3m、深さ0.1m。断面形は楕形。

SK370 (第84図)

B-3・4区で検出された土坑。平面形は不整楕円形で、長径0.5m、短径0.4m、深さ0.1m。断面形はレンズ形。埋土に0.1m以上の礫が含まれる。

SK372 (第84図)

D-4・5区で検出された土坑。平面形は不整楕円形で、長径1.2m、短径0.5m、深さ0.2m。断面形は不整レンズ形で、西肩は垂直に立ち上がる。SK393に切られる。

SK393 (第84図)

D-5区で検出された土坑。平面形は楕円形で、長径0.5m、短径0.3m、深さ0.05m。断面形はレンズ形。SK372を切る。

SK373 (第84図)

D-4区で検出された土坑。平面形は楕円形で、長径0.4m、短径0.3m、深さ0.1m。断面形はレンズ形。

SK374 (第84図)

D-4区で検出された土坑。平面形は楕円形で、長径0.4m、短径0.3m、深さ0.1m。断面形は楕形。

SK375 (第84図)

D・E-4区で検出された土坑。平面形は楕円形で、長径0.7m、短径0.5m、深さ0.1m。断面形は不整レンズ形。

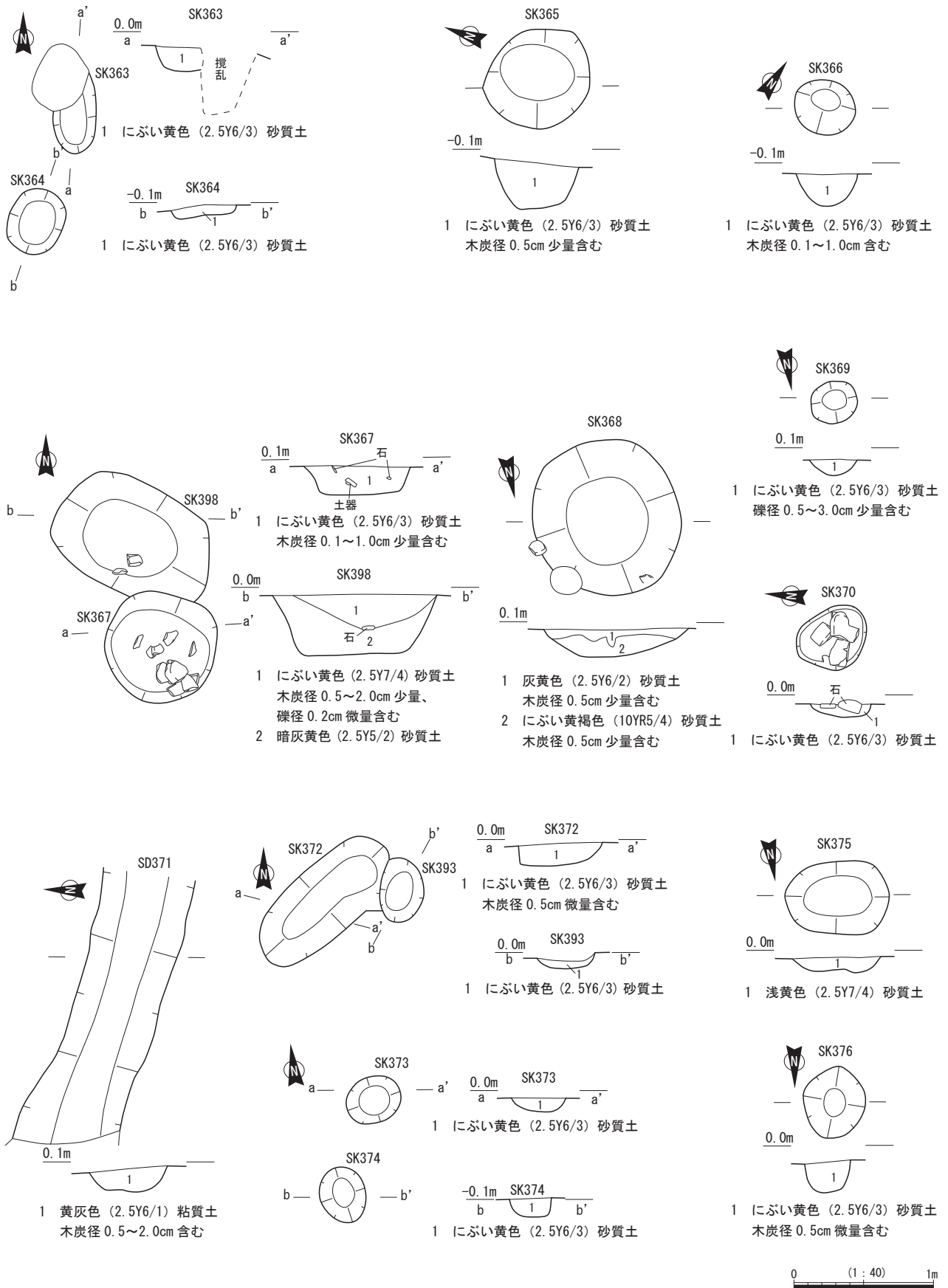
SK376 (第84図)

D-3区で検出された土坑。平面形は不整円形で、直径0.5m、深さ0.2m。断面形は楕形。

SK377 (第85図)

D-3区で検出された土坑。平面形は楕円形で、長径0.5m、短径0.4m。深さ0.3m。断面形はU字形。

SK378 (第85図)



第 84 図 第 2 遺構面検出遺構 (2)

C-3区で検出された土坑。平面形は不整円形で、直径0.8m、深さ0.1m。断面形はレンズ形。SK379を切る。

SK379 (第85図)

C-3区で検出された土坑。平面形は不整楕円形で、長径0.8m、短径0.6m、深さ0.1m。断面形はレンズ形と推定される。SK378に切られる。

SK380 (第85図)

C-3区で検出された土坑。平面形は不整楕円形で、長径1.6m、短径0.9m、深さ0.1m。断面形はレンズ形。埋土に0.1m以上の礫が含まれる。

SK381 (第85図)

F-4区で検出された土坑。平面形は不明で、残存部の長さ0.4m、幅0.3m、深さ0.3m。断面形はU字形。

SK382 (第85図)

F-4区で検出された土坑。平面形は円形で、直径0.3m、深さ0.1m。断面形はレンズ形。

SK383 (第85図)

F-4区で検出された土坑。平面形は円形で、直径0.2m、深さ0.2m。断面形はU字形。

SK384 (第85図)

F-4区で検出された土坑。平面形は円形で、直径0.2m、深さ0.2m。断面形はU字形。

SK385 (第85図)

F-4区で検出された土坑。平面形は楕円形と推定され、残存部の長径0.2m、短径0.2m、深さ0.1m。断面形はレンズ形。

SK386 (第85図)

F-4区で検出された土坑。平面形は楕円形で、長径0.4m、短径0.3m、深さ0.2m。断面形は楕形。

SK388 (第85図)

F・G-3区で検出された土坑。平面形は不整円形で、直径0.6m、深さ0.3m。断面形は楕形。埋土に0.1m以上の礫が含まれる。

SK389 (第85図)

F-3区で検出された土坑。平面形は円形で、直径0.2m、深さ0.1m。断面形は楕形。

SK390 (第85図)

E-3区で検出された土坑。平面形は円形で、直径0.4m、深さ0.1m。断面形はレンズ形。

SK391 (第85図)

D-3区で検出された土坑。平面形は楕円形で、長径0.8m、短径0.7m、深さ0.2m。断面形は楕形。

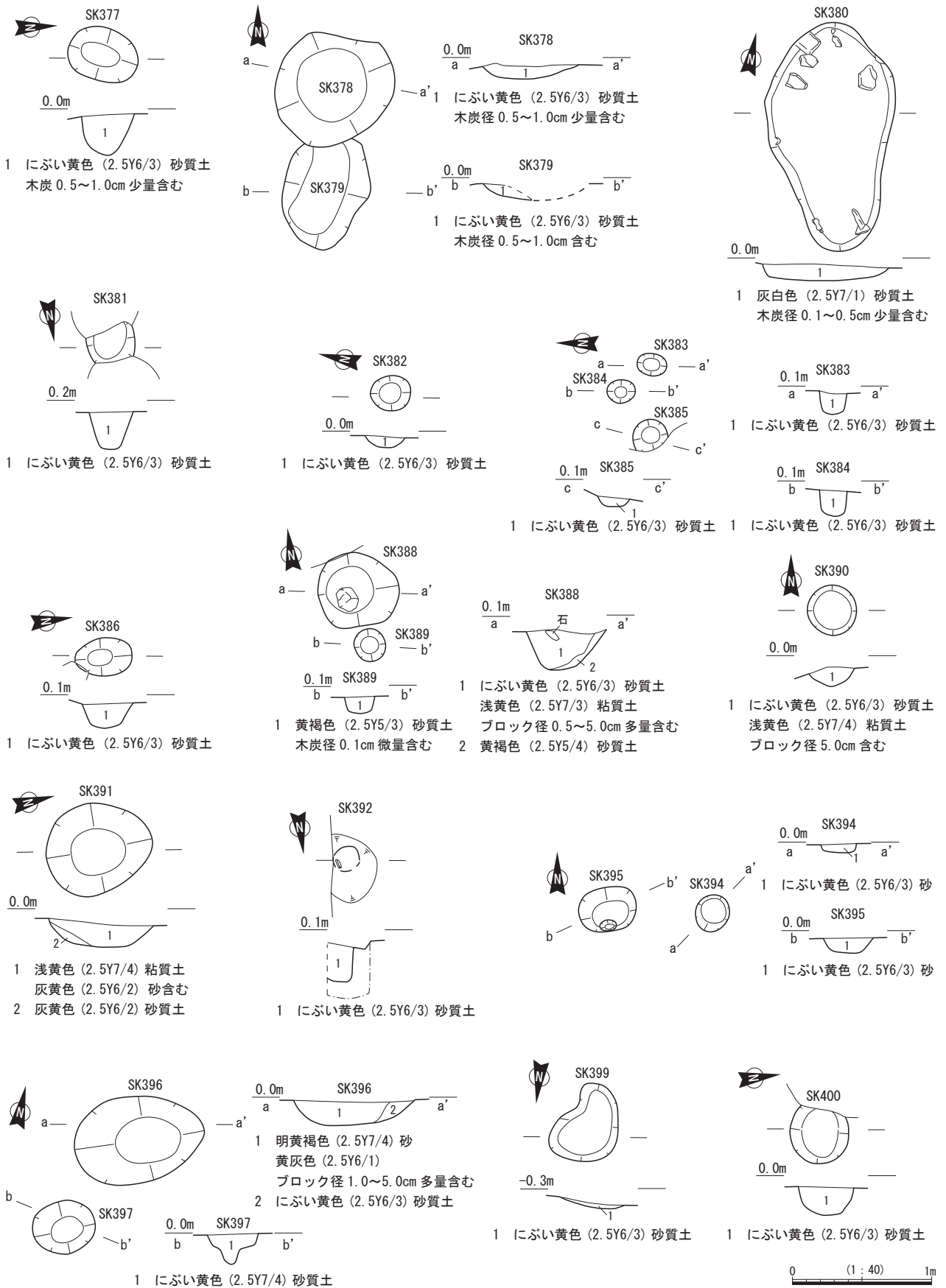
SK392 (第85図)

D-5区で検出された土坑。平面形は円形で、直径0.2m、深さ0.3m。断面形はU字形。

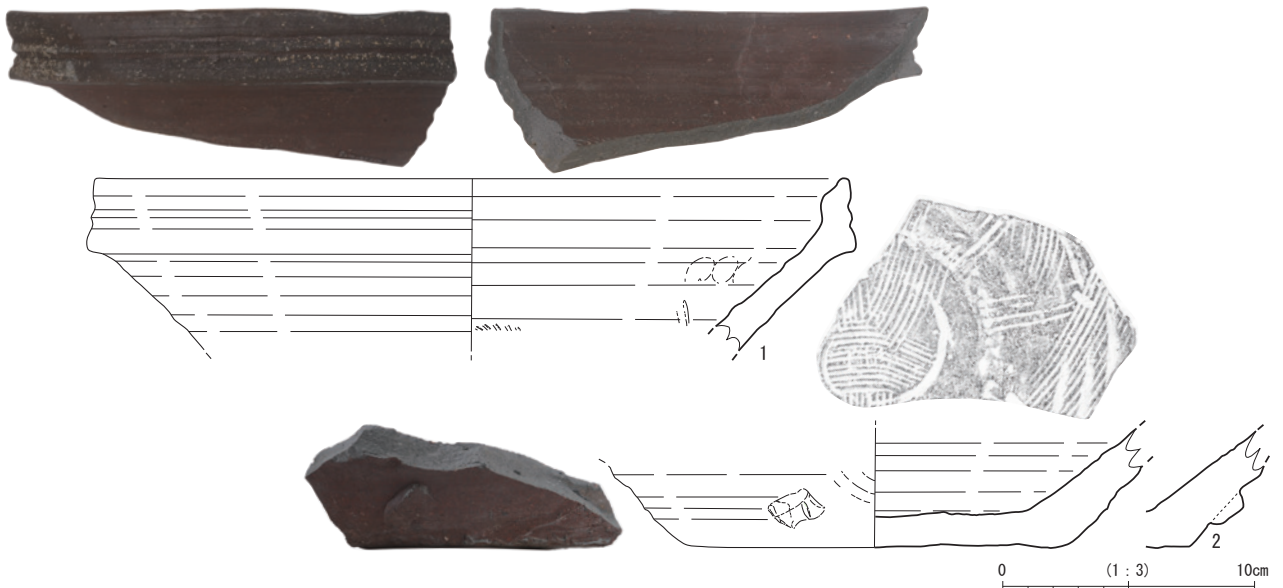
SK394 (第85図)

D-5区で検出された土坑。平面形は円形で、直径0.3m、深さ0.1m。断面形はレンズ形。

SK395 (第85図)



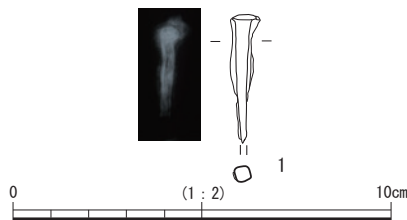
第 85 図 第 2 遺構面検出遺構 (3)



報告番号	胎質	器種	生産地	口径 (cm)	底径・ 摘み径 (cm)	器高 (cm)	成形技法	釉薬	絵付	装飾技法	銘・刻印・ 墨書	胎土色	遺構・層位	備考
1	陶器	擂鉢	備前系	(30.0)	—	—	ロクロ					灰白色 N7/ 赤褐色 1OR5/3 (口縁部芯部)	SK330	口縁部上端と口縁部外面下に重ね焼き痕、口縁部外面に黄ゴマ、乘岡 近世1c期? (17世紀初) 外面：回転ナデ 内面：回転ナデ、ユビオサエ
2	陶器	擂鉢	備前系	—	(15.0)	—	ロクロ					灰白色 10Y7/1 灰褐色 5YR5/2 (芯部)	SK330	見込スリメクロスパターン、スリメ4条/単位・11条/単位、外面に同じ胎土の陶器片熔着、乘岡 近世1c期 (17世紀初) 胴部外面：強い回転ナデのちナデ (ケズリの痕跡もあり)

「—」は、「不明」を示す。()内の数字は、残存部から復元した数値を示す。
備考欄に記載した年代は、生産地における製作年代を示す。

第86図 SK330出土遺物



報告番号	遺物名	最大長 (cm) *	最大幅 (cm) *	最大厚 (cm) *	重量 (g) *	材質**	遺構・層位	備考
1	釘	[3.4]	0.7 (頭部)	[0.5] (身部)	[1.09]	鉄	SK398	身部断面方形。

* [] は残存部のサイズを示す。重量は錆びを含む。
** 肉眼観察による。

第87図 SK398 出土遺物

D-4・5区で検出された土坑。平面形は楕円形で、長径0.4m、短径0.3m、深さ0.1m。断面形はレンズ形。

SK396（第85図）

D-5区で検出された土坑。平面形は楕円形で、長径0.9m、短径0.6m、深さ0.2m。断面形はレンズ形。

SK397（第85図）

C・D-4・5区で検出された土坑。平面形は円形で、直径0.4m、深さ0.2m。断面形は不整な楕形で、中央部が窪む。

SK399（第85図）

B-3区で検出された土坑。平面形は不整形で、長さ0.6m、幅0.4m、深さ0.05m。断面形はレンズ形。

SK400（第85図）

E-5区で検出された土坑。平面形は楕円形と推定され、残存部の長径0.4m、短径0.4m、深さ0.2m。断面形は楕形。

4. 第1.5遺構面の遺構と遺物（第88図）

(1) 土坑・ピット

SK213（第89図）

G-5区で検出された土坑。平面形は不明で、残存部の長さ1.3m、幅0.1m、深さ0.3m。断面形は不整レンズ形で、中位に狭いテラスをもつ。SK214を切る。

SK214（第89図）

G-5区で検出された土坑。平面形は不明で、残存部の長さ1.3m、幅0.7m、深さ0.1m。断面形は不明。SK213に切られる。

SK215（第89図）

G-5区で検出された土坑。平面形は楕円形で、長径0.4m、短径0.3m、深さ0.05m。断面形はレンズ形。

SK216（第89図）

G-4区で検出された土坑。平面形は円形と推定され、直径0.4m、深さ0.4m。断面形はU字形。埋土に0.1m以上の礫が含まれる。

SK217（第89図）

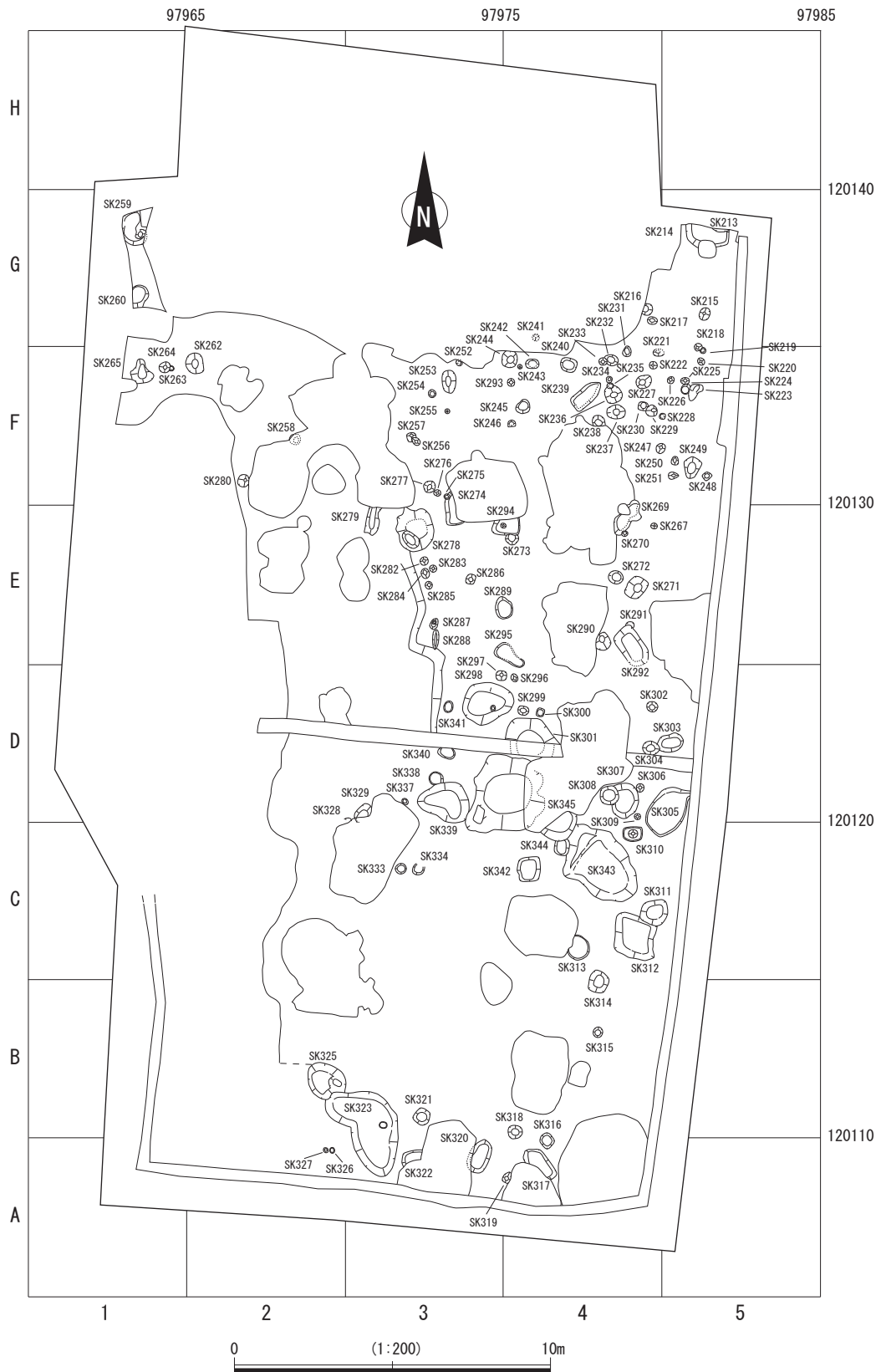
G-4区で検出された土坑。平面形は楕円形で、長径0.3m、短径0.2m、深さ0.2m。断面形はU字形。埋土に0.1m以上の礫が含まれる。

SK218（第89図）

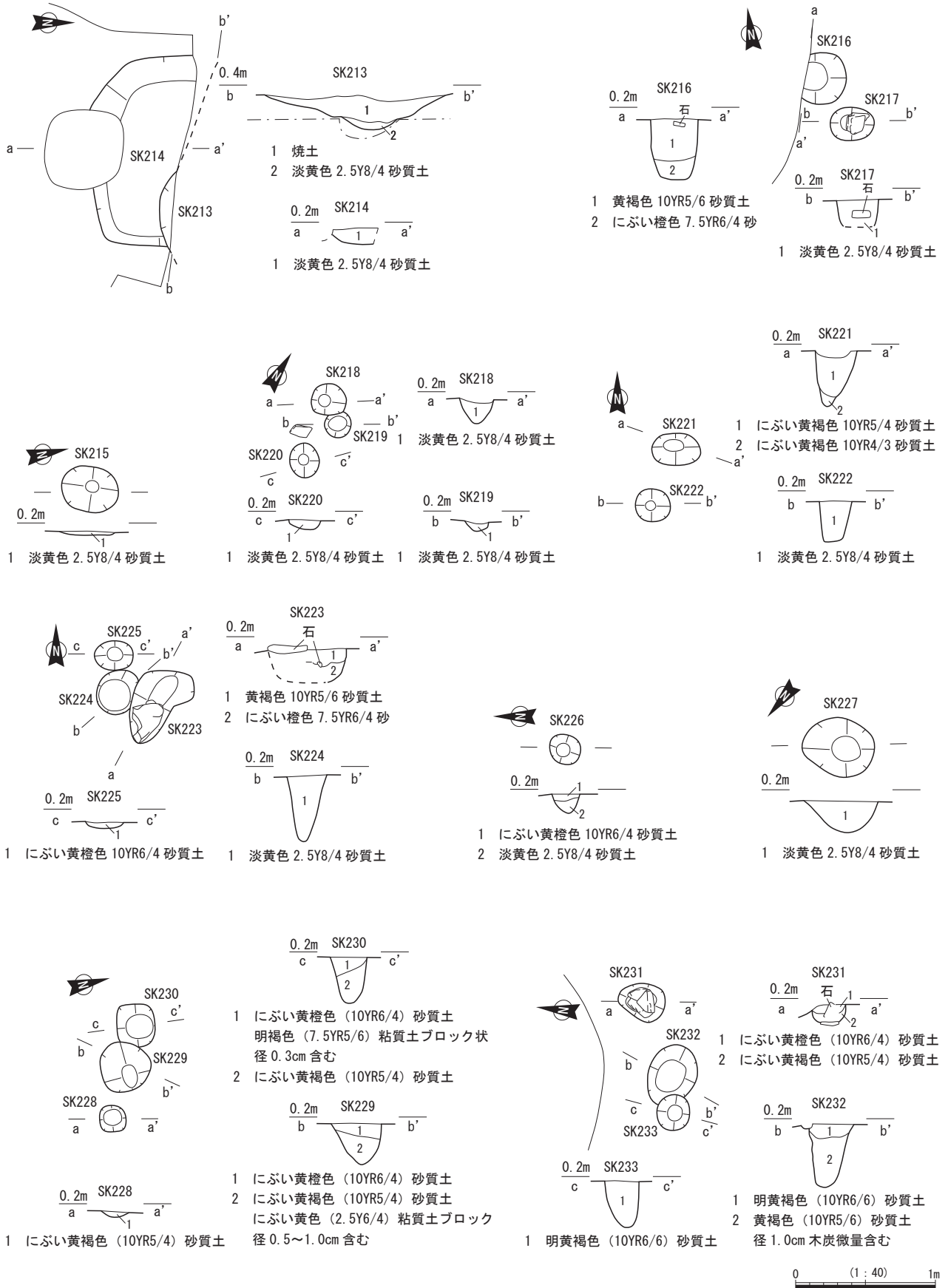
F・G-5区で検出された土坑。平面形は不整円形で、直径0.3m、深さ0.2m。断面形は楕形。SK219を切る。

SK219（第89図）

F-5区で検出された土坑。平面形は円形で、直径0.2m、深さ0.05m。断面形はレンズ形。SK218に切られる。



第88図 第1.5遺構面全体図



第 89 図 第 1.5 遺構面検出遺構 (1)

SK220 (第89図)

F-5区で検出された土坑。平面形は楕円形で、長径0.3m、短径0.2m、深さ0.1m。断面形はレンズ形。

SK221 (第89図)

F-4・5区で検出された土坑。平面形は楕円形で、長径0.3m、短径0.2m、深さ0.4m。断面形はV字形。

SK222 (第89図)

F-4区で検出された土坑。平面形は円形で、直径0.2m、深さ0.3m。断面形はU字形。

SK223 (第89図)

F-5区で検出された土坑。平面形は不整形で、長さ0.6m、幅0.3m、深さ0.2m。断面形は楕形。埋土に0.1m以上の礫が含まれる。SK224を切る。

SK224 (第89図)

F-5区で検出された土坑。平面形は円形と推定され、直径0.3m、深さ0.5m。断面形はV字形。SK223に切られる。

SK225 (第89図)

F-5区で検出された土坑。平面形は楕円形で、長径0.3m、短径0.2m、深さ0.05m。断面形はレンズ形。

SK226 (第89図)

F-5区で検出された土坑。平面形は円形で、直径0.2m、深さ0.1m。断面形は楕形。

SK227 (第89図)

F-4区で検出された土坑。平面形は不整楕円形で、長径0.5m、短径0.4m、深さ0.2m。断面形は楕形。

SK228 (第89図)

F-4・5区で検出された土坑。平面形は隅丸方形で、長幅0.2m、深さ0.05m。断面形レンズ形。

SK229 (第89図)

F-4区で検出された土坑。平面形は不整円形で、直径0.4m、深さ0.3m。断面形はV字形。SK230を切る。

SK230 (第89図)

F・G-4区で検出された土坑。平面形は隅丸方形で、長幅0.3m、深さ0.3m。断面形はU字形。SK229に切られる。

SK231 (第89図)

F-4区で検出された土坑。平面形は不整楕円形で、長径0.3m、短径0.2m、深さ0.1m。断面形は楕形。埋土に0.1m以上の礫が含まれる。

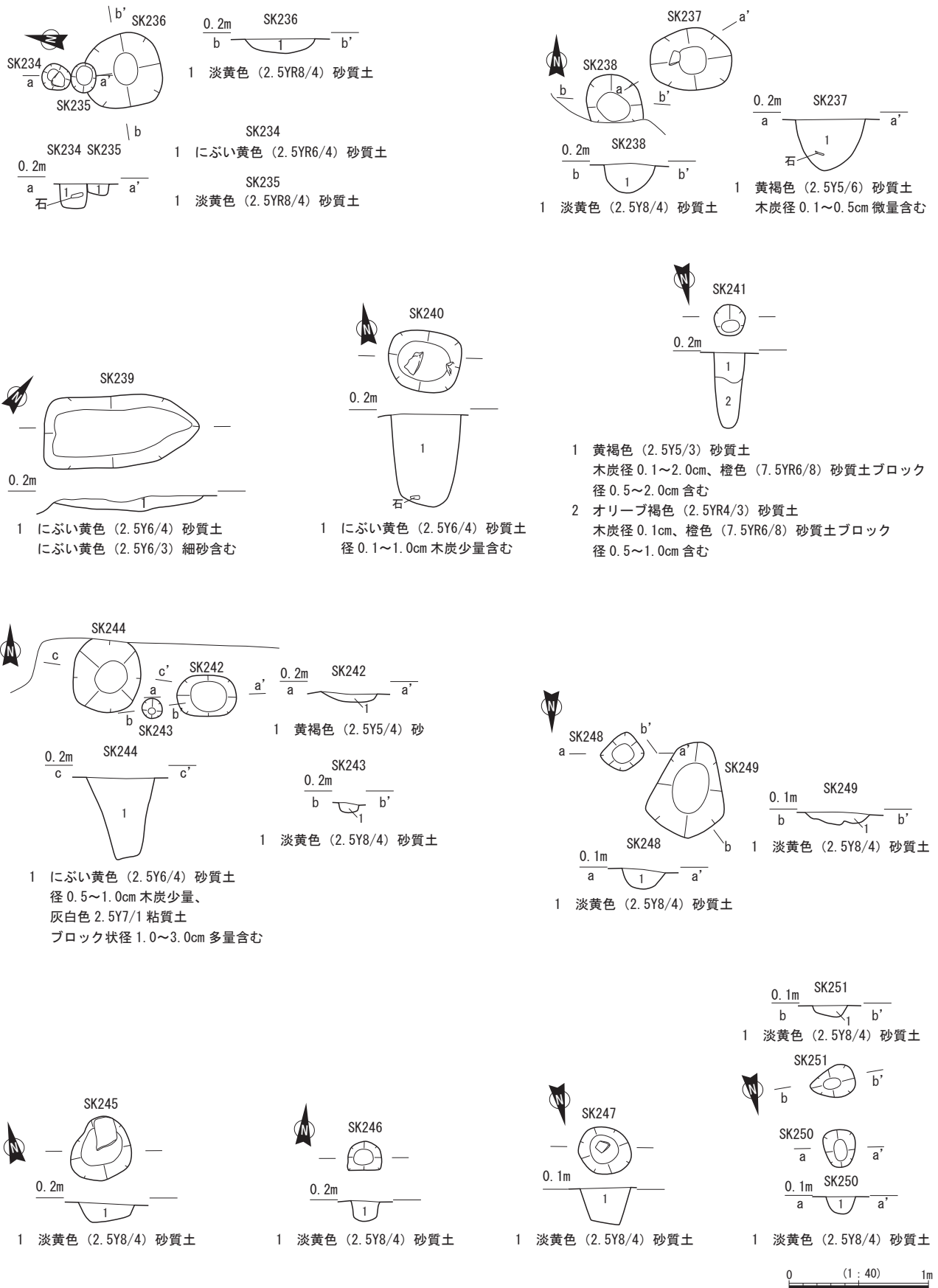
SK232 (第89図)

F-4区で検出された土坑。平面形は楕円形で、長径0.5m、短径0.3m、深さ0.4m。断面形はU字形。SK233に切られる。

SK233 (第89図)

F-4区で検出された土坑。平面形は円形で、直径0.2m、深さ0.3m。断面形はU字形。SK232を切る。

SK234 (第90図)



第90図 第1.5遺構面検出遺構(2)

F-4区で検出された土坑。平面形はやや不整円形で、直径0.2 m、深さ0.2 m。断面形はU字形。埋土に0.1 m以上の礫が含まれる。

SK235 (第90図)

F-4区で検出された土坑。平面形は円形で、直径0.2 m、深さ0.1 m。断面形は楕形。SK236を切る。

SK236 (第90図)

F-4区で検出された土坑。平面形は不整円形で、直径0.5 m、深さ0.1 m。断面形はレンズ形。SK235に切られる。

SK237 (第90図)

F-4区で検出された土坑。平面形は楕円形で、長径0.6 m、短径0.4 m、深さ0.4 m。断面形は楕形。埋土に0.1 m以上の礫が含まれる。

SK238 (第90図)

F-4区で検出された土坑。平面形は円形と推定され、残存部の直径0.4 m、深さ0.2 m。断面形は楕形。

SK239 (第90図)

F-4区で検出された土坑。平面形は不整な舟形で、長さ1.1 m、幅0.5 m、深さ0.1 m。断面形はレンズ形。

SK240 (第90図)

F-4区で検出された土坑。平面形は不整楕円形で、長径0.5 m、短径0.4 m、深さ0.7 m。断面形はU字形。埋土に0.1 m以上の礫が含まれる。

SK241 (第90図)

G-4区で検出された土坑。平面形は円形で、直径0.2 m、深さ0.5 m。断面形はU字形。

SK242 (第90図)

F-4区で検出された土坑。平面形は楕円形で、長径0.4 m、短径0.3 m、深さ0.1 m。断面形はレンズ形。

SK243 (第90図)

F-4区で検出された土坑。平面形は円形で、直径0.2 m、深さ0.1 m。断面形は楕形。

SK244 (第90図)

F-4区で検出された土坑。平面形は不整円形で、直径0.5 m、深さ0.6 m。断面形は台形。

SK245 (第90図)

F-4区で検出された土坑。平面形は不整円形で、直径0.5 m、深さ0.1 m。断面形はレンズ形。埋土に0.1 m以上の礫が含まれる。

SK246 (第90図)

F-4区で検出された土坑。平面形はホームベース形で、長幅0.2 m、深さ0.1 m。断面形は楕形。

SK247 (第90図)

F-4・5区で検出された土坑。平面形は円形で、直径0.3 m、深さ0.2 m。断面形は台形。

SK248 (第90図)

F-5区で検出された土坑。平面形は方形で、長さ0.3 m、幅0.2 m、深さ0.2 m。断面形は楕形。

SK249 (第90図)



第91図 第1.5遺構面検出遺構(3)



第92図 SK260 炭化木材検出状況（北から）

F-5区で検出された土坑。平面形は不整六角形で、長さ0.7 m、幅0.5 m、深さ0.1 m。断面形は不整レンズ形。

SK250（第90図）

F-5区で検出された土坑。平面形は不整楕円形で、長径0.3 m、短径0.2 m、深さ0.1 m。断面形は楕形。

SK251（第90図）

F-5区で検出された土坑。平面形は不整楕円形で、長径0.3 m、短径0.2 m、深さ0.1 m。断面形はレンズ形。

SK252（第91図）

F-3区で検出された土坑。平面形は円形で、直径0.2 m、深さ0.1 m。断面形は方形。

SK253（第91図）

F-3区で検出された土坑。平面形は不整楕円形で、長径0.7 m、短径0.4 m、深さ0.2 m。断面形はレンズ形。

SP254（第91図）

F-3区で検出された柱穴。平面形は円形で、直径0.3 m、深さ0.2 m。断面形は楕形。底部に礎石と考えられる礫が検出されている。

SK255（第91図）

F-3区で検出された土坑。平面形は円形で、直径0.2 m、深さ0.1 m。断面形は楕形。

SK256（第91図）

F-3区で検出された土坑。平面形は楕円形で、長径0.3 m、短径0.2 m、深さ0.2 m。断面形は台形。SK257を切る。

SK257（第91図）

F-3区で検出された土坑。平面形は隅丸方形で、長幅0.3 m、深さ0.1 m。断面形はV字形。SK256に切られる。

SK258（第91図）

F-2区で検出された土坑。平面形は不整円形で、直径0.5 m、深さ0.3 m。断面形は不整U字形。

SK259（第91図）

G-1区で検出された土坑。平面形は不明で、残存部の長さ1.0 m、幅0.7 m、深さ0.6 m。断面形は不整台形で、東半が窪む。埋土に0.1 m以上の礫が含まれる。

SK260（第91・92図）

G-1区で検出された土坑。平面形は不明で、残存部の長さ0.7 m、幅0.5 m、深さ0.8 m。断面形は台形と推定される。内部からは炭化した木材を検出した。



第93図 第1.5遺構面検出遺構(4)

SK262 (第91図)

F-1・2区で検出された土坑。平面形は不整楕円形で、長径0.7m、短径0.6m、深さ0.2m。断面形は台形。埋土に0.1m以上の礫が含まれる。

SK263 (第91図)

F-1区で検出された土坑。平面形は楕円形と推定され、残存部の長径0.1m、短径0.1m、深さ0.4m。断面形は台形。SK264に切られる。

SK264 (第91図)

F-1区で検出された土坑。平面形は不整円形で、直径0.3m、深さ0.3m。断面形は楕形。SK263を切る。

SK265 (第91図)

F-1区で検出された土坑。平面形は不整形で、長さ0.8m、幅0.7m、深さ0.4m。断面形は台形。埋土に0.1m以上の礫が含まれる。

SK267 (第91図)

E-4区で検出された土坑。平面形は円形で、直径0.2m、深さ0.05m。断面形はレンズ形。

SK269 (第91図)

E・F-4区で検出された土坑。平面形は不整形で、長さ1.2m、幅0.5m、深さ0.1m。断面形はレンズ形。

SK270 (第91図)

E-4区で検出された土坑。平面形は円形で、直径0.2m、深さ0.1m。断面形は楕形。

SK271 (第93図)

E-4区で検出された土坑。平面形は隅丸方形で、長さ0.7m、幅0.6m、深さ0.1m。断面形はレンズ形。

SK272 (第93図)

E-4区で検出された土坑。平面形は楕円形で、長径0.5m、短径0.4m、深さ0.5m。断面形はU字形。埋土に0.1m以上の礫が含まれる。

SK273 (第93図)

E-4区で検出された土坑。平面形は円形と推定され、残存部の直径0.4m、深さ0.05m。断面形はレンズ形。SK294に切られる。

SK294 (第93図)

E-3・4区で検出された土坑。平面形は不明で、残存部の長さ0.9m、幅0.5m、深さ0.05m。断面形はレンズ形と推定される。SK273を切る。

SK274 (第93図)

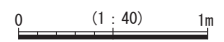
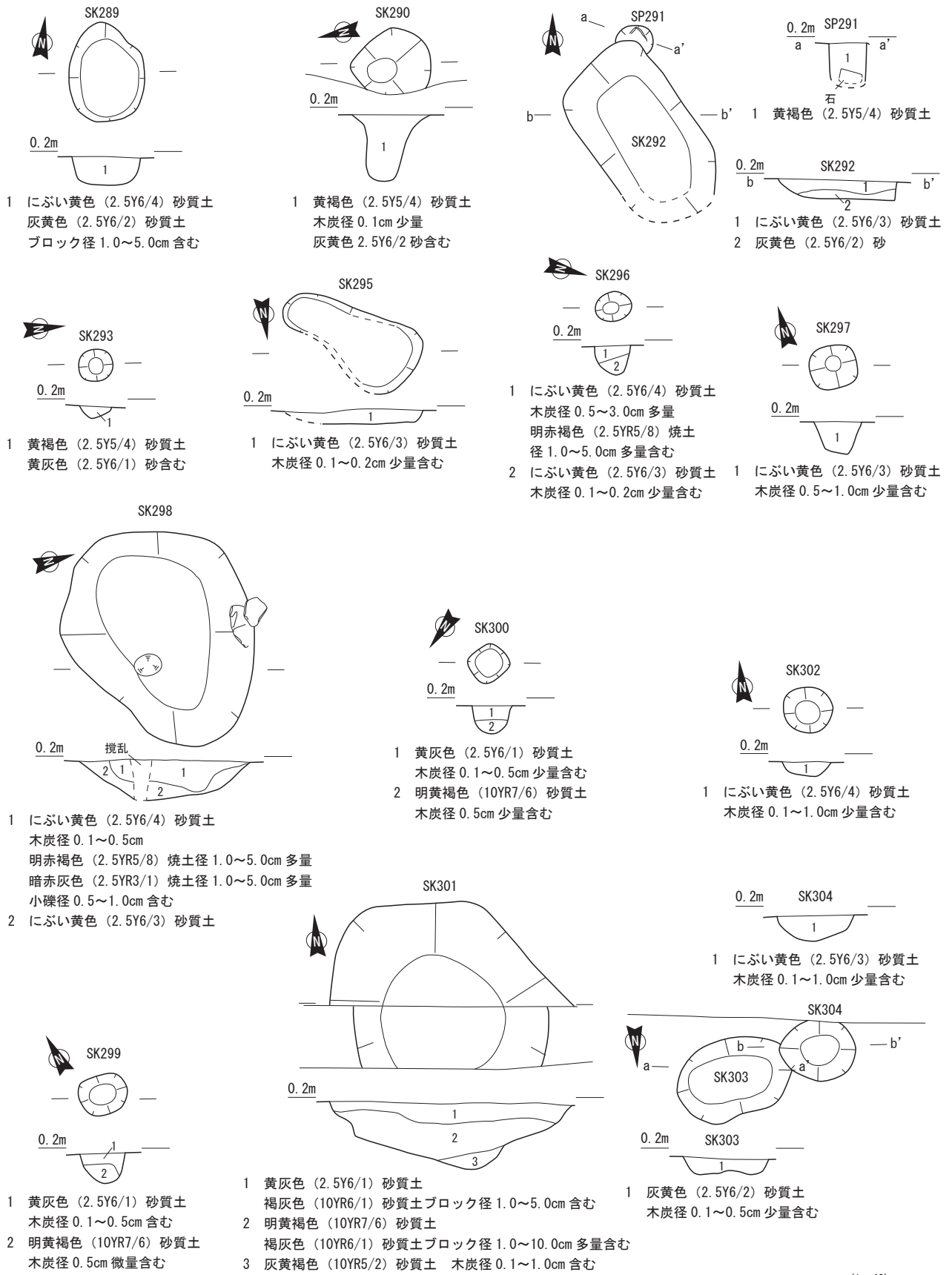
E・F-3区で検出された土坑。平面形は不明で、残存部の長さ1.1m、幅0.6m、深さ0.1m。断面形はレンズ形と推定される。SK275に切られる。

SK275 (第93図)

F-3区で検出された土坑。平面形は円形で、直径0.2m、深さ0.1m。断面形はレンズ形。SK274を切る。

SK276 (第93図)

F-3区で検出された土坑。平面形は円形で、直径0.2m、深さ0.1m。断面形は楕形。



第94図 第1.5遺構面検出遺構(5)

SK277 (第93図)

F-3区で検出された土坑。平面形は不整形円で、直径0.4m、深さ0.1m。断面形はレンズ形。

SK278 (第93図)

E-3区で検出された土坑。平面形は不整形で、長さ1.4m、幅1.1m、深さ0.2m。断面形はレンズ形。埋土に0.1m以上の礫が含まれる。

SK279 (第93図)

E-3区で検出された土坑。平面形は不整形で、残存部の長さ0.9m、幅0.4m、深さ0.2m。断面形は楕形。埋土に0.1m以上の礫が含まれる。

SK280 (第93図)

F-2区で検出された土坑。平面形は円形で、直径0.4m、深さ0.2m。断面形はV字形。

SK282 (第93図)

E-3区で検出された土坑。平面形は円形で、直径0.3m、深さ0.1m。断面形は台形。

SK283 (第93図)

E-3区で検出された土坑。平面形は円形で、直径0.2m、深さ0.2m。断面形はU字形。

SK284 (第93図)

E-3区で検出された土坑。平面形は円形で、直径0.3m、深さ0.2m。断面形はU字形。

SK285 (第93図)

E-3区で検出された土坑。平面形は円形で、直径0.2m、深さ0.1m。断面形はレンズ形。

SK286 (第93図)

E-3区で検出された土坑。平面形は隅丸方形で、長幅0.3m、深さ0.2m。断面形は楕形。

SK287 (第93図)

E-3区で検出された土坑。平面形は不整楕円形で、長径0.5m、短径0.2m、深さ0.1m。断面形は不整V字形。

SK288 (第93図)

E-3区で検出された土坑。平面形は楕円形で、長径0.6m、短径0.2m、深さ0.1m。断面形は楕形。

SK289 (第94図)

E-3・4区で検出された土坑。平面形は不整楕円形で、長さ0.7m、短径0.5m、深さ0.2m。断面形は楕形。

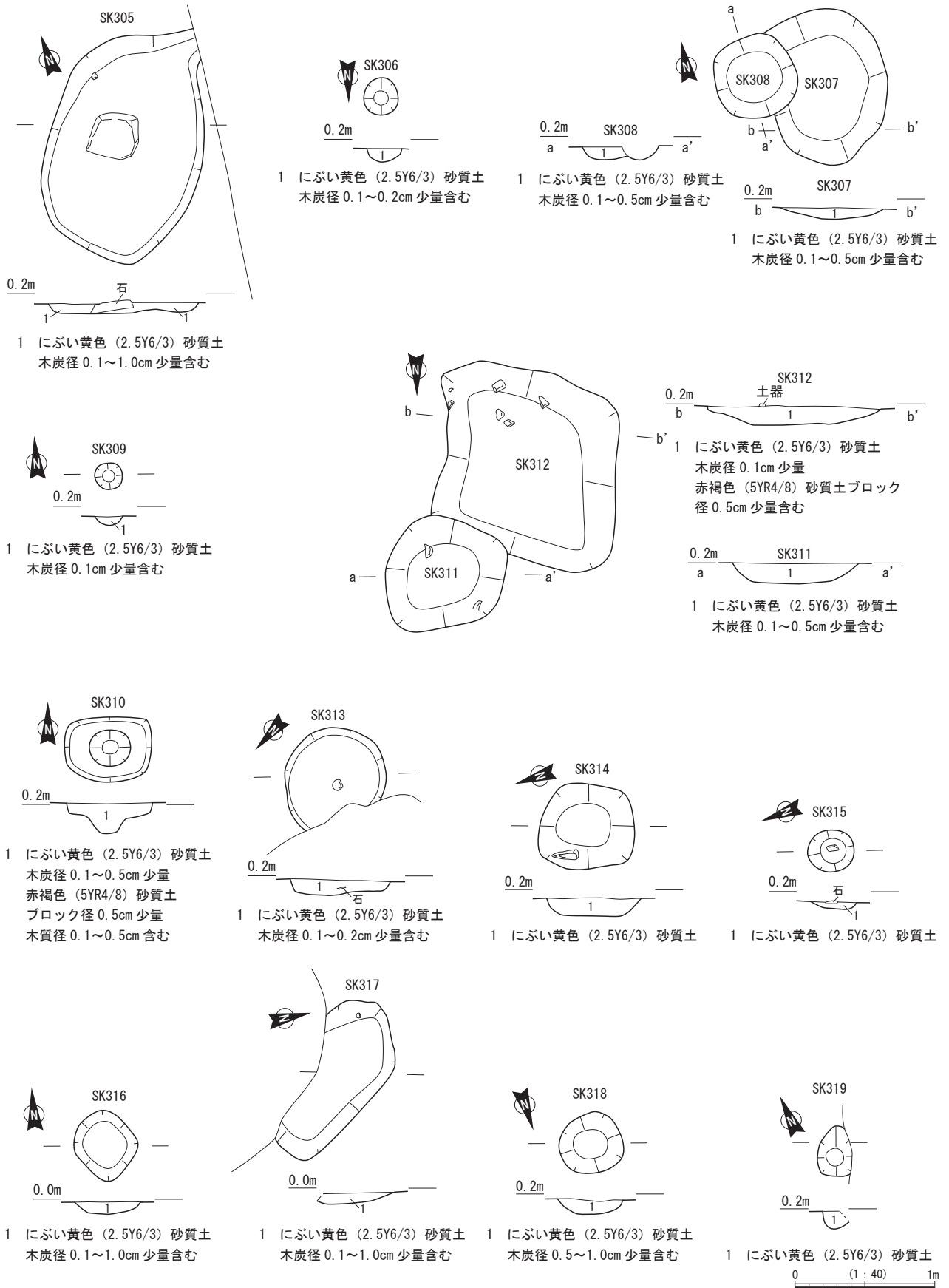
SK290 (第94図)

E-4区で検出された土坑。平面形は不整形円形と推定され、残存部の直径0.6m、深さ0.5m。断面形はU字形で、上位が広がる。

SP291 (第94図)

E-4区で検出された柱穴。平面形は円形と推定され、残存部の直径0.3m、深さ0.3m。断面形はU字形。底部に礎石と考えられる礫が検出されている。埋土に0.1m以上の礫が含まれる。SK292に切られる。

SK292 (第94図)



第95図 第1.5遺構面検出遺構(6)

E-4区で検出された土坑。平面形は舟形と推定され、残存部の長さ1.3m、幅0.7m、深さ0.1m。断面形は不整レンズ形で、東肩は垂直に立ち上がる。SK291を切る。

埋土より備前系陶器の播鉢（第99図1）が出土した。顎部をもち張り出しが明瞭な点、口縁部内面の段が明瞭な点、底部が不整形で細かな凹凸がみられる点、スリメが直線放射状で間隔が粗く口縁部まで及ばない点、体部外面にヘラケズリが認められずロクロメが明瞭な点、胎土に黑色鉱物粒を含む点、断面が（暗）灰色である点、火襷がみられない点、黄ゴマがつく点、口縁部上端・顎部・底面に重ね焼き時の溶着痕がつく点は、乗岡（2002）の近世1c～2a期（17世紀前半）頃の特徴と一致する。

SK293（第94図）

F-4区で検出された土坑。平面形は円形で、直径0.2m、深さ0.1m。断面形はレンズ形。

SK295（第94図）

E-3・4区で検出された土坑。平面形は不整形で、長さ1.0m、幅0.5m、深さ0.1m。断面形はレンズ形と推定される。

SK296（第94図）

D-4区で検出された土坑。平面形は楕円形で、長径0.3m、短径0.2m、深さ0.2m。断面形は楕形。

SK297（第94図）

D-3・4区で検出された土坑。平面形は隅丸方形で、長幅0.3m、深さ0.2m。断面形は台形。

SK299（第94図）

D-4区で検出された土坑。平面形は楕円形で、長径0.4m、短径0.3m、深さ0.2m。断面形は楕形。

SK298（第94図）

D-3・4区で検出された土坑。平面形は不整楕円形で、長径1.6m、短径1.3m、深さ0.3m。断面形はレンズ形。埋土に0.1m以上の礫が含まれる。

SK300（第94図）

D-4区で検出された土坑。平面形は隅丸方形で、長幅0.3m、深さ0.2m。断面形は楕形。

SK301（第94図）

D-4区で検出された土坑。平面形は不明で、残存部の長さ1.8m、幅0.7m、深さ0.5m。断面形は不整レンズ形。

SK302（第94図）

D-4区で検出された土坑。平面形は円形で、直径0.3m、深さ0.1m。断面形はレンズ形。

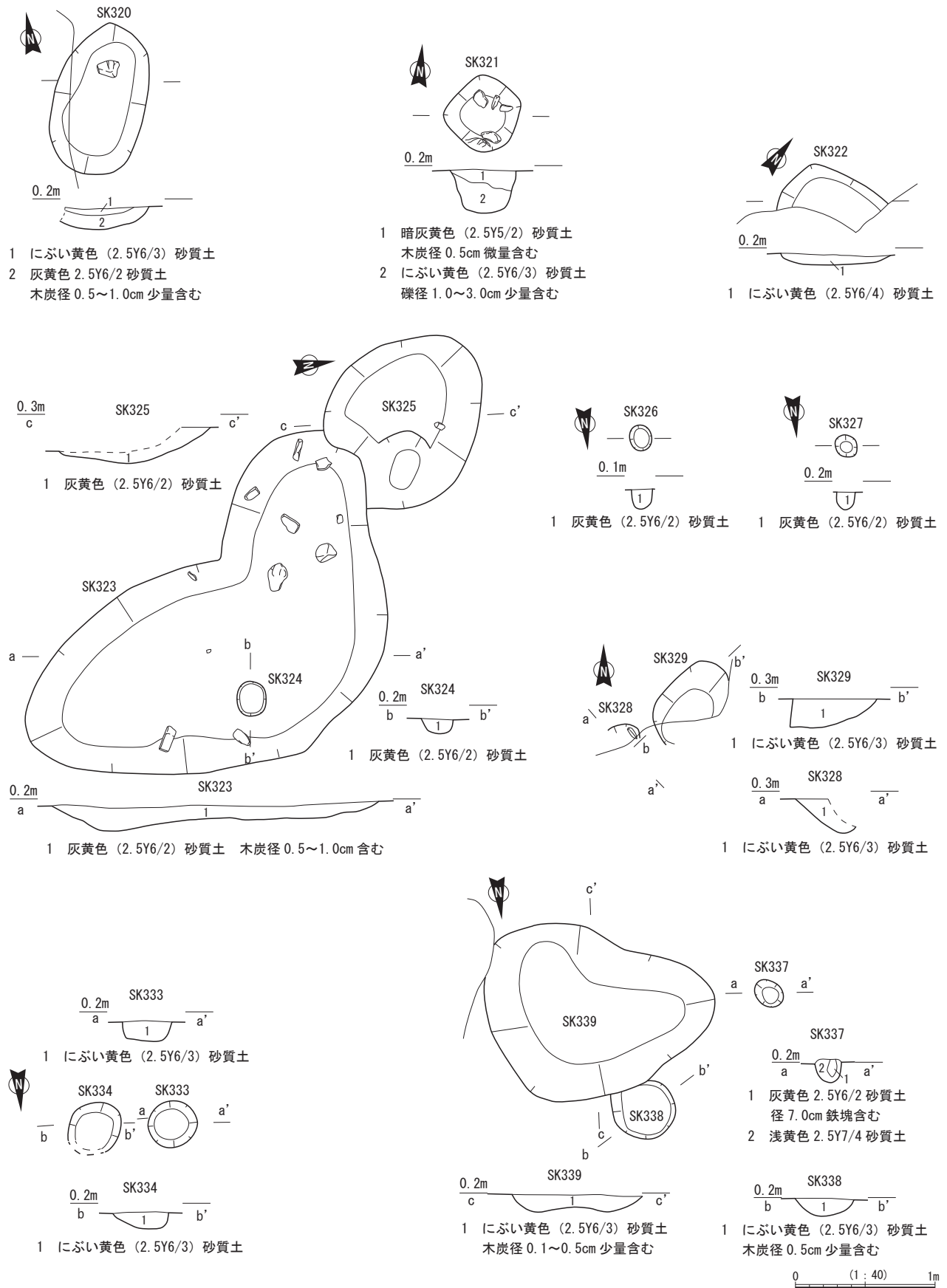
SK303（第94図）

D-4・5区で検出された土坑。平面形は楕円形で、長径0.8m、短径0.5m、深さ0.1m。断面形は不整レンズ形。SK304に切られる。

SK304（第94図）

D-4区で検出された土坑。平面形は楕円形で、長径0.6m、短径0.4m、深さ0.2m。断面形は楕形。SK303を切る。

SK305（第95図）



第96図 第1.5遺構面検出遺構(7)

C・D-4・5区で検出された土坑。平面形は不整楕円形で、長径1.6m、短径1.1m、深さ0.1m。断面形はレンズ形。

SK306 (第95図)

D-4区で検出された土坑。平面形は円形で、直径0.3m、深さ0.1m。断面形はレンズ形。

SK307 (第95図)

D-4区で検出された土坑。平面形は不整楕円形で、長径1.1m、短径0.7m、深さ0.1m。断面形はレンズ形。SK308に切られる。

SK308 (第95図)

D-4区で検出された土坑。平面形は不整円形で、直径0.6m、深さ0.1m。断面形はレンズ形。SK307を切る。

SK309 (第95図)

D-4区で検出された土坑。平面形は円形で、直径0.2m、深さ0.1m。断面形はレンズ形。

SK310 (第95図)

C-4区で検出された土坑。平面形は隅丸方形で、長さ0.6m、幅0.5m、深さ0.2m。断面形は不整レンズ形で、中央部が窪む。

SK311 (第95図)

C-4・5区で検出された土坑。平面形は不整隅丸方形で、長幅0.8m、深さ0.1m。断面形はレンズ形。埋土に0.1m以上の礫が含まれる。SK312を切る。

SK312 (第95図)

C-4区で検出された土坑。平面形は不整隅丸方形で、長さ1.3m、幅1.2m、深さ0.1m。断面形はレンズ形。埋土に0.1m以上の礫が含まれる。

埋土より瀬戸・美濃系陶器(第100図1)が出土した。SK311に切られる。

SK313 (第95図)

C-4区で検出された土坑。平面形は楕円形で、長径0.8m、短径0.7m、深さ0.1m。断面形は不整レンズ形。埋土に0.1m以上の礫が含まれる。

SK314 (第95図)

B・C-4区で検出された土坑。平面形は隅丸方形で、長さ0.7m、幅0.6m、深さ0.1m。断面形はレンズ形。埋土に0.1m以上の礫が含まれる。

SK315 (第95図)

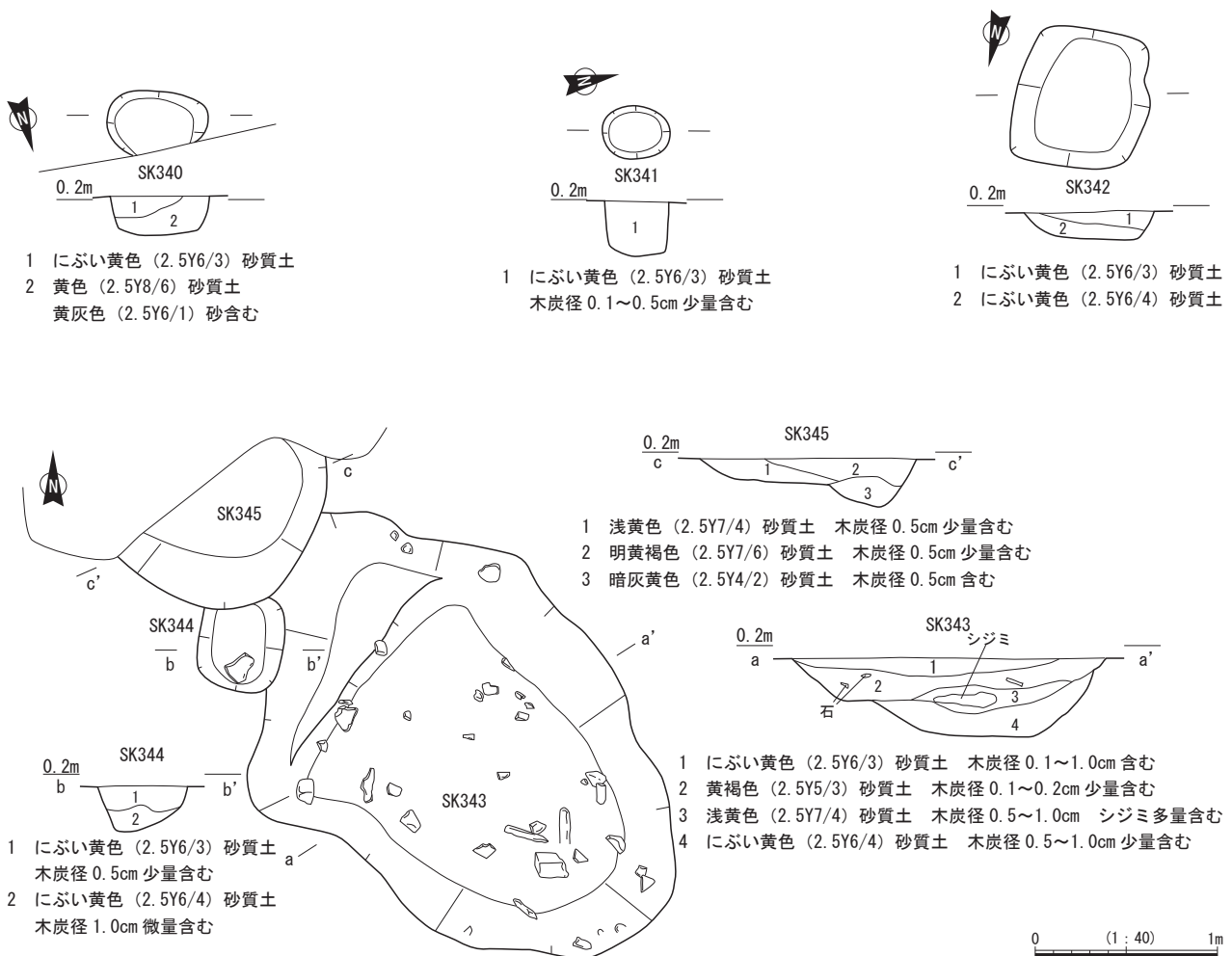
B-4区で検出された土坑。平面形は円形で、直径0.3m、深さ0.05m。断面形はレンズ形。埋土に0.1m以上の礫が含まれる。

SK316 (第95図)

A・B-4区で検出された土坑。平面形は隅丸方形で、長幅0.4m、深さ0.1m。断面形はレンズ形。

SK317 (第95図)

A-4区で検出された土坑。平面形は不明で、残存部の長さ1.2m、幅0.6m、深さ0.1m。断面形はレンズ形。



第97図 第1.5遺構面検出遺構(8)

SK318 (第95図)

A・B-4区で検出された土坑。平面形は不整円形で、直径0.5m、深さ0.1m。断面形はレンズ形。

SK319 (第95図)

A-3・4区で検出された土坑。平面形は不整楕円形と推定され、残存部の長径0.3m、短径0.2m、深さ0.1m。断面形は楕形と推定される。

SK320 (第96図)

A-3区で検出された土坑。平面形は楕円形と推定され、残存部の長径1.1m、幅0.5m、深さ0.2m。断面形はレンズ形と推定される。埋土に0.1m以上の礫が含まれる。

SK321 (第96図)

B-3区で検出された土坑。平面形は不整隅丸方形で、長幅0.5m、深さ0.3m。断面形は楕形。埋土に0.1m以上の礫が含まれる。

SK322 (第96図)

A-3区で検出された土坑。平面形は不明で、残存部の長さ0.6m、幅0.3m、深さ0.1m。断面形はレンズ形。

SK323 (第96図)

A・B-2・3区で検出された土坑。平面形は不整形で、長さ3.2m、幅1.5m、深さ0.2m。断面形は不整レンズ形。SK324に切られ、SK325を切る。

SK324 (第96図)

B-3区で検出された土坑。平面形は円形で、直径0.2m、深さ0.1m。断面形は楕形。埋土に0.1m以上の礫が含まれる。SK323を切る。

SK325 (第96図)

B-2・3区で検出された土坑。平面形は楕円形と推定され、残存部の長径1.3m、短径1.1m、深さ0.1m。断面形はレンズ形。SK323に切られる。

SK326 (第96図)

A-2区で検出された土坑。平面形は円形で、直径0.2m、深さ0.1m。断面形は楕形。

SK327 (第96図)

A-2区で検出された土坑。平面形は円形で、直径0.2m、深さ0.1m。断面形は楕形。

SK328 (第96図)

D-2・3区で検出された土坑。平面形は不明で、残存部の長幅0.2m、深さ0.3m。断面形はV字形と推定される。埋土に0.1m以上の礫が含まれる。

SK329 (第96図)

D-3区で検出された土坑。平面形は楕円形と推定され、残存部の長径0.6m、短径0.4m、深さ0.2m。断面形は不整レンズ形で、西肩は垂直に立ち上がる。

SK333 (第96図)

C-3区で検出された土坑。平面形は円形で、直径0.3m、深さ0.1m。断面形は楕形。

SK334 (第96図)

C-3区で検出された土坑。平面形は円形と推定され、直径0.4m、深さ0.1m。断面形はレンズ形。

SK337 (第96図)

D-3区で検出された土坑。平面形は円形で、直径0.2m、深さ0.2m。断面形は楕形。

SK338 (第96図)

D-3区で検出された土坑。平面形は不整円形と推定され、残存部の直径0.4m、深さ0.1m。断面形はレンズ形。SK339に切られる。

SK339 (第96図)

C・D-3区で検出された土坑。平面形は不整形で、長さ1.6m、幅1.3m、深さ0.1m。断面形は不整レンズ形。SK338を切る。

SK340 (第97図)

D-3区で検出された土坑。平面形は楕円形と推定され、残存部の長径0.6m、短径0.4m、深さ0.2m。断面形は方形。

SK341 (第97図)

D-3区で検出された土坑。平面形は楕円形で、長径0.4m、短径0.3m、深さ0.3m。断面形は方形。



第98図 SK343

1. 遺物出土状況（東から） 2. 土層断面（南東から）

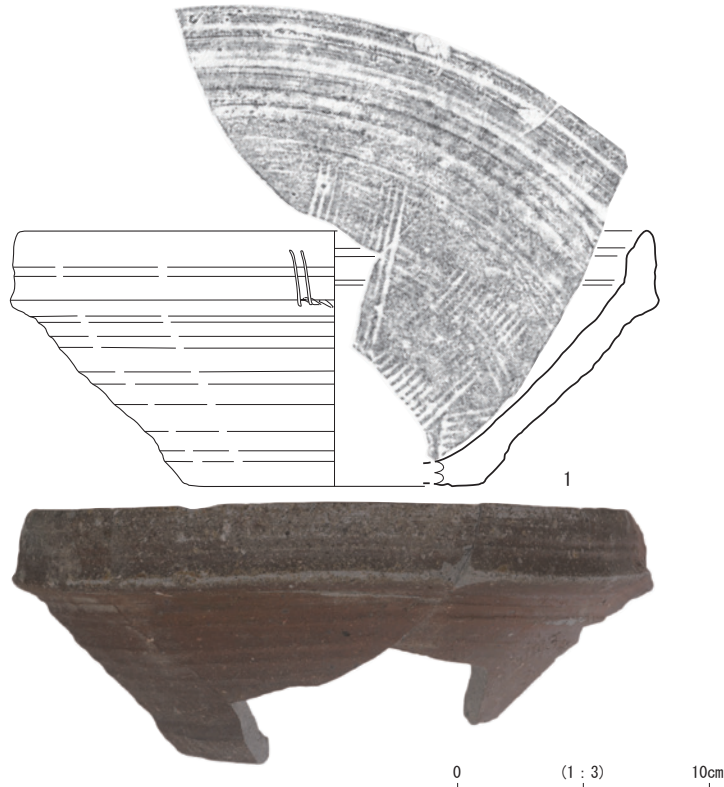
SK342（第97図）

C-4区で検出された土坑。平面形は不整隅丸方形で、長さ0.8m、幅0.7m、深さ0.2m。断面形はレンズ形。

SK343（第97・98図）

C-4区で検出された土坑。平面形は不整形で、残存部の長さ2.9m、幅2.0m、深さ0.4m。断面形は不整レンズ形で、中位にテラスを有する。埋土に0.1m以上の礫が含まれる。第3層にシジミとみられる二枚貝貝殻が集中する部分がみられる。SK344・SK345に切られる。

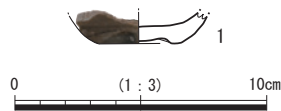
埋土より備前系陶器の播鉢（第101図1）が出土した。顎部をもち張り出しが明瞭な点、口縁部内面の段が明瞭な点、スリメの間隔が粗く口縁部まで及ばずナナメ方向のスリメを有する点、体部外面



報告番号	胎質	器種	生産地	口径 (cm)	底径・ 握み径 (cm)	器高 (cm)	成形技法	釉薬	絵付	装飾技法	銘・刻印・ 墨書	胎土色	遺構・層位	備考
1	陶器	擂鉢	備前系	(24.8)	(11.9)	10.2	ロクロ				ヘラ描による2条の縦線(窯印?) (口縁部外面)	灰白色 N8/	SK292	スリメ 12条/単位、口縁部上端・口縁部外面下・底部に重ね焼き痕、口縁部外面～胴上部内面に黄ゴマ、乗岡 近世 1c～2a期 (17世紀前半) 胴部外面：強い回転ナデ

() 内の数字は、残存部から復元した数値を示す。
備考欄に記載した年代は、生産地における製作年代を示す。

第 99 図 SK292 出土遺物



報告番号	胎質	器種	生産地	口径 (cm)	底径・ 握み径 (cm)	器高 (cm)	成形技法	釉薬	絵付	装飾技法	銘・刻印・ 墨書	胎土色	遺構・層位	備考
1	陶器	-	瀬戸・ 美濃系	-	3.2	-	ロクロ	灰釉 (全面白化粧土 塗布のち)				灰白色 N8/ (白色味強い)	SK312	小坏または香台?

「-」は、「不明」を示す。

第 100 図 SK312 出土遺物



報告番号	胎質	器種	生産地	口径 (cm)	底径・ 握み径 (cm)	器高 (cm)	成形技法	釉薬	絵付	装飾技法	銘・刻印・ 墨書	胎土色	遺構・層位	備考
1	陶器	擂鉢	備前系	(39.0)	-	-	ロクロ				ヘラ描による1条の縦線(窯印?) (口縁部外面)	灰色 N6/ 灰赤色 10R5/2 (芯部)	SK343	口縁部上端と注口外面に重ね焼き痕、注口部に黄ゴマ、乗岡 近世 1c期?(17世紀初) 胴部外面：回転ナデ

第 101 図 SK343 出土遺物

にヘラケズリが認められずロクロメが明瞭な点、胎土に黒色鉱物粒を含む点、断面がセピア色・（暗）灰色である点、器面の色調が暗褐紫色系である点、火襷がみられない点、黄ゴマがつく点、口縁部上端・注口部に重ね焼き時の溶着痕がつく点は、乗岡（2002）の近世1c期（17世紀初頭）頃の特徴と一致する。

SK344（第97図）

C-4区で検出された土坑。平面形は隅丸方形と推定され、残存部の長幅0.5m、深さ0.3m。断面形はV字形。SK343を切り、SK345に切られる。

SK345（第97図）

C・D-4区で検出された土坑。平面形は不明で、残存部の長さ1.3m、幅0.7m、深さ0.3m。断面形は不整レンズ形で、西半にテラスを有する。SK343・SK344を切る。

（三阪一徳）

5. 第1遺構面の遺構と遺物（第102図）

（1）溝

SD01（第103図）

G-5区で検出された溝。残存値2.8m、幅0.3～0.5m、深さ0.1mである。断面は逆三角形を呈する。

SD128（第122図）

D-4・5区で検出された溝。残存値2.9m、幅0.2～0.4m、深さ0.2mである。断面はU字形を呈する。

SD130（第122図）

C-4・5区で検出された溝。残存値2.3m、幅0.2～0.5m、深さ0.1mである。断面はレンズ形を呈する。

SD187（第129図）

C-3区で検出された溝。残存値1.6m、幅0.2m、深さ0.1mである。断面はU字形を呈する。

SD206（第142図）

B-2・3・4区で検出された溝。長さ11.9m、幅0.3～0.6m、深さ0.1～0.2mである。断面はU字形を呈する。遺物は御厩系土師質土器の焙烙（第104図1）が出土した。

SD210（第142図）

B-2・3・4区で検出された溝。長さ12.1m、幅0.4～0.6mである。断面は台形である。

（2）土坑・ピット

SK02（第103図）

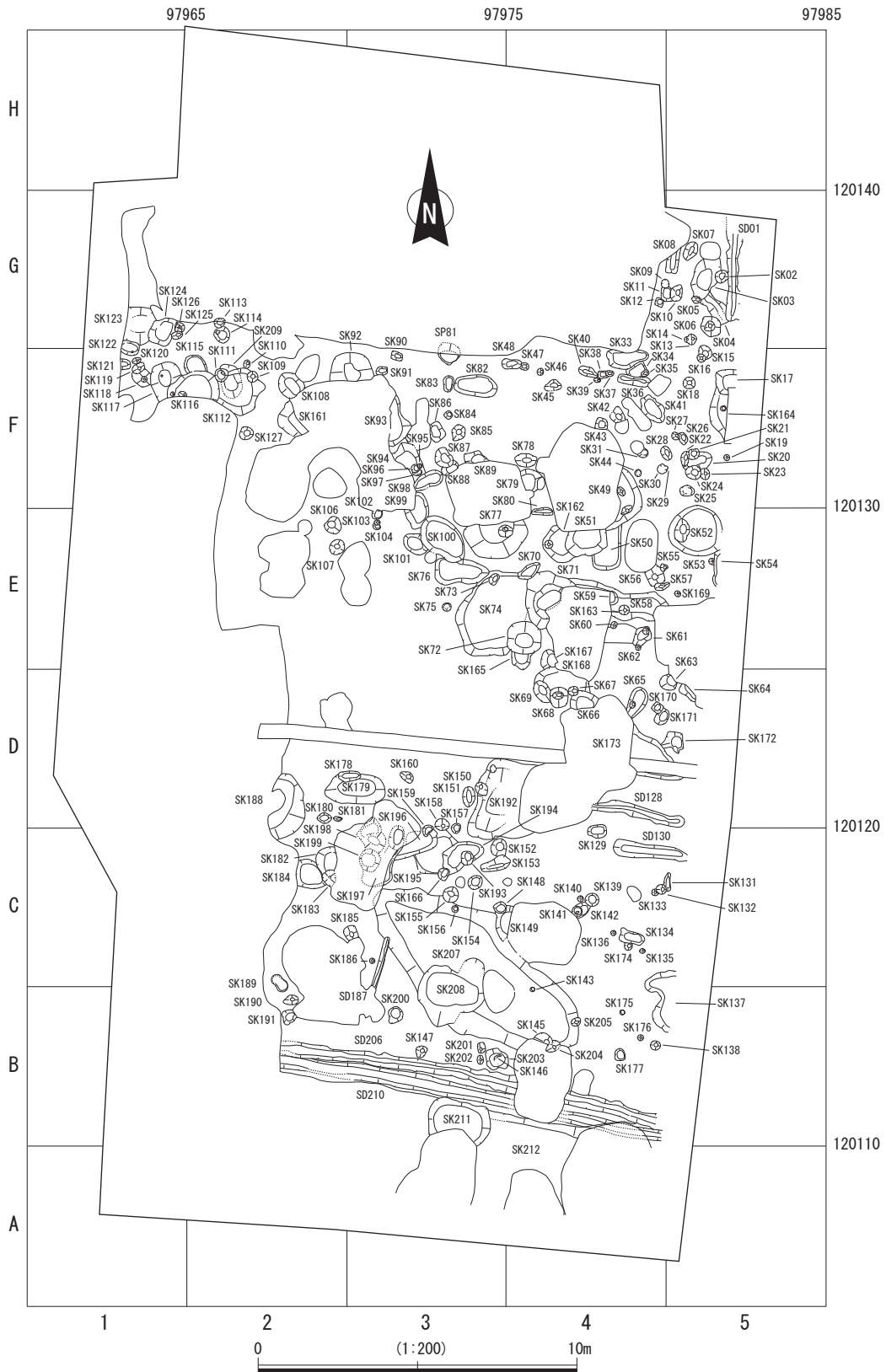
G-5区で検出された土坑。平面形は円形で、直径0.4m、深さ0.1mである。断面形は皿形を呈する。

SK03（第103図）

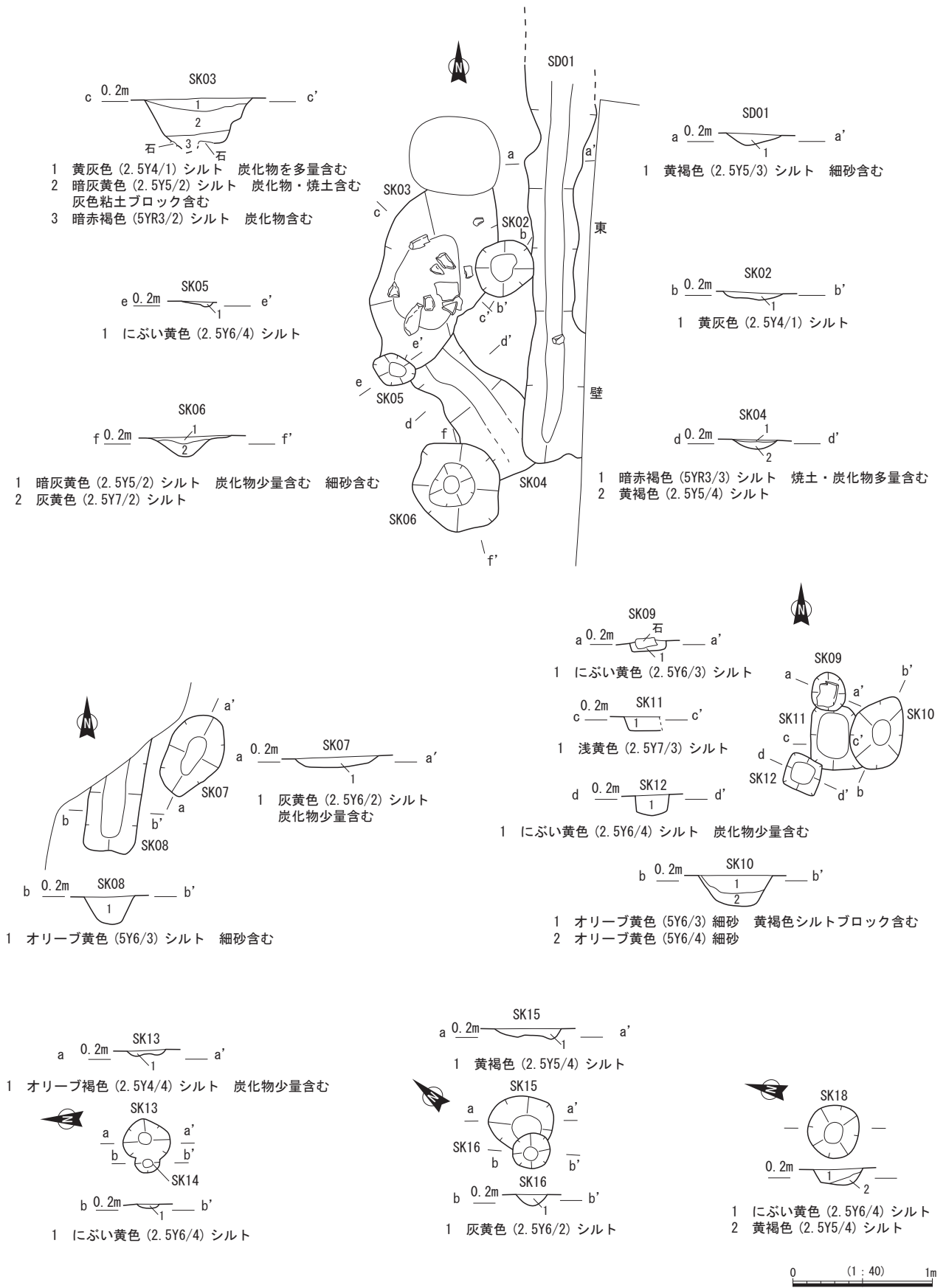
G-5区で検出された土坑。平面形は不整な楕円形で、長径1.3m、短径0.8m、深さ0.4mである。断面形は逆台形を呈する。遺物は備前系陶器の甕（第105図1）が出土した。

SK04（第103図）

G-5区で検出された土坑。平面形は不整形で、南北残存値1.0m、東西0.4～0.5m、深さ0.1mである。断面形はレンズ形を呈する。遺物は鉄製の飾り金具（第106図1）が出土した。



第102図 第1遺構面全体図



第103図 第1遺構面検出遺構(1)

SK05 (第103図)

G-5区で検出された土坑。平面形は不整な楕円形で、長径0.3m、短径0.2m、深さ0.05mである。

SK06 (第103図)

G-5区で検出された土坑。平面形は不整な円形で、直径0.6m、深さ0.1mである。断面は逆三角形を呈する。

SK07 (第103図)

G-5区で検出された土坑。平面形は不整な楕円形で、長径0.6m、短径0.4m、深さ0.1mである。断面は皿形を呈する。

SK08 (第103図)

G-5区で検出された土坑。平面形は長方形で、南北残存値0.8m、東西0.4m、深さ0.2mである。断面は台形を呈する。

SK09 (第103図)

G-4・5区で検出された土坑。平面形は円形で、直径0.2m、深さ0.1mである。断面は長方形を呈する。

SK10 (第103図)

G-5区で検出された土坑。平面形は楕円形で、長径0.5m、短径0.4m、深さ0.2mである。断面は長方形を呈する。

SK11 (第103図)

G-4・5区で検出された土坑。平面形は長方形で、長さ0.4m、残存幅0.3m、深さ0.1mである。断面は台形を呈すると思われる。

SK12 (第103図)

G-4区で検出された土坑。平面形は方形で、一辺0.25m、深さ0.1mである。断面はU字形を呈する。

SK13 (第103図)

G-5区で検出された土坑。平面形は円形で、直径0.3m、深さ0.05mである。断面は不整なレンズ形を呈する。

SK14 (第103図)

G-5区で検出された土坑。平面形は円形で、直径0.2m、深さ0.05mである。断面は皿形を呈する。

SK15 (第103図)

G・F-5区で検出された土坑。平面形は円形で、直径0.5m、深さ0.1mである。断面は不整なレンズ形を呈する。

SK16 (第103図)

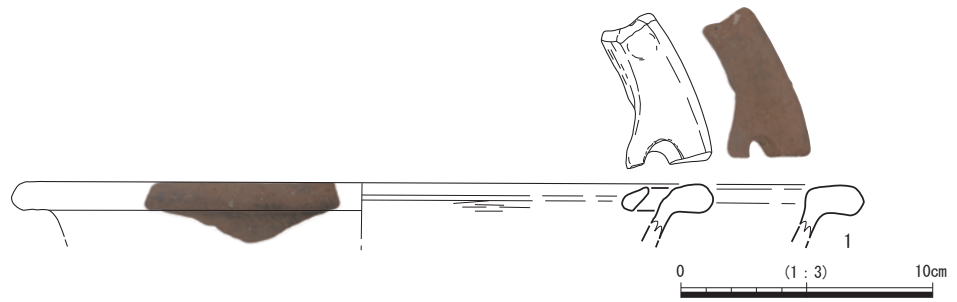
F-5区で検出された土坑。平面形は円形で、直径0.3m、深さ0.1mである。断面はレンズ形を呈する。

SK18 (第103図)

F-5区で検出された土坑。平面形は円形で、直径0.4m、深さ0.1mである。断面は台形を呈する。

SK17 (第110図)

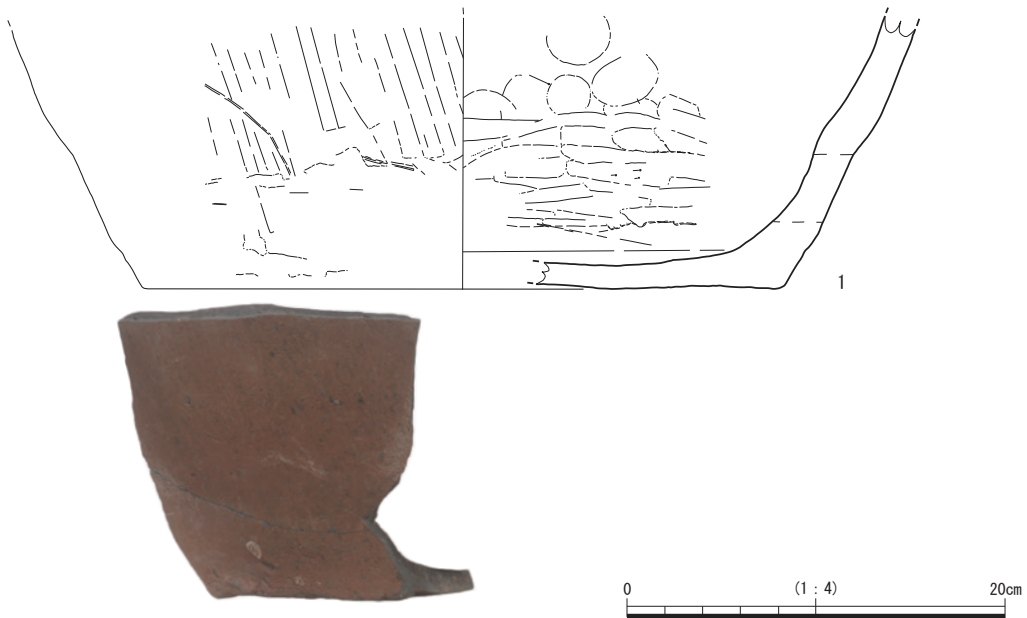
F-5区で検出された土坑。平面形は長方形と判断され、南北0.8m、東西残存値0.6m、深さ0.2mである。断面は台形を呈する。



報告番号	胎質	器種	生産地	口径 (cm)	底径・ 摘み径 (cm)	器高 (cm)	成形技法	釉薬	絵付	装飾技法	銘・刻印・ 墨書	胎土色・ 含有鉱物	遺構・層位	備考
1	土師質 土器	焙烙	御厩系	(27.9)	—	—	粘土紐 巻上げ					にぶい橙色 5YR6/4 長石（極小～中）	SD206	口縁部内側に粘土を付加し、貫通する穿孔を施す、外・内面スス付着 外面：ナデ（口縁部）、縦ハケのちナデ（胴部） 内面：ナデ（口縁部）、横ハケ（胴部）

「—」は、「不明」を示す。（ ）内の数字は、残存部から復元した数値を示す。

第104図 SD206 出土遺物



報告番号	胎質	器種	生産地	口径 (cm)	底径・ 摘み径 (cm)	器高 (cm)	成形技法	釉薬	絵付	装飾技法	銘・刻印・ 墨書	胎土色	遺構・層位	備考
1	陶器	壺?	備前系	—	34.0	—	輪積み 口ケロ					灰色 N6/ 灰色 N5/ 暗赤灰 7.5R4/1 灰色 N5/ (外側→内側)	SK03	

「—」は、「不明」を示す。

第105図 SK03 出土遺物

SK164 (第110図)

F-5区で検出された土坑。平面形は不整形と判断され、南北残存値1.3m、深さ0.1mである。断面は不整なレンズ形を呈する。

SK19 (第110図)

F-5区で検出された土坑。平面形は円形で、直径0.2m、深さ0.1mである。断面はレンズ形を呈する。

SK20 (第110図)

F-5区で検出された土坑。平面形は楕円形で、長径1.0m、残存短径0.6m、深さ0.15mである。断面は不整な台形を呈する。

SK21 (第110図)

F-5区で検出された土坑。平面形は円形で、直径0.3m、深さ0.1mである。断面はレンズ形を呈する。

SK22 (第110図)

F-5区で検出された土坑。平面形は楕円形で、長径0.5m、短径0.2m、深さ0.2mである。断面は不整なU字形を呈する。

SK23 (第110図)

F-5区で検出された土坑。平面形は円形で、直径0.3m、深さ0.1mである。断面はレンズ形を呈する。

SK24 (第110図)

F-5区で検出された土坑。平面形は不整な楕円形で、長径0.5m、短径0.4m、深さ0.2mである。断面は不整な台形を呈する。

SK25 (第110図)

F-5区で検出された土坑。平面形は不整な楕円形で、長径0.5m、短径0.3m、深さ0.3mである。断面は台形を呈する。

SK26 (第110図)

F-5区で検出された土坑。平面形は隅丸方形で、長さ0.4m、幅0.3m、深さ0.1mである。断面は台形を呈する。

SK27 (第110図)

F-5区で検出された土坑。平面形は円形で、直径0.2m、深さ0.1mである。断面はレンズ形を呈する。

SK28 (第110図)

F-4・5区で検出された土坑。平面形は楕円形で、長径0.5m、短径0.3m、深さ0.15mである。断面はレンズ形を呈する。

SK29 (第110図)

F-5区で検出された土坑。平面形は円形で、直径0.1m、深さ0.1mである。断面は逆三角形を呈する。

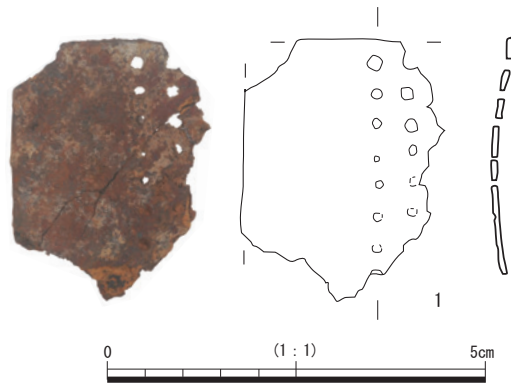
SK30 (第110図)

F-4区で検出された土坑。平面形は円形で、直径0.3m、深さ0.4mである。断面はU字形を呈する。

SK31 (第110図)

F-4区で検出された土坑。平面形は円形で、直径0.3m、深さ0.2mである。断面はU字形を呈する。

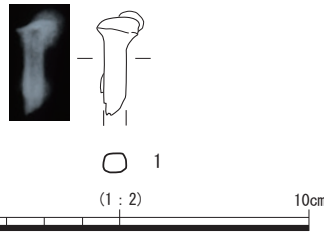
SK33 (第111図)



報告番号	遺物名	最大長 (cm) *	最大幅 (cm) *	最大厚 (cm) *	重量 (g) *	材質 **	遺構・層位	備考
1	飾り金具	[3.5]	[2.7]	0.1	[2.69]	鉄	SK04	貫通・非貫通の孔列。

* [] は残存部のサイズを示す。重量は錆びを含む。
** 肉眼観察による。

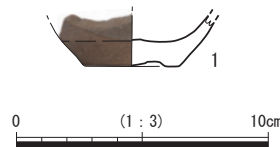
第106図 SK04 出土遺物



報告番号	遺物名	最大長 (cm) *	最大幅 (cm) *	最大厚 (cm) *	重量 (g) *	材質 **	遺構・層位	備考
1	釘	[2.6]	1.2 (頭部)	0.7 (身部)	[2.50]	鉄	SK35	身部断面隅丸方形。

* [] は残存部のサイズを示す。重量は錆びを含む。
** 肉眼観察による。

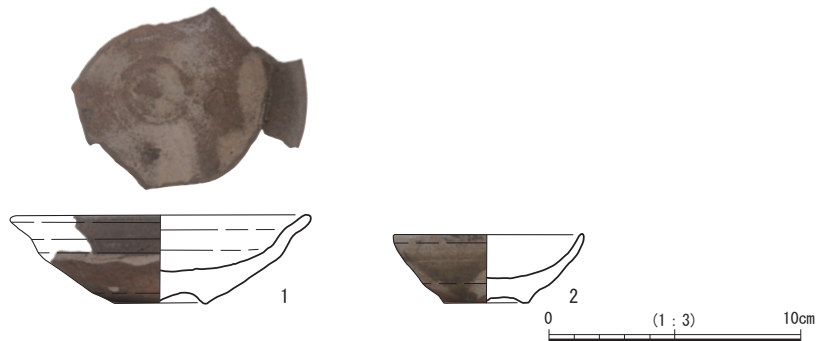
第107図 SK35 出土遺物



報告番号	胎質	器種	生産地	口径 (cm)	底径・摘み径 (cm)	器高 (cm)	成形技法	釉薬	絵付	装飾技法	銘・刻印・墨書	胎土色	遺構・層位	備考
1	陶器	碗	肥前系	—	3.8	—	ロクロ	灰釉 (底部除く)				にぶい黄橙色 10YR7/3	SK162	17世紀前葉

「—」は、「不明」を示す。備考欄に記載した年代は、生産地における製作年代を示す。

第108図 SK162 出土遺物



報告番号	胎質	器種	生産地	口径 (cm)	底径・摘み径 (cm)	器高 (cm)	成形技法	釉薬	絵付	装飾技法	銘・刻印・墨書	胎土色	遺構・層位	備考
1	陶器	皿	肥前系	(11.55)	3.75	3.5	ロクロ	灰釉 (底部除く)				にぶい橙色 7.5YR7/4	SK55	見込胎土目跡、1594～1610年代
2	陶器	小坏	肥前系	7.5	3.4	2.7	ロクロ	灰釉 (底部除く)				にぶい橙色 7.5YR7/4	SK55	17世紀前葉

() 内の数字は、残存部から復元した数値を示す。
備考欄に記載した年代は、生産地における製作年代を示す。

第109図 SK55 出土遺物

F-4区で検出された土坑。平面形は不整形で、南北残存値0.5 m、東西1.3 m、深さ0.1 mである。断面は不整な皿形を呈する。

SK34 (第111図)

F-4区で検出された土坑。平面形は隅丸長方形で、南北残存値0.4 m、東西0.6 m、深さ0.1 mである。断面は不整な皿形を呈する。

SK35 (第111図)

F-4区で検出された土坑。平面形は楕円形で、長径0.3 m、短径0.2 m、深さ0.05 mである。断面はレンズ形を呈する。遺物は鉄製の釘(第107図1)が出土した。

SK36 (第111図)

F-4区で検出された土坑。平面形は楕円形で、長径1.0 m、短径0.3 m、深さ0.15 mである。断面は逆三角形を呈する。

SK37 (第111図)

F-4区で検出された土坑。平面形は楕円形で、長径0.3 m、短径0.2 m、深さ0.1 mである。断面は不整なレンズ形を呈する。

SK38 (第111図)

F-4区で検出された土坑。平面形は不整な隅丸長方形で、南北0.2 m、東西0.3 m、深さ0.1 mである。断面はU字形を呈する。

SK39 (第111図)

F-4区で検出された土坑。平面形は楕円形で、長径0.2 m、短径0.1 m、深さ0.05 mである。断面は不整な逆三角形を呈する。

SK40 (第111図)

F-4区で検出された土坑。平面形は不整形で、南北0.3 m、東西0.6 m、深さ0.1 mである。断面は皿形を呈する。

SK41 (第111図)

F-4区で検出された土坑。平面形は不整形で、南北1.0 m、東西0.6 m、深さ0.1 mである。断面は皿形を呈する。

SK42 (第111図)

F-4区で検出された土坑。平面形は不整形で、南北0.5 m、東西0.4 m、深さ0.1 mである。断面は皿形を呈する。

SK43 (第111図)

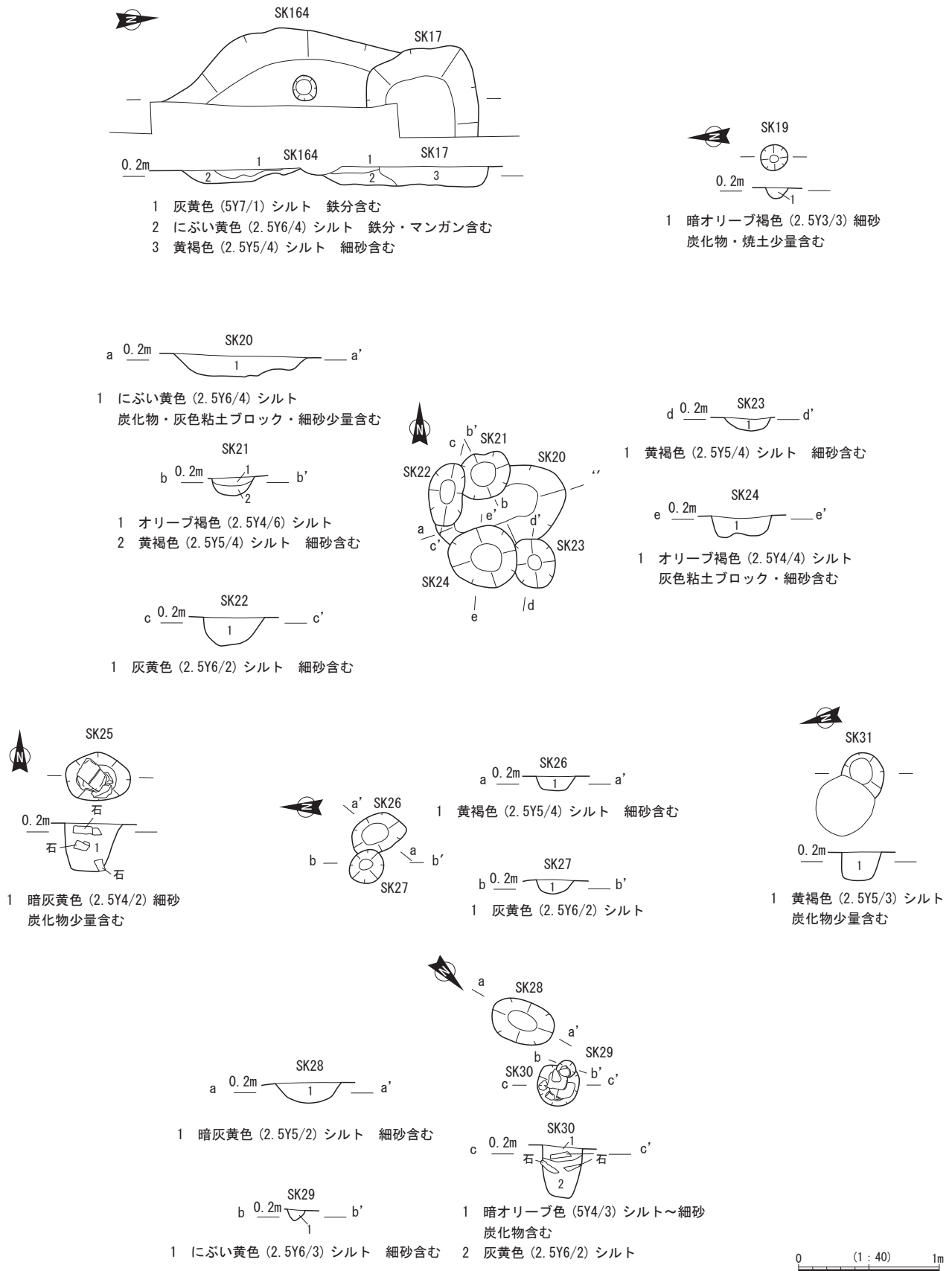
F-4区で検出された土坑。平面形は隅丸の方形で、南北残存値0.4 m、東西0.4 m、深さ0.1 mである。断面は不整な皿形を呈する。

SK44 (第111図)

F-4区で検出された土坑。平面形は円形で、直径0.2 m、深さ0.05 mである。断面は皿形を呈する。

SK45 (第111図)

F-4区で検出された土坑。平面形は不整形で、南北0.3 m、東西0.5 m、深さ0.1 mである。断面



第110図 第1遺構面検出遺構(2)

は不整な皿形を呈する。

SK46 (第 111 図)

F-4 区で検出された土坑。平面形は円形で、直径 0.2 m、深さ 0.1 m である。断面は台形を呈する。

SK47 (第 111 図)

F-4 区で検出された土坑。平面形は楕円形で、長径 0.3 m、短径 0.2 m、深さ 0.1 m である。断面は台形を呈する。

SK48 (第 111 図)

F-3・4 区で検出された土坑。平面形は不整な楕円形で、長径 0.6 m、短径 0.3 m、深さ 0.1 m である。断面はレンズ形を呈する。

SK49 (第 112 図)

E・F-4 区で検出された土坑。平面形は隅丸方形と推定され、南北残存値 1.4 m、東西残存値 1.4 m、深さ 0.2 m である。断面は台形を呈すると考える。

SK50 (第 112 図)

E-4 区で検出された土坑。平面形は隅丸長方形と推定され、南北残存値 1.2 m、東西 0.9 m、深さ 0.2 m である。断面は不整なレンズ形を呈する。

SK51 (第 112 図)

E-4 区で検出された土坑。平面形は不整形で、南北残存値 0.8 m、東西 1.3 m、深さ 0.3 m である。断面は不整なレンズ形を呈する。

SK162 (第 112 図)

E-4 区で検出された土坑。平面形は不整形で、南北 1.2 m、東西残存値 0.7 m、深さ 0.1 m である。断面は台形を呈する。遺物は 17 世紀前葉の肥前系陶器の碗 (第 108 図 1) が出土した。

SK52 (第 112 図)

E-5 区で検出された土坑。平面形は楕円形で、長径 1.7 m、短径 1.6 m、深さ 0.3 m である。断面は不整な台形を呈する。

SK53 (第 112 図)

E-5 区で検出された土坑。平面形は円形で、直径 0.2 m、深さ 0.1 m である。断面はU字形を呈する。

SK54 (第 112 図)

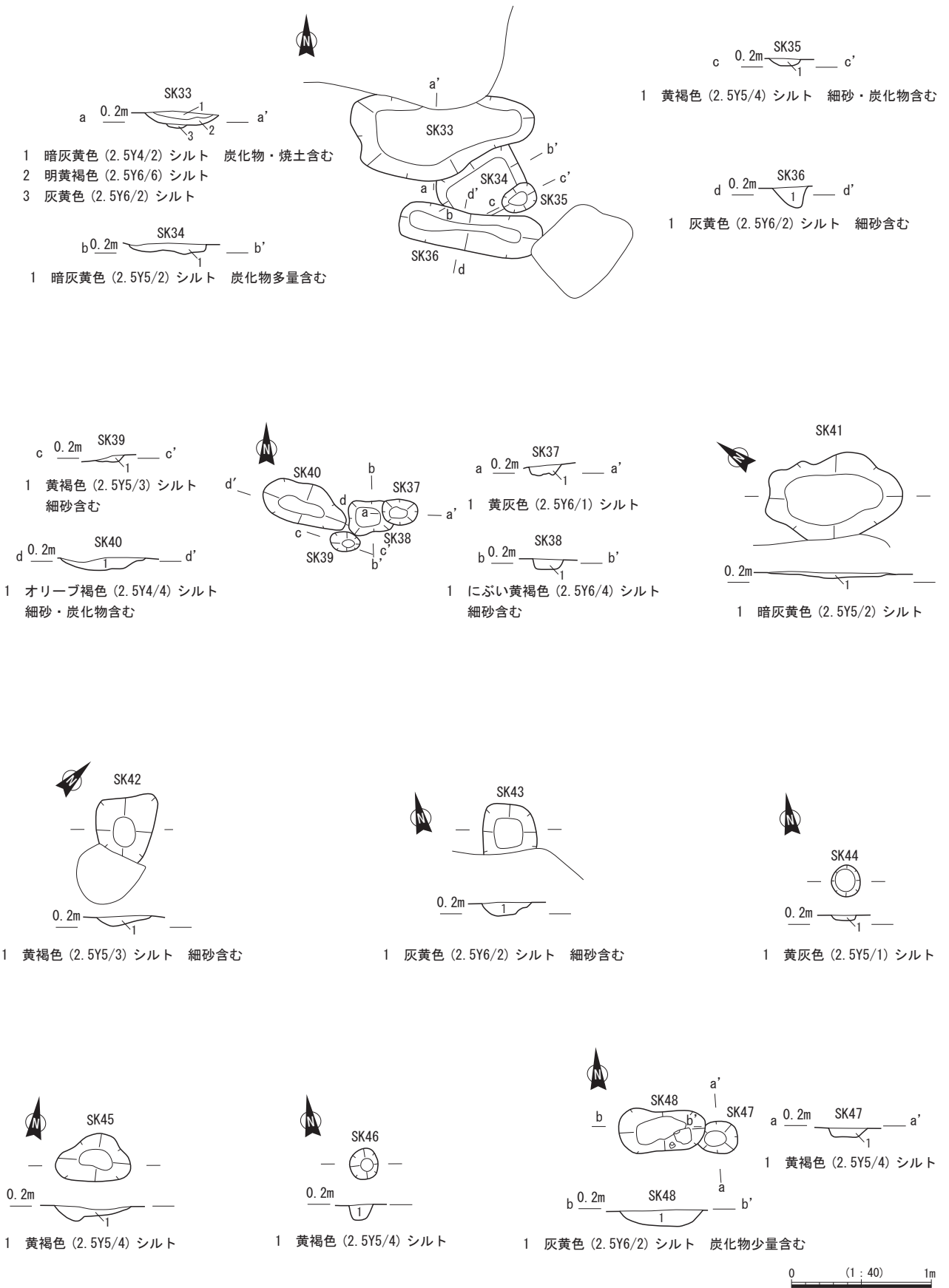
E-5 区で検出された土坑。平面形は不整形で、南北残存値 1.2 m、東西残存値 0.2 m、深さ 0.1 m である。断面は長方形を呈する。

SK55 (第 112 図)

E-4・5 区で検出された土坑。平面形は不整な三角形で、東西 0.2 m、南北 0.2 m、深さ 0.2 m である。断面はU字形を呈する。遺物は、16 世紀末～17 世紀初めの肥前系陶器の皿 (第 109 図 1)、17 世紀前葉の肥前系陶器の小坏 (第 109 図 2) が出土した。

SK56 (第 112 図)

E-4 区で検出された土坑。平面形は不整な長方形で、南北残存値 0.6 m、東西残存値 0.5 m、深さ 0.2 m である。断面はレンズ形を呈する。



第111図 第1遺構面検出遺構(3)

SK57 (第112図)

E-4・5区で検出された土坑。平面形は不整な楕円形で、長径0.5m、短径0.2m、深さ0.2mである。断面はレンズ形を呈する。

SK58 (第113図)

E-4・5区で検出された土坑。平面形は不整形で、南北0.8～0.9m、東西残存値3.2m、深さ0.1mである。断面は皿形を呈する。

SK59 (第113図)

E-4区で検出された土坑。平面形は円形と推定され、直径0.4m、深さ0.4mである。断面は不整なU字形を呈する。

SK163 (第113図)

E-4区で検出された土坑。平面形は円形で、直径0.3m、深さ0.2mである。断面はU字形を呈する。

SK60 (第113図)

E-4区で検出された土坑。平面形は不整な円形で、直径0.2m、深さ0.1mである。断面はU字形を呈する。

SK61 (第113図)

E-4区で検出された土坑。平面形は不整な楕円形で、長径0.7m、短径0.5m、深さ0.2mである。断面はレンズ形を呈する。遺物は頁岩製の基石(第114図1)が出土した。

SK62 (第113図)

E-4区で検出された土坑。平面形は円形で、直径0.2m、深さ0.1mである。断面はレンズ形を呈する。

SK63 (第113図)

D-4・5区で検出された土坑。平面形は不整な円形で、直径0.5m、深さ0.2mである。断面は不整なレンズ形を呈する。

SK64 (第113図)

D-5区で検出された土坑。平面形は不整形で、残存長0.7m、残存幅0.3m、深さ0.1mである。断面は皿形を呈する。

SK65 (第113図)

D-4区で検出された土坑。平面形は楕円形で、南北残存値0.9m、東西0.5m、深さ0.1mである。断面は台形を呈する。

SK66 (第113図)

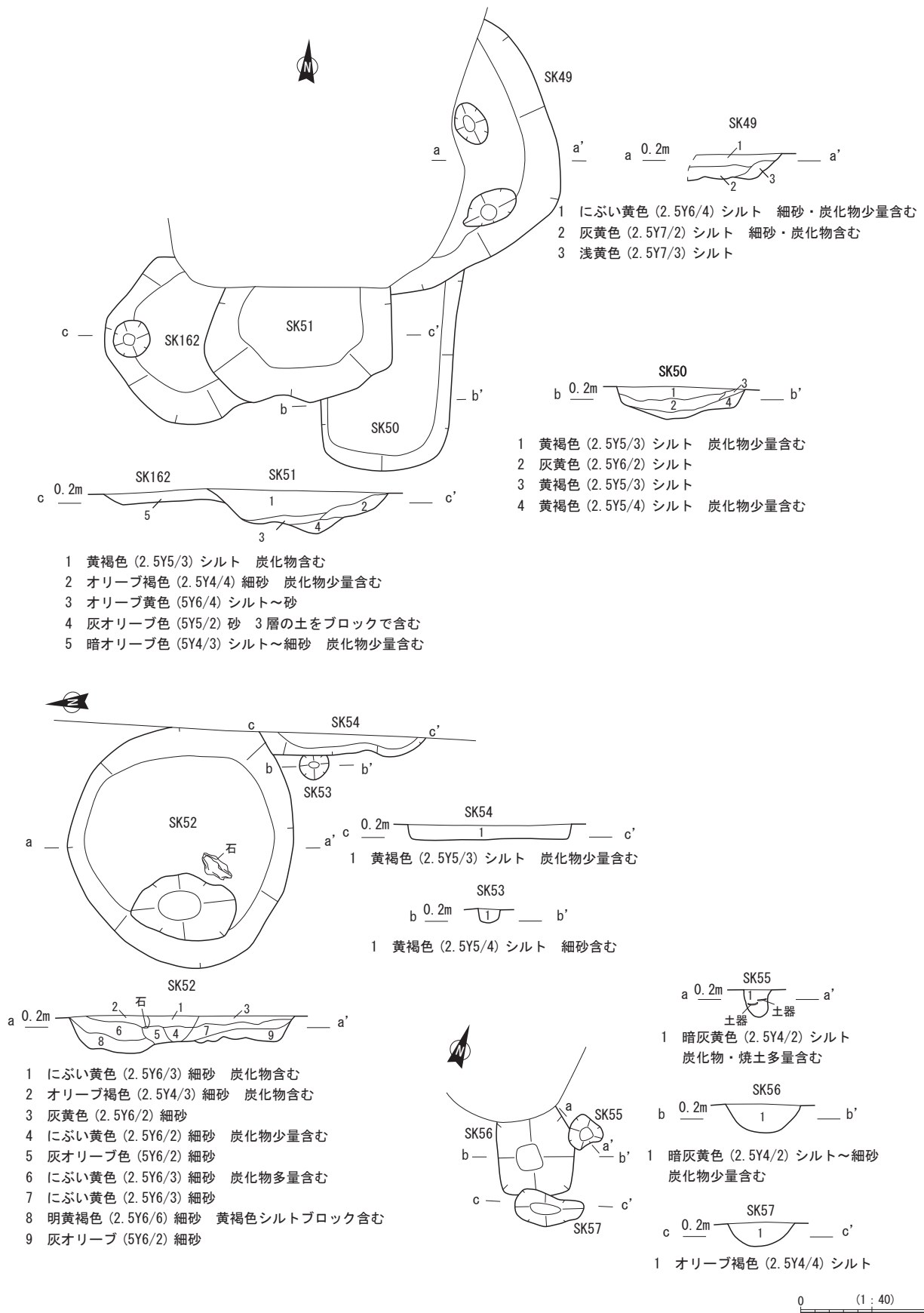
D-4区で検出された土坑。平面形は隅丸方形と推定され、南北残存値0.5m、東西残存値0.9m、深さ0.2mである。断面はレンズ形を呈する。

SK67 (第113図)

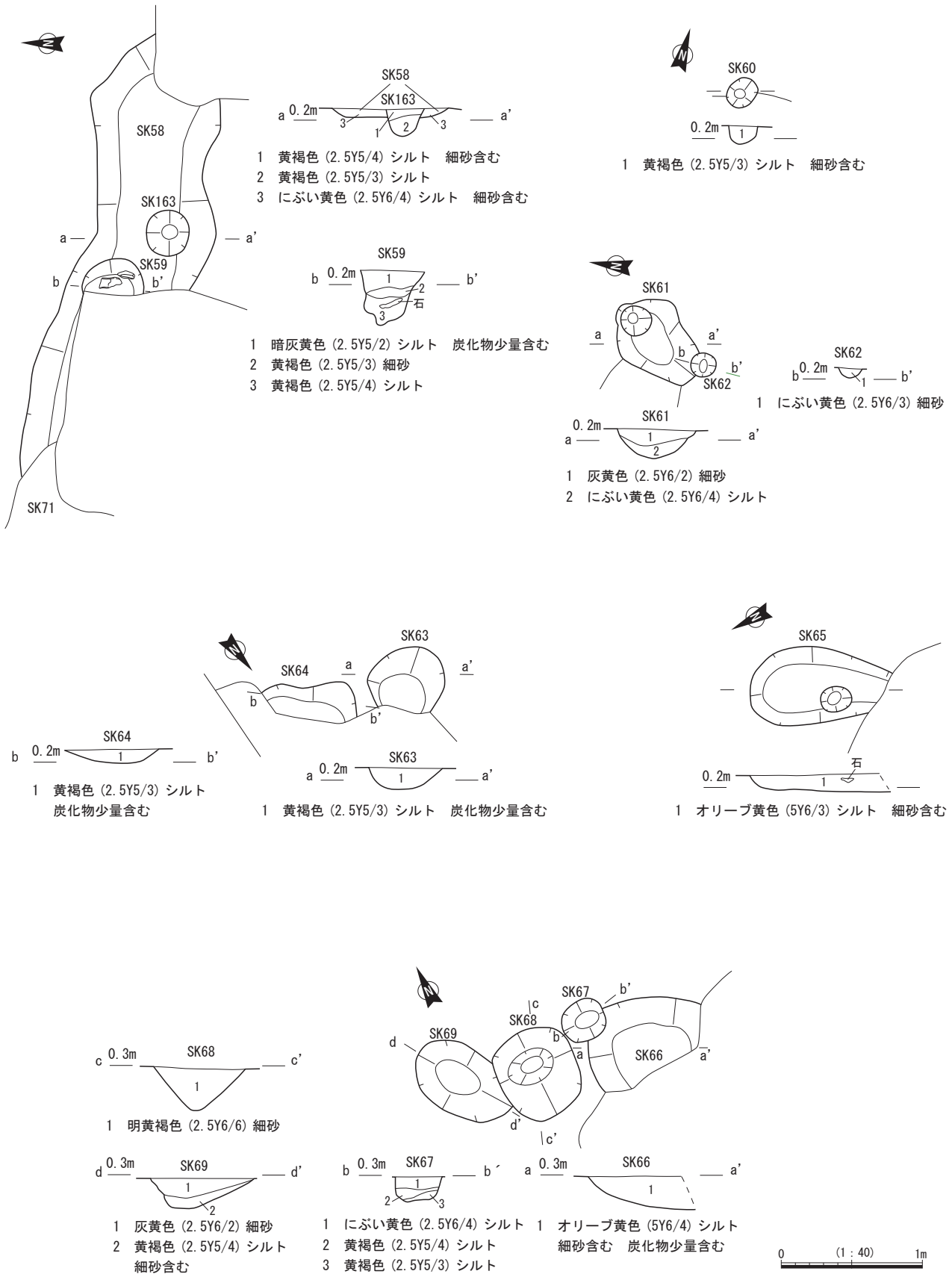
D-4区で検出された土坑。平面形は隅丸方形で、南北0.3m、東西0.3m、深さ0.2mである。断面は不整なU字形を呈する。

SK68 (第113図)

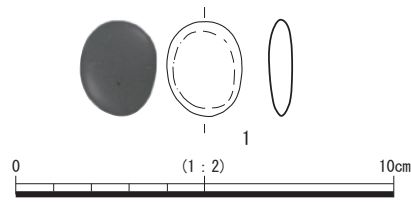
D-4区で検出された土坑。平面形は隅丸方形で、南北0.6m、東西0.6m、深さ0.3mである。断



第112図 第1遺構面検出遺構(4)



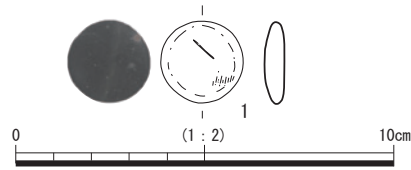
第113図 第1遺構面検出遺構 (5)



報告番号	遺物名	最大長 (cm) *	最大幅 (cm) *	最大厚 (cm) *	重量 (g) *	石材 **	遺構・層位	備考
1	基石	2.5	2.0	0.6	4.62	頁岩	SK61	

* [] は残存部のサイズ・重量を示す。
** 肉眼観察による。

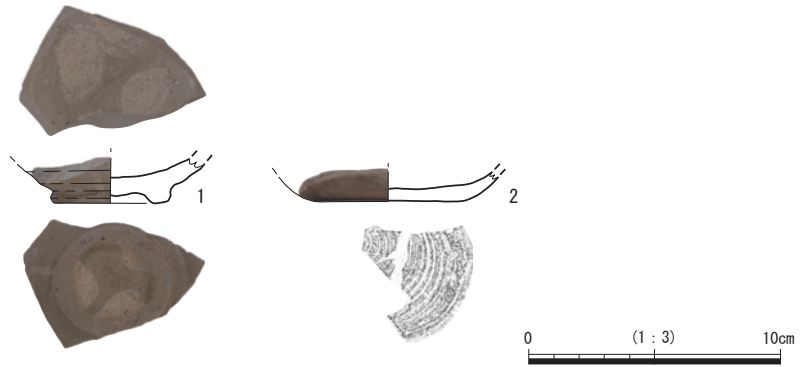
第114図 SK61 出土遺物



報告番号	遺物名	最大長 (cm) *	最大幅 (cm) *	最大厚 (cm) *	重量 (g) *	石材 **	遺構・層位	備考
1	基石	2.2	2.2	0.5	4.27	頁岩	SK81	

* [] は残存部のサイズ・重量を示す。
** 肉眼観察による。

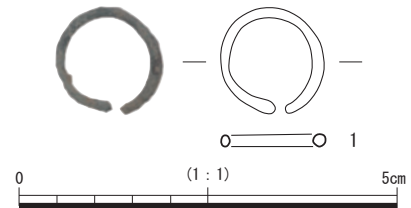
第115図 SP81 出土遺物



報告番号	胎質	器種	生産地	口径 (cm)	底径・ 摘み径 (cm)	器高 (cm)	成形技法	釉薬	絵付	装飾技法	銘・刻印・ 墨書	胎土色・ 含有鉱物	遺構・層位	備考
1	陶器	皿	肥前系	-	4.55	-	ロク口	灰釉 (底部除く)				灰白色 7.5Y7/1	SK99	見込・高台内砂目、1610 ~ 1690年代
2	土師質 土器	皿	-	-	(6.0)	-	ロク口					浅黄褐色 10YR8/3 長石・石英 (極 小、少量)	SK99	内面全面・胴部外面スチ着 外面：回転方向不明糸切り 離し (底部)、回転ナデ 内面：回転ナデ

「-」は、「不明」を示す。() 内の数字は、残存部から復元した数値を示す。
含有鉱物は、土器のみ記載。備考欄に記載した年代は、生産地における製作年代を示す。

第116図 SK99 出土遺物



報告番号	遺物名	最大長 (cm) *	最大幅 (cm) *	最大厚 (cm) *	重量 (g) *	材質 **	遺構・層位	備考
1	輪状銅製品	1.4	1.4	0.2	0.38	銅	SK116	

* [] は残存部のサイズを示す。重量は錆びを含む。
** 肉眼観察による。

第117図 SK116 出土遺物

面は逆三角形を呈する。

SK69 (第 113 図)

D-4 区で検出された土坑。平面形は楕円形で、長径 0.7 m、短径 0.5 m、深さ 0.2 m である。断面は不整な逆三角形を呈する。

SK70 (第 118 図)

E-4 区で検出された土坑。平面形は楕円形で、長径 0.8 m、短径 0.4 m、深さ 0.1 m である。断面は不整な皿形を呈する。

SK71 (第 118 図)

E-4 区で検出された土坑。平面形は不整形で、南北 1.8 m、東西 1.5 m、深さ 0.5 m である。断面は不整なレンズ形を呈する。

SK72 (第 118 図)

E-4 区で検出された土坑。平面形は不整な円形で、直径 1.0 m、深さ 0.3 m である。断面は不整なレンズ形を呈する。

SK73 (第 118 図)

E-3 区で検出された土坑。平面形は楕円形で、長径 0.4 m、短径 0.3 m、深さ 0.1 m である。断面は皿形を呈する。

SK74 (第 118 図)

E-3・4 区で検出された土坑。平面形は不整な長方形で、南北 2.7 m、東西残存値 2.2 m、深さ 0.1 m である。断面は皿形を呈する。

SK75 (第 118 図)

E-3 区で検出された土坑。平面形は円形で、直径 0.3 m、深さ 0.1 m である。断面は皿形を呈する。

SK76 (第 118 図)

E-3 区で検出された土坑。平面形は不整形で南北 0.8 m、東西 1.7 m、深さ 0.1 m である。断面は不整な皿形を呈する。

SK77 (第 119 図)

E-3・4 区で検出された土坑。平面形は不整形で、南北 1.1 m、東西 2.0 m、深さ 0.3 m である。不整な皿形を呈し、一部深い。

SK78 (第 119 図)

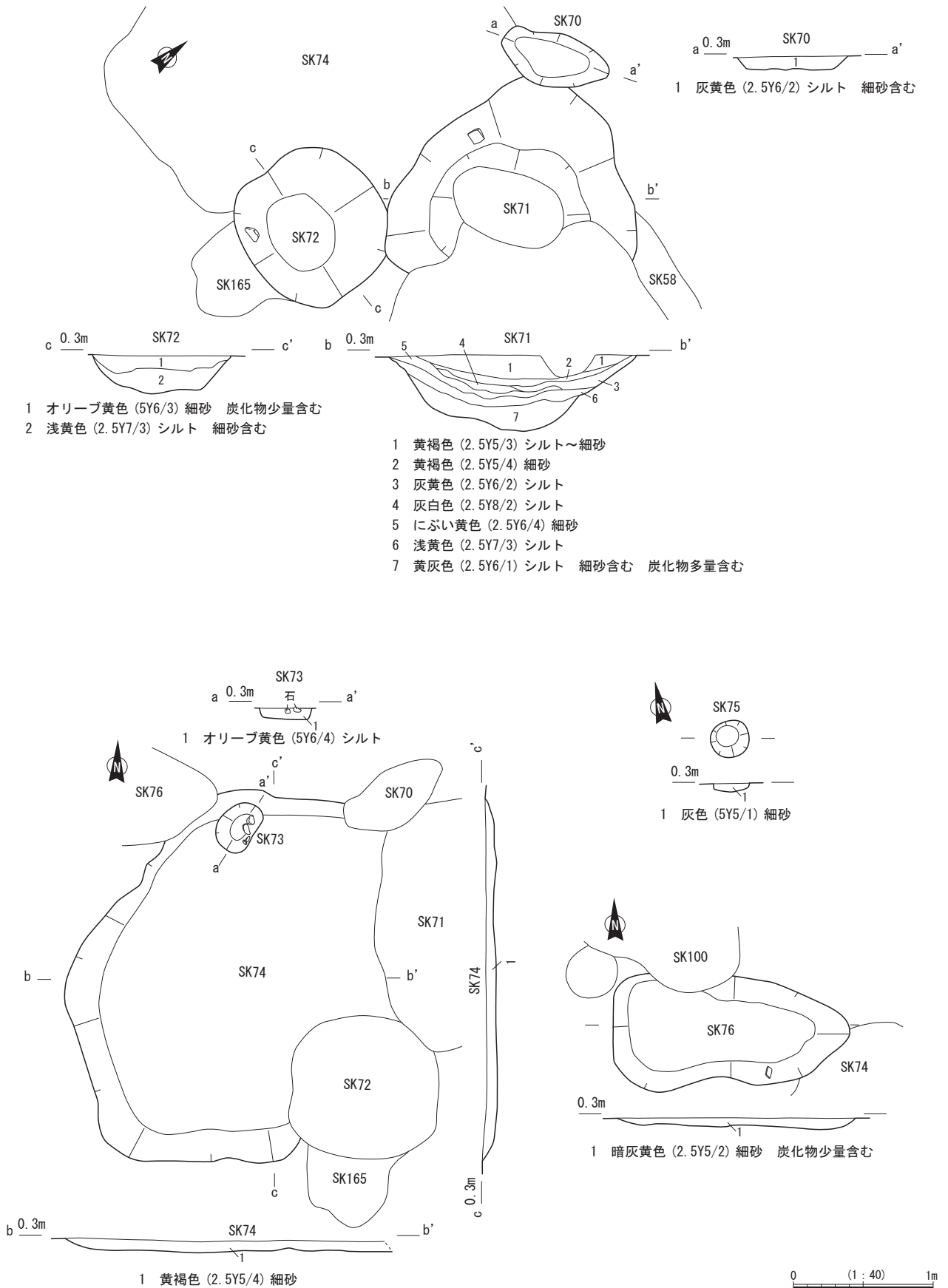
F-4 区で検出された土坑。平面形は不整な楕円形で、長径 0.7 m、短径 0.4 m、深さ 0.2 m である。断面は不整なレンズ形を呈する。

SK79 (第 119 図)

F-4 区で検出された土坑。平面形は楕円形と推定され、長径 0.8 m、短径 0.6 m、深さ 0.1 m である。断面は不整なレンズ形を呈する。

SK80 (第 119 図)

E-4 区で検出された土坑。平面形は不整な楕円形で、長径 0.7 m、短径 0.2 m、深さ 0.1 m である。断面は不整な台形を呈する。



第118図 第1遺構面検出遺構(6)

SP81 (第119図)

F-3区で検出された柱穴。平面形は不整な円形と推定され、直径0.7m、深さ0.8mである。断面に柱の痕跡がみられる。断面は不整なU字形を呈する。遺物は頁岩製の基石(第115図1)が出土した。

SK82 (第119図)

F-3区で検出された土坑。平面形は楕円形で、長径1.3m、短径0.7m、深さ0.1mである。断面は不整な皿形を呈する。

SK83 (第119図)

F-3区で検出された土坑。平面形は楕円形で、長径0.5m、短径0.3m、深さ0.05mである。断面は皿形を呈する。

SK84 (第119図)

F-3区で検出された土坑。平面形は方形で、一辺0.2m、深さ0.1mである。断面はU字形を呈する。

SK85 (第119図)

F-3区で検出された土坑。平面形は不整形で、南北0.5m、東西0.4m、深さ0.1mである。断面は不整なレンズ形を呈する。

SK86 (第119図)

F-3区で検出された土坑。平面形は長方形で、長さ0.6m、幅0.5m、深さ0.2mである。断面はレンズ形を呈する。

SK87 (第119図)

F-3区で検出された土坑。平面形は不整な楕円形で、長径0.6m、短径0.5m、深さ0.2mである。断面はレンズ形を呈する。

SK88 (第119図)

F-3区で検出された土坑。平面形は不整な楕円形と推定され、長径0.6m、残存短径0.3m、深さ0.1mである。断面は不整な逆三角形を呈する。

SK89 (第119図)

F-3区で検出された土坑。平面形は不整形で、南北残存値0.4m、東西0.7m、深さ0.1mである。断面はレンズ形を呈する。

SK90 (第120図)

F-3区で検出された土坑。平面形は長方形で、南北0.3m、東西0.4m、深さ0.1mである。断面はレンズ形を呈する。

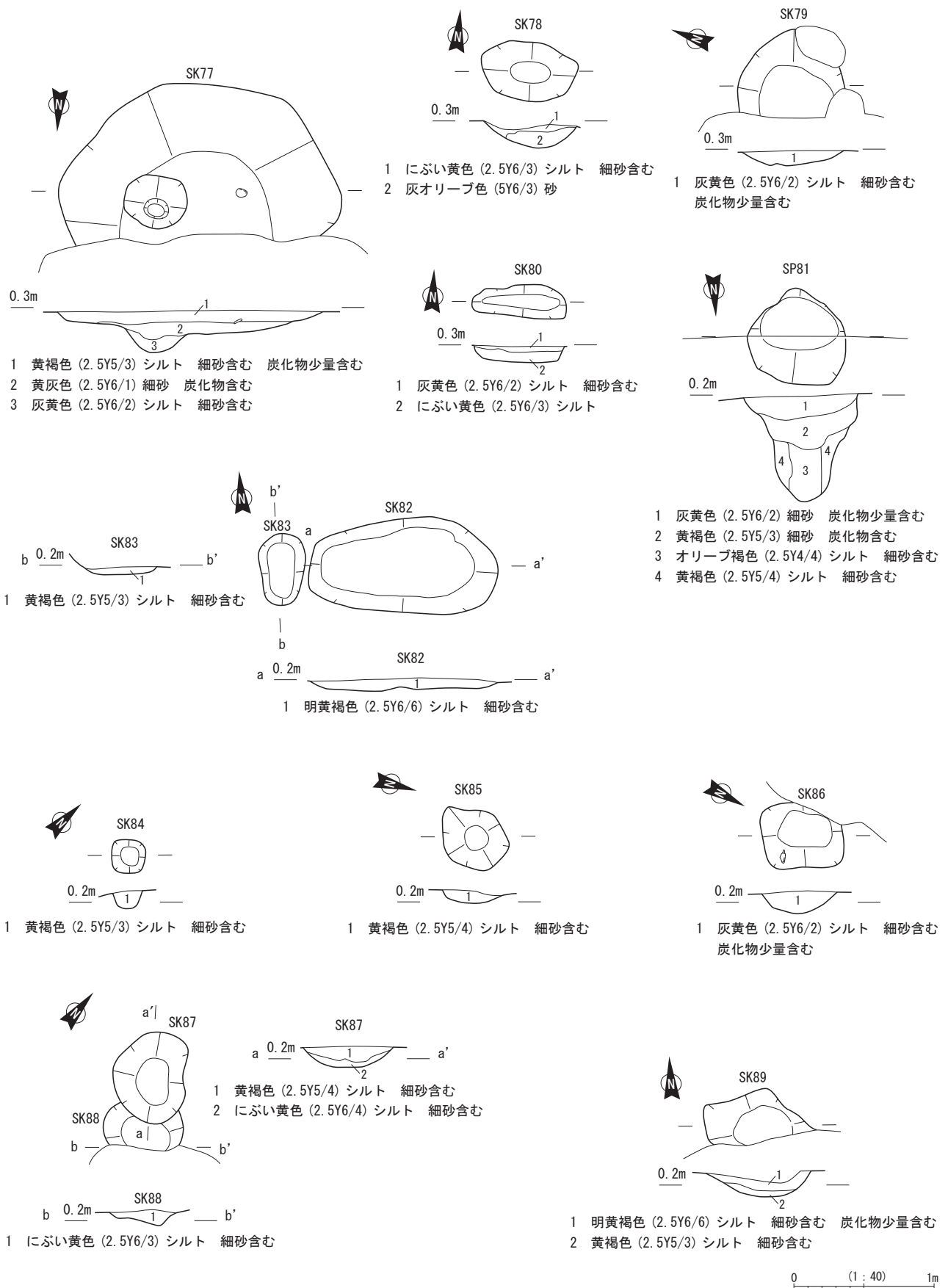
SK91 (第120図)

F-3区で検出された土坑。平面形は不整な楕円形で、長径0.4m、短径0.3m、深さ0.1mである。断面はレンズ形を呈する。

SK92 (第120図)

F-2・3区で検出された土坑。平面形は隅丸方形と推定され、南北残存値0.9m、東西1.4m、深さ0.2mである。断面はレンズ形を呈する。

SK93 (第120図)



第119図 第1遺構面検出遺構 (7)

F-3 区で検出された土坑。平面形は不整形で、南北 1.6 m、東西残存値 0.7 m、深さ 0.1 m である。断面は不整な皿形を呈する。

SK94 (第 120 図)

F-3 区で検出された土坑。平面形は不整形で、南北残存値 1.3 m、東西残存値 0.8 m、深さ 0.4 m である。断面は皿形で、一部は逆三角形を呈する。

SK95 (第 120 図)

F-3 区で検出された土坑。平面形は円形で、直径 0.2 m、深さ 0.1 m である。断面は不整なU字形を呈する。

SK96 (第 120 図)

F-3 区で検出された土坑。平面形は円形で、直径 0.3 m、深さ 0.3 m である。断面はU字形を呈する。

SK97 (第 120 図)

F-3 区で検出された土坑。平面形は楕円形で、長径 0.3 m、短径 0.2 m、深さ 0.1 m である。断面はレンズ形を呈する。

SK98 (第 120 図)

F-3 区で検出された土坑。平面形は楕円形で、長径 1.0 m、短径 0.5 m、深さ 0.1 m である。断面は不整な皿形を呈する。

SK99 (第 120 図)

E・F-3 区で検出された土坑。平面形は隅丸長方形で、南北 1.1 m、東西 0.8 m、深さ 0.2 m である。断面は不整なU字形を呈する。遺物は、17 世紀代の肥前系陶器の皿 (第 116 図 1) と土師質土器の皿 (第 116 図 2) が出土した。

SK100 (第 120 図)

E-3 区で検出された土坑。平面形は不整な楕円形で、長径 1.7 m、短径 1.1 m、深さ 0.1 m である。断面は皿形を呈する。

SK101 (第 120 図)

E-3 区で検出された土坑。平面形は楕円形で、長径 0.8 m、短径 0.7 m、深さ 0.2 m である。断面はレンズ形を呈する。

SK102 (第 121 図)

E-3 区で検出された土坑。平面形は円形で、直径 0.4 m、深さ 0.1 m である。断面はレンズ形を呈する。

SK103 (第 121 図)

E-3 区で検出された土坑。平面形は円形で、直径 0.2 m、深さ 0.2 m である。断面はU字形を呈する。

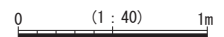
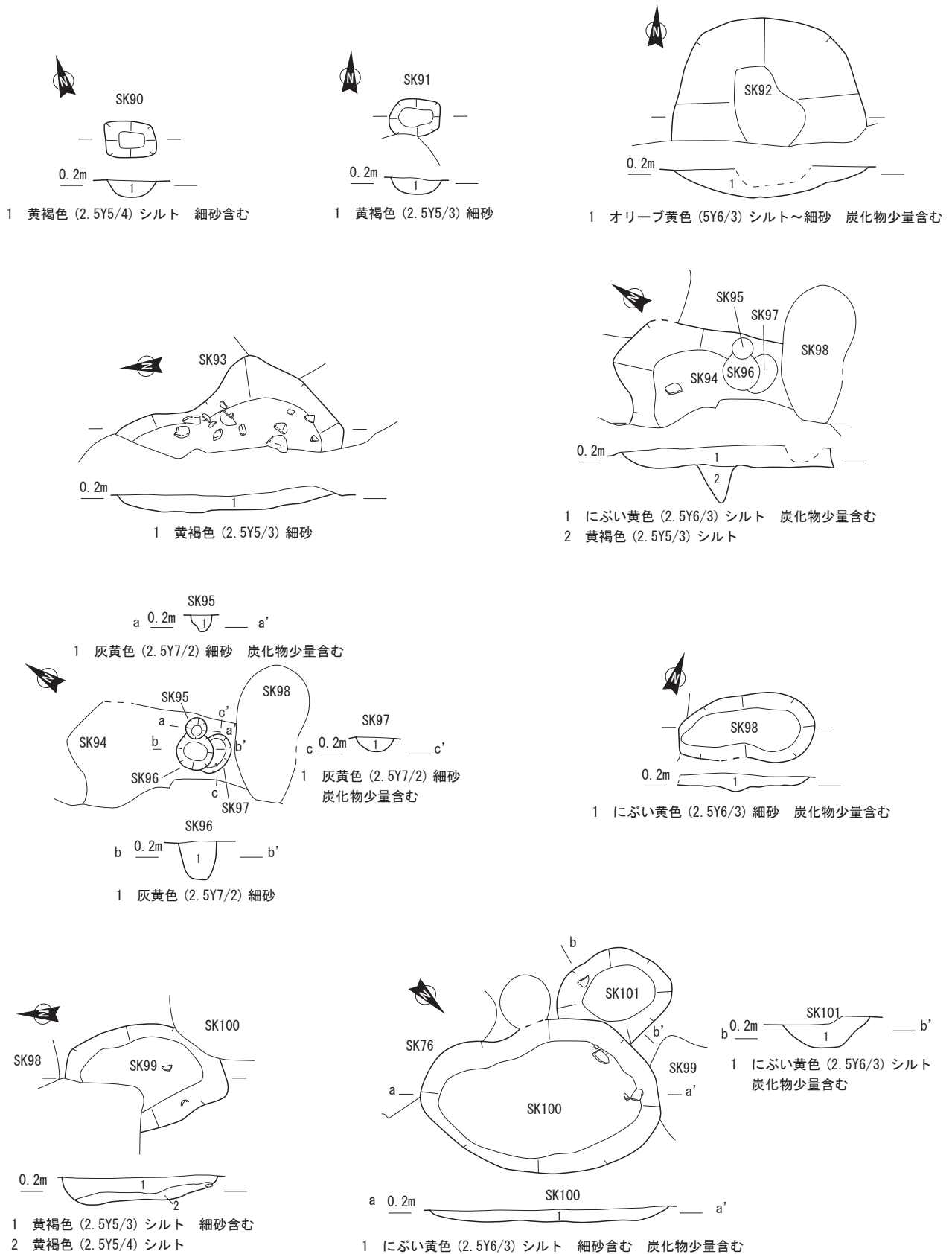
SK104 (第 121 図)

E-3 区で検出された土坑。平面形は円形で、直径 0.3 m、深さ 0.2 m である。断面はU字形を呈する。

SK106 (第 121 図)

E-2 区で検出された土坑。平面形は不整な円形で、直径 0.5 m、深さ 0.05 m である。断面は皿形を呈する。

SK107 (第 121 図)



第120図 第1遺構面検出遺構(8)

E-2区で検出された土坑。平面形は円形で、直径0.5m、深さ0.1mである。断面は不整な台形を呈する。

SK108 (第121図)

F-2区で検出された土坑。平面形は楕円形で、残存長径0.8m、短径0.7m、深さ0.2mである。断面は皿形を呈する。

SK113 (第121図)

G-2区で検出された土坑。平面形は不整な円形で、直径0.4m、深さ0.1mである。断面は不整な皿形を呈する。

SK114 (第121図)

G-2区で検出された土坑。平面形は円形で、直径0.5m、深さ0.1mである。断面は不整な皿形を呈する。

SK109 (第121図)

F-2区で検出された土坑。平面形は円形で、直径0.3m、深さ0.1mである。断面は皿形を呈する。

SK110 (第121図)

F-2区で検出された土坑。平面形は楕円形で、長径0.3m短径0.2m、深さ0.1mである。断面はレンズ形を呈する。

SK111 (第121図)

F-2区で検出された土坑。平面形は不整な円形で、直径0.4m、深さ0.05mである。断面は不整な皿形を呈する。

SK112 (第121図)

F-2区で出された土坑。平面形は不整形で、南北1.4m、東西残存値1.5m、深さ0.1mである。断面は皿形を呈する。

SK115 (第121図)

F-1・2区で検出された土坑。平面形は不整な円形と推定され、長径残存値0.7m、短径0.7m、深さ0.05mである。断面はレンズ形を呈する。

SK116 (第121図)

F-1・2区で検出された土坑。平面形は楕円形と推定され、長径1.6m、残存短径0.8m、深さ0.3mである。断面はいびつなレンズ形を呈し、一部深い。遺物は輪状銅製品(第117図1)が出土した。

SK117 (第121図)

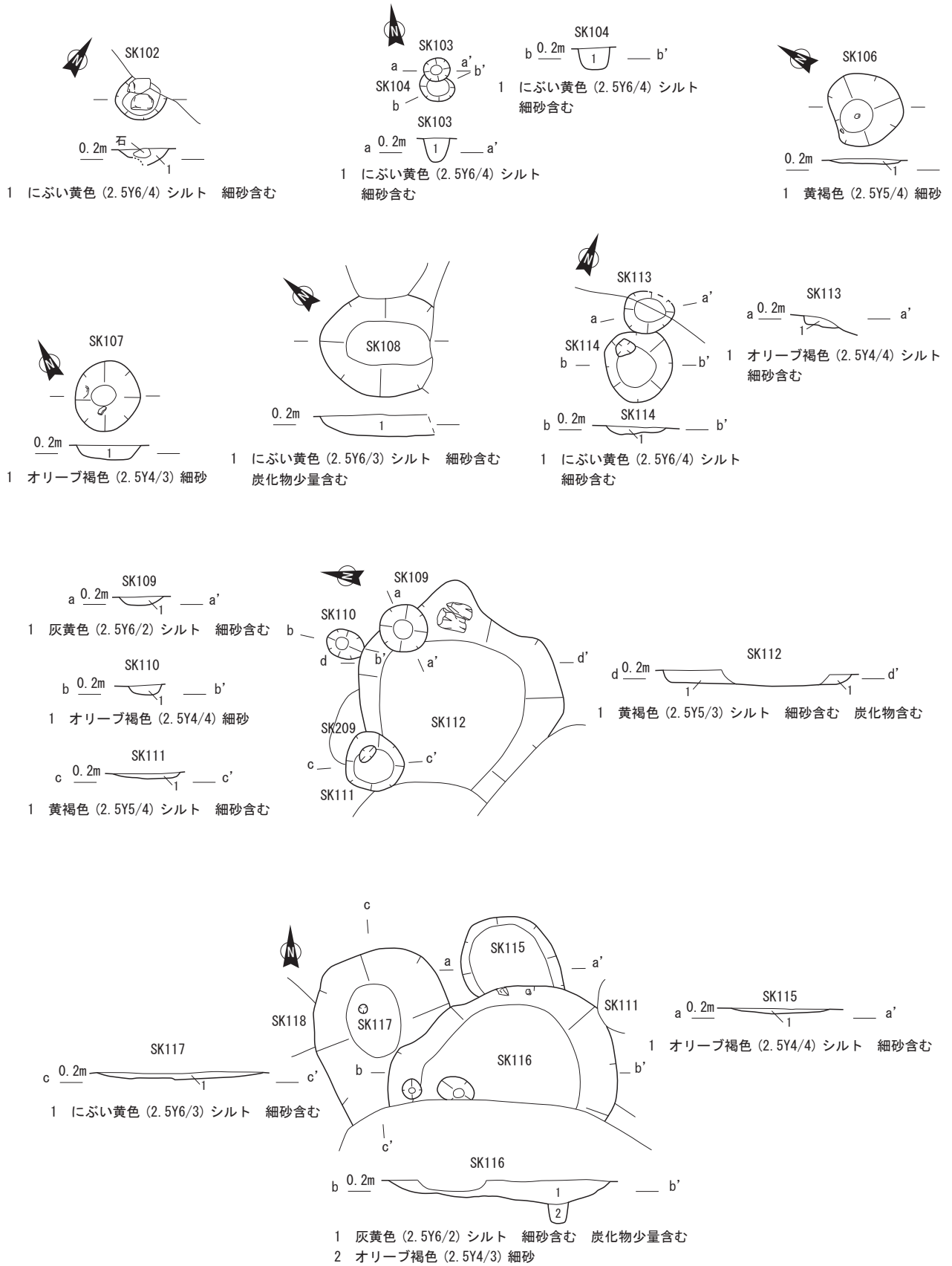
F-1区で検出された土坑。平面形は隅丸長方形と推定され、南北残存値1.1m、東西1.0m、深さ0.05mである。断面は皿形を呈する。

SK118 (第122図)

F-1区で検出された土坑。平面形は隅丸長方形で、長さ0.6m、幅0.4m、深さ0.1mである。断面は不整なレンズ形を呈する。

SK119 (第122図)

F-1区で検出された土坑。平面形は隅丸長方形か楕円形で、長さ0.4m、幅0.3m、深さ0.1mである。



第121図 第1遺構面検出遺構(9)

断面は逆三角形を呈する。

SK120 (第 122 図)

F-1 区で検出された土坑。平面形は楕円形で、長径 0.3 m、短径 0.2 m、深さ 0.1 m である。断面は不整なレンズ形を呈する。

SK121 (第 122 図)

F-1 区で検出された土坑。平面形は長方形と推定され、長軸残存値 0.3 m、短軸 0.3 m、深さ 0.05 m である。断面は不整な皿形を呈する。

SK122 (第 122 図)

F・G-1 区で検出された土坑。平面形は隅丸方形で、南北 0.4 m、東西残存値 0.6 m、深さ 0.05 m である。断面は皿形を呈する。

SK123 (第 122 図)

G-1 区で検出された土坑。平面形は円形と推定され、直径 1.2 m、深さ 0.2 m である。断面はレンズ形を呈する。遺物は肥前系陶器の皿 (第 123 図 1) が出土した。

SK124 (第 122 図)

G-1 区で検出された土坑。平面形は隅丸方形で、南北残存値 0.9 m、東西 0.8 m、深さ 0.3 m である。断面は不整な台形を呈する。遺物は 17 世紀前葉の肥前系陶器の碗 (第 124 図 1) が出土した。

SK125 (第 122 図)

G-1 区で検出された土坑。平面形は楕円形で、長径 0.4 m、短径 0.2 m、深さ 0.1 m である。断面は不整なレンズ形を呈する。

SK126 (第 122 図)

G-1 区で検出された土坑。平面形は円形で、直径 0.3 m、深さ 0.2 m である。断面は不整な逆三角形を呈する。

SK127 (第 122 図)

F-2 区で検出された土坑。平面形は不整な円形で、直径 0.4 m、深さ 0.2 m である。断面は不整なレンズ形を呈する。

SK129 (第 122 図)

C・D-4 区で検出された土坑。平面形は隅丸方形で、長軸 0.6 m、短軸 0.4 m、深さ 0.1 m である。断面はレンズ形を呈する。

SK131 (第 122 図)

C-4・5 区で検出された土坑。平面形は不整な楕円形で、長径 0.6 m、短径 0.2 m、深さ 0.05 m である。断面は皿形を呈する。

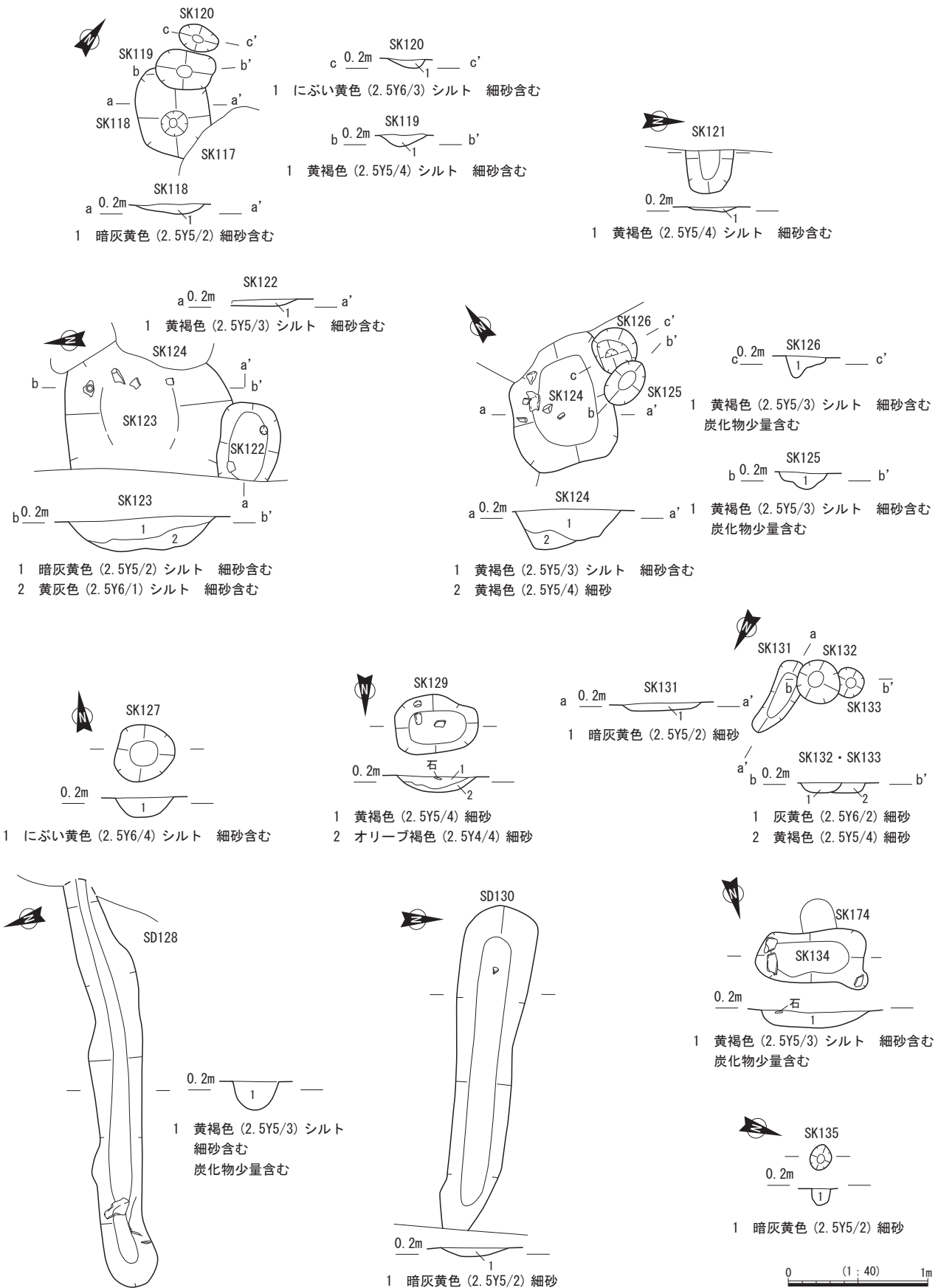
SK132 (第 122 図)

C-4 区で検出された土坑。平面形は円形で、直径 0.3 m、深さ 0.1 m である。断面は皿形を呈する。

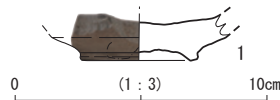
SK133 (第 122 図)

C-4 区で検出された土坑。平面形は円形で、直径 0.2 m、深さ 0.1 m である。断面は皿形を呈する。

SK134 (第 122 図)



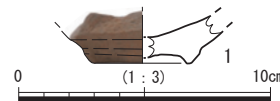
第122図 第1遺構面検出遺構 (10)



報告番号	胎質	器種	生産地	口径 (cm)	底径・ 摘み径 (cm)	器高 (cm)	成形技法	釉薬	絵付	装飾技法	銘・刻印・ 墨書	胎土色	遺構・層位	備考
1	陶器	皿	肥前系	—	4.6	—	ロク口	灰釉 (内面) (外面鉄釉わずかに付着)				灰白色 5Y7/1	SK123	

「—」は、「不明」を示す。

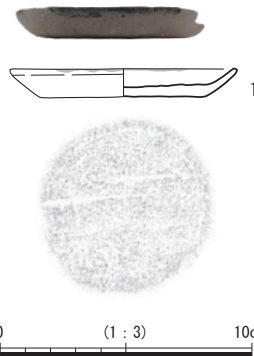
第123図 SK123 出土遺物



報告番号	胎質	器種	生産地	口径 (cm)	底径・ 摘み径 (cm)	器高 (cm)	成形技法	釉薬	絵付	装飾技法	銘・刻印・ 墨書	胎土色	遺構・層位	備考
1	陶器	碗	肥前系	—	(4.0)	—	ロク口	灰釉 (内面)				橙色 7.5YR7/6	SK124	17世紀前葉

「—」は、「不明」を示す。() 内の数字は、残存部から復元した数値を示す。
備考欄に記載した年代は、生産地における製作年代を示す。

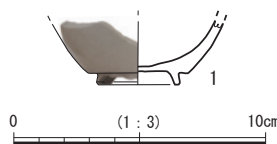
第124図 SK124 出土遺物



報告番号	胎質	器種	生産地	口径 (cm)	底径・ 摘み径 (cm)	器高 (cm)	成形技法	釉薬	絵付	装飾技法	銘・刻印・ 墨書	胎土色・ 含有鉱物	遺構・層位	備考
1	土師質 土器	皿	—	(9.0)	6.7	1.15	ロク口					にぶい橙色 7.5YR7/3 長石 (極小~小、 多量)、石英・ 赤色斑粒・結晶 片岩・黒色粒 (極 小、多量)、金 雲母 (極小、少量)	SK189	灯芯油痕、全面摩耗顕著 外面：回転方向不明糸切り 離しのち板目状圧痕あり (底部)、回転ナデ 内面：回転ナデ、ナデ

「—」は、「不明」を示す。() 内の数字は、残存部から復元した数値を示す。

第125図 SK189 出土遺物



報告番号	胎質	器種	生産地	口径 (cm)	底径・ 摘み径 (cm)	器高 (cm)	成形技法	釉薬	絵付	装飾技法	銘・刻印・ 墨書	胎土色	遺構・層位	備考
1	陶器	碗	京・ 信楽系	—	(3.3)	—	ロク口	灰釉 (底部除く)				灰白色 N8/	SK191	小杉茶碗、18世紀前半~ 幕末

「—」は、「不明」を示す。() 内の数字は、残存部から復元した数値を示す。
備考欄に記載した年代は、生産地における製作年代を示す。

第126図 SK191 出土遺物

C-4区で検出された土坑。平面形は不整な隅丸方形で、南北0.4m、東西0.8m、深さ0.1mである。断面は不整な皿形を呈する。

SK135（第122図）

C-4区で検出された土坑。平面形は円形で、直径0.2m、深さ0.1mである。断面はU字形を呈する。

SK136（第127図）

C-4区で検出された土坑。平面形は円形で、直径0.2m、深さ0.1mである。断面はU字形を呈する。

SK137（第127図）

B・C-4・5区で検出された土坑。平面形は不整形で、南北1.9m、東西残存値0.9m、深さ0.2mである。断面は不整な皿形を呈する。

SK138（第127図）

B-4区で検出された土坑。平面形は円形で、直径0.3m、深さ0.2mである。断面は逆三角形を呈する。

SK139（第127図）

C-4区で検出された土坑。平面形は円形で、直径0.4m、深さ0.2mである。断面は台形を呈する。

SK140（第127図）

C-4区で検出された土坑。平面形は円形で、直径0.2m、深さ0.1mである。断面はレンズ形を呈する。

SK141（第127図）

C-4区で検出された土坑。平面形は円形で、直径0.3m、深さ0.05mである。断面はレンズ形を呈する。

SK142（第127図）

C-4区で検出された土坑。平面形は楕円形で、長径0.6m、短径0.4m、深さ0.1mである。断面は台形を呈する。

SK143（第127図）

B-4区で検出された土坑。平面形は円形で、直径0.1m、深さ0.2mである。断面は不整なU字形を呈する。

SK145（第127図）

B-4区で検出された土坑。平面形は円形と推定され、直径0.6m、深さ0.1mである。断面は不整なレンズ形を呈する。

SK146（第127図）

B-3区で検出された土坑。平面形は円形と推定され、直径0.3m、深さ0.1mである。断面は不整な逆三角形を呈する。

SK147（第127図）

B-3区で検出された土坑。平面形は不整形で、南北0.4m、東西0.3m、深さ0.1mである。断面は不整な皿形を呈する。

SK148（第127図）

C-3区で検出された土坑。平面形は不整な円形で、直径0.4m、深さ0.2mである。断面は長方形を呈する。

SK149 (第127図)

C-3・4区で検出された土坑。平面形は不整な楕円形と推定され、長径1.2m、残存短径0.5m、深さ0.3mである。断面は不整な逆三角形を呈する。

SK150 (第127図)

D-3区で検出された土坑。平面形は不整な楕円形で、長径0.5m、短径0.4m、深さ0.3mである。断面は不整な台形を呈する。

SK151 (第127図)

D-3区で検出された土坑。平面形は楕円形で、長径0.6m、短径0.4m、深さ0.1mである。断面はレンズ形を呈する。

SK152 (第127図)

C-3区で検出された土坑。平面形は楕円形で、長径0.6m、短径0.5m、深さ0.3mである。断面はU字形を呈する。

SK153 (第127図)

C-3・4区で検出された土坑。平面形は不整な楕円形で、長径1.0m、短径0.4m、深さ0.1mである。断面は皿形を呈する。

SK154 (第127図)

C-3区で検出された土坑。平面形は楕円形で、長径0.5m、短径0.4m、深さ0.1mである。断面は不整な皿形を呈する。

SK155 (第128図)

C-3区で検出された土坑。平面形は円形で、直径0.5m、深さ0.1mである。断面はレンズ形を呈する。

SK156 (第128図)

C-3区で検出された土坑。平面形は円形で、直径0.2m、深さ0.1mである。断面はレンズ形を呈する。

SK157 (第128図)

C・D-3区で検出された土坑。平面形は不整な円形で、直径0.3m、深さ0.1mである。断面はレンズ形を呈する。

SK158 (第128図)

C・D-3区で検出された土坑。平面形は楕円形で、長径0.5m、短径0.4m、深さ0.1mである。断面はレンズ形を呈する。

SK159 (第128図)

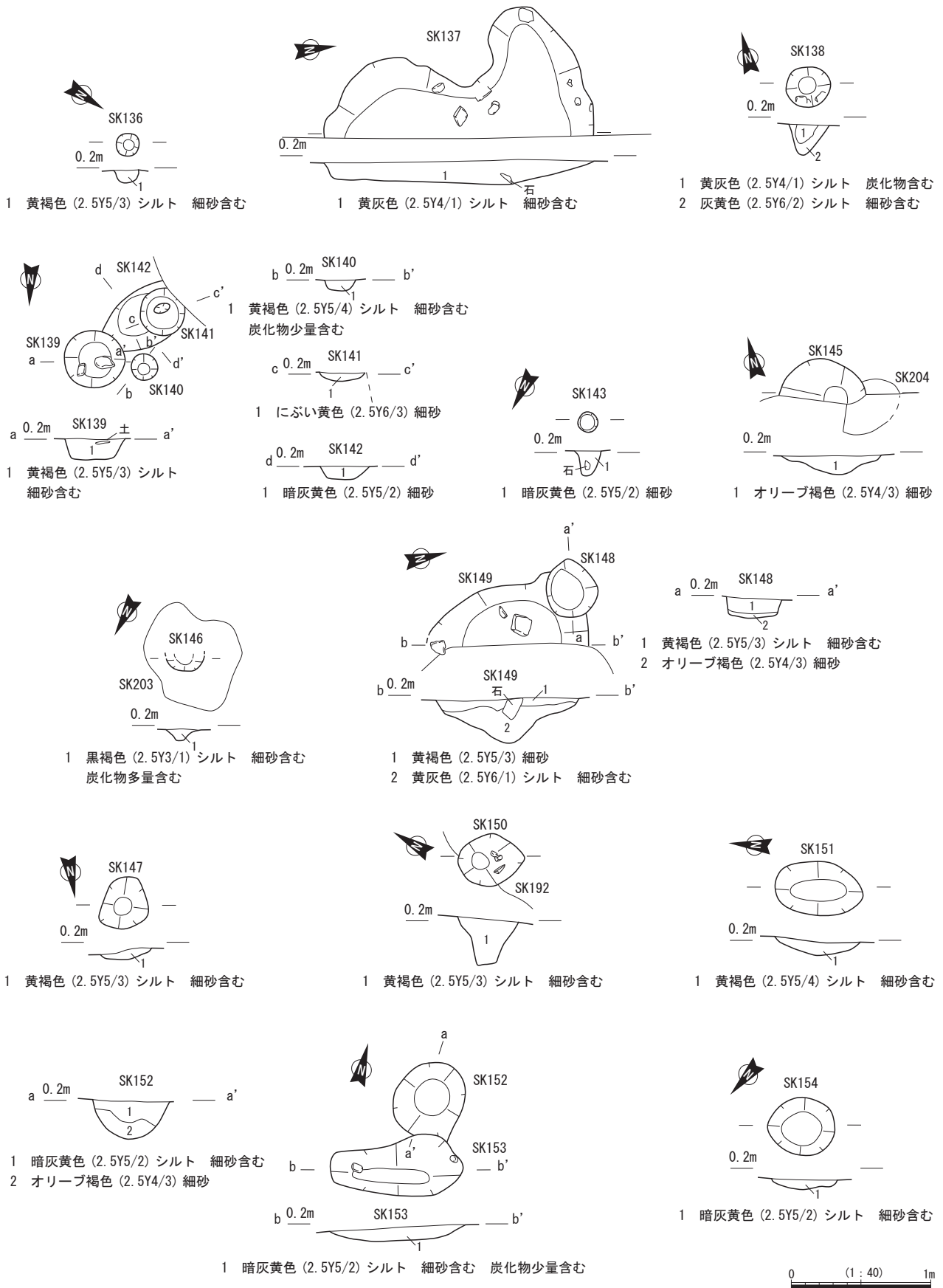
C・D-3区で検出された土坑。平面形は不整な楕円形で、長径0.4m、短径0.3m、深さ0.1mである。断面は不整形な台形を呈する。

SK160 (第128図)

D-3区で検出された土坑。平面形は楕円形で、長径0.5m、短径0.3m、深さ0.1mである。断面は逆三角形を呈する。

SK161 (第128図)

F-2区で検出された土坑。平面形は隅丸方形と推定され、残存長1.0m、残存幅0.7m、深さ0.2



第127図 第1遺構面検出遺構 (11)

mである。断面は皿形を呈する。

SK165 (第128図)

E-4区で検出された土坑。平面形は不整形で、南北残存値0.5m、東西0.7m、深さ0.2mである。断面はレンズ形を呈すると推定される。

SK167 (第128図)

E-4区で検出された土坑。平面形は不整形で、南北残存値0.6m、東西残存値0.5m、深さ0.2mである。断面は不整なレンズ形を呈する。

SK168 (第128図)

D-4区で検出された土坑。平面形は不整な楕円形と推定され、長径1.7m、残存短径0.7m、深さ0.2mである。断面は不整な皿形を呈する。

SK169 (第128図)

E-5区で検出された土坑。平面形は円形で、直径0.2m、深さ0.2mである。断面はU字形を呈する。

SK170 (第128図)

D-4区で検出された土坑。平面形は方形で、一辺0.3m、深さ0.1mである。断面は台形を呈する。

SK171 (第128図)

D-4・5区で検出された土坑。平面形は楕円形で、長径0.5m、短径0.4m、深さ0.1mである。断面は不整なレンズ形を呈する。

SK172 (第128図)

D-4・5区で検出された土坑。平面形は不整形で、南北0.7m、東西0.7m、深さ0.2mである。断面は不整なレンズ形を呈する。

SK173 (第129図)

D-4・5区で検出された土坑。平面形は不整形で、南北残存値1.4m、東西残存値1.7m、深さ0.3mである。断面は不整なレンズ形を呈し、一部深い。

SK174 (第129図)

C-4区で検出された土坑。平面形は楕円形と推定され、南北残存値0.2m、東西0.2m、深さ0.2mである。断面はU字形を呈する。

SK175 (第129図)

B-4区で検出された土坑。平面形は円形で、直径0.2m、深さ0.1mである。断面は不整なU字形を呈する。

SK176 (第129図)

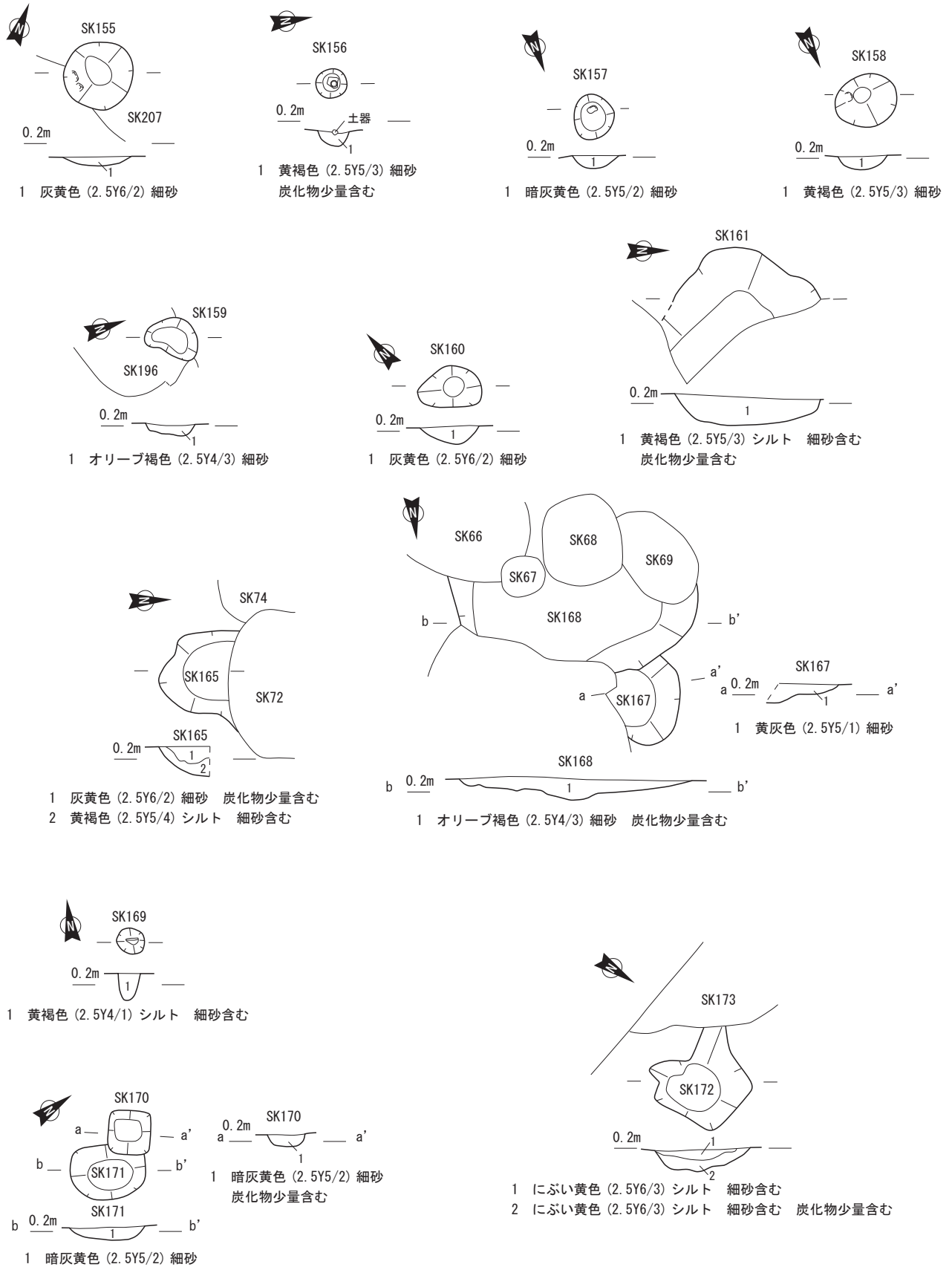
B-4区で検出された土坑。平面形は円形で、直径0.2m、深さ0.1mである。断面はレンズ形を呈する。

SK177 (第129図)

B-4区で検出された土坑。平面形は不整な楕円形で、長径0.5m、短径0.4m、深さ0.2mである。断面はレンズ形を呈する。

SK178 (第129図)

D-2・3区で検出された土坑。平面形は楕円形で、長径0.8m、短径0.4m、深さ0.2mである。



第128図 第1遺構面検出遺構 (12)

断面はレンズ形を呈する。

SK179 (第129図)

D-2・3区で検出された土坑。平面形は楕円形で、長径1.9m、短径0.9m、深さ0.1mである。断面は不整な皿形を呈する。

SK180 (第129図)

D-2区で検出された土坑。平面形は不整な楕円形で、長径0.5m、短径0.3m、深さ0.1mである。断面は不整な台形を呈する。

SK181 (第129図)

D-2区で検出された土坑。平面形は楕円形で、長径0.3m、短径0.2m、深さ0.1mである。断面は台形を呈する。

SK182 (第129図)

C-2区で検出された土坑。平面形は楕円形と推定され、残存長径0.8m、残存短径0.7m、深さ0.05mである。断面は皿形を呈する。

SK183 (第129図)

C-2区で検出された土坑。平面形は不整形で、南北残存値0.4m、東西0.5m、深さ0.1mである。断面はレンズ形を呈する。

SK184 (第129図)

C-2区で検出された土坑。平面形は楕円形であり、残存長径0.9m、短径0.9m、深さ0.1mである。断面は不整な台形を呈する。

SK185 (第129図)

C-2・3区で検出された土坑。平面形は隅丸方形と推定され、南北残存値0.4m、東西0.4m、深さ0.2mである。断面はレンズ形を呈する。

SK186 (第129図)

C-3区で検出された土坑。平面形は円形で、直径0.2m、深さ0.1mである。断面はU字形を呈する。

SK188 (第130図)

C・D-2区で検出された土坑。平面形は不整な楕円形と推定され、長径2.1m、残存短径1.1m、深さ0.1mである。断面は不整な皿形を呈する。

SK189 (第130図)

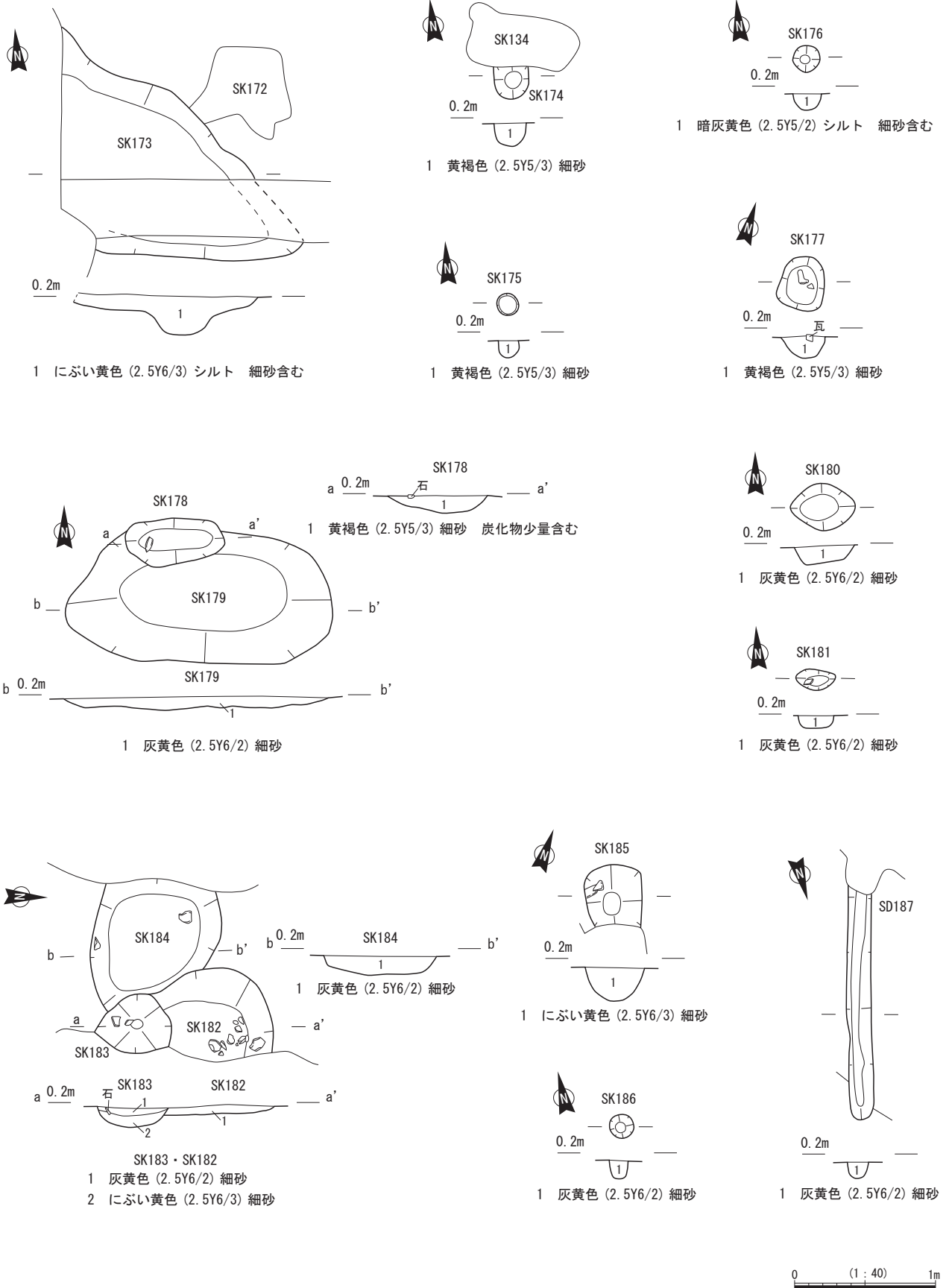
B・C-2区で検出された土坑。平面形は不整な楕円形で、長径0.6m、短径0.4m、深さ0.2mである。断面は台形を呈する。遺物は土師質土器の皿(第125図1)が出土した。

SK190 (第130図)

B-2区で検出された土坑。平面形は不整形で、南北0.3m、東西0.5m、深さ0.2mである。断面は逆三角形を呈する。

SK191 (第130図)

B-2区で検出された土坑。平面形は不整形で、南北0.5m、東西0.4m、深さ0.1mである。断面はレンズ形を呈する。遺物は18世紀前半～幕末の京・信楽系陶器の碗(第126図1)が出土した。



第129図 第1遺構面検出遺構 (13)

SK192 (第131・132図)

C・D-3・4区で検出された土坑。平面形は不整形であり、南北2.5m、東西残存値2.1m、深さ0.5mである。断面をみると、台形である。遺物は、標高-0.1m～標高-0.5mから多く出土している。肥前系陶磁器(第133図1～5・7～17、第134図19・20・25～28・30、第135図32・35)、瀬戸・美濃系陶磁器(第133図6・18、第134図29)、京・信楽系陶器(第134図21～24)、備前系陶器(第135図31・33・34・38)、大谷焼(第135図39)、御厩系土師質土器(第135図47)、鉄釘(第136図48)、瓦(第136図49)、火打石(第136図50)、漆器が出土した。漆器は残存状態が悪く、図化し得なかった。本土坑は第1遺構面の遺構のうち、遺物の出土量が最も多い。遺物の時期は、16世紀末～幕末までと幅広い。

SK193 (第130図)

C-3区で検出された土坑。平面形は隅丸方形で、一辺0.4m、深さ0.3mである。断面はU字形を呈する。

SK194 (第130図)

C-3区で検出された土坑。平面形は不整な楕円形で、長径1.3m、短径0.8m、深さ0.2mである。断面はレンズ形を呈する。

SK195 (第130図)

C-3区で検出された土坑。平面形は隅丸方形と推定され、一辺1.4m、深さ0.2mである。断面は不整な台形を呈する。

SK196 (第130図)

C-3区で検出された土坑。平面形は隅丸長方形と推定され、南北残存値0.7m、東西残存値1.4m、深さ0.2mである。断面は不整なレンズ形を呈する。

SK197 (第130図)

C・D-3区で検出された土坑。平面形は不整形であり、南北2.1m、東西0.9m、深さ0.1mである。断面は台形を呈する。

SK198 (第130図)

C・D-3区で検出された土坑。平面形は不整な隅丸方形と推定され、南北1.0m、東西0.9m、深さ0.2mである。断面は不整なレンズ形を呈する。遺物は、16世紀第2四半期末～17世紀初頭の備前系陶器の播鉢(第137図1)が出土した。

SK199 (第130図)

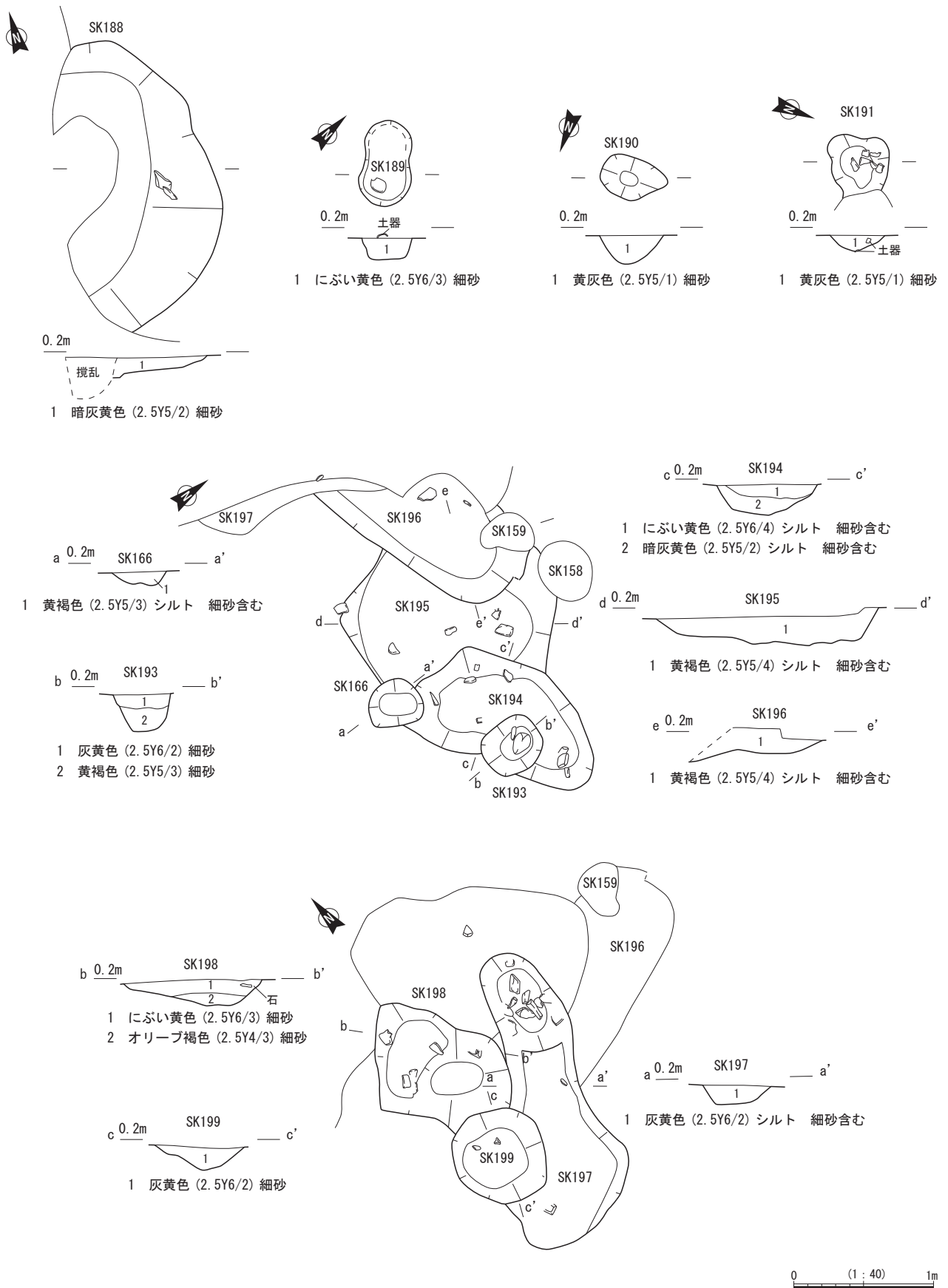
C-3区で検出された土坑。平面形は円形と推定され、直径0.7m、深さ0.2mである。断面は逆三角形を呈する。

SK200 (第139図)

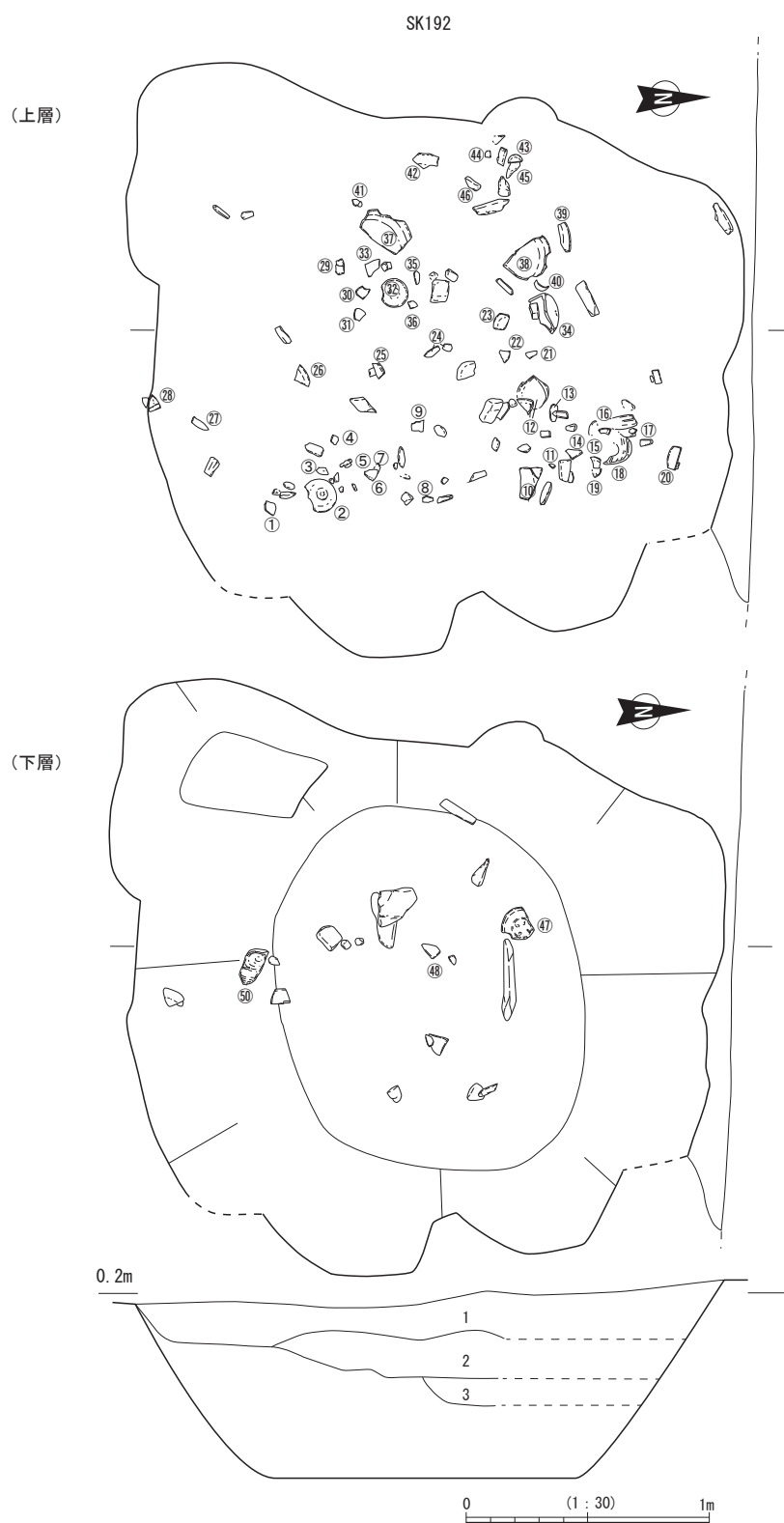
B-3区で検出された土坑。平面形はやや不整な円形で、直径0.5m、深さ0.2である。断面は台形を呈する。

SK201 (第139図)

B-3区で検出された土坑。平面形は隅丸方形で、南北0.3m、東西0.2m、深さ0.1mである。断



第130図 第1遺構面検出遺構 (14)



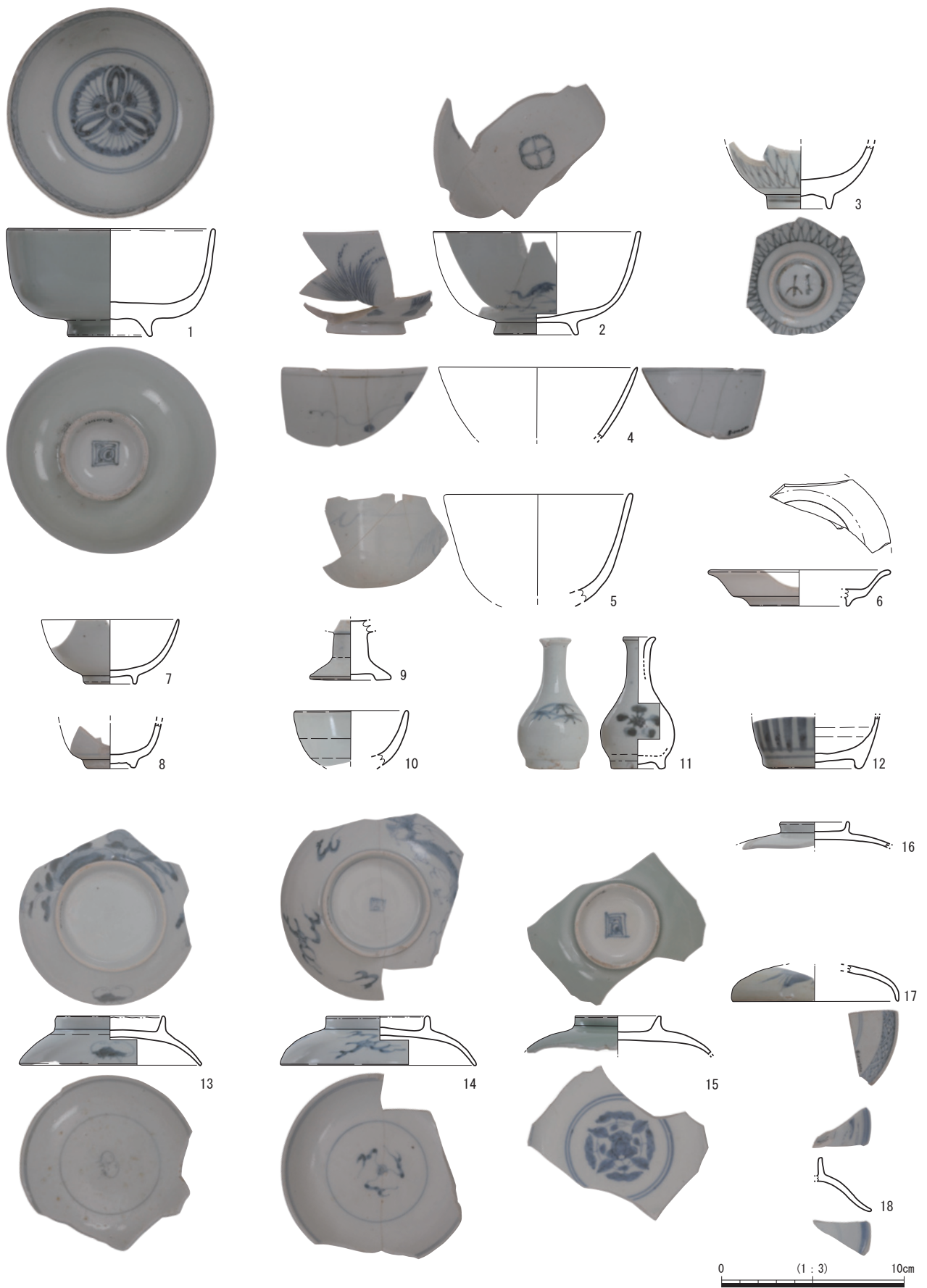
- 1 にぶい黄色 (2.5Y6/3) 細砂
- 2 にぶい黄色 (2.5Y6/4) 細砂 炭化物含む
- 3 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) 細砂 礫・炭化物含む

第131図 第1遺構面検出遺構(15)
丸数字は第19・20表と対応する。

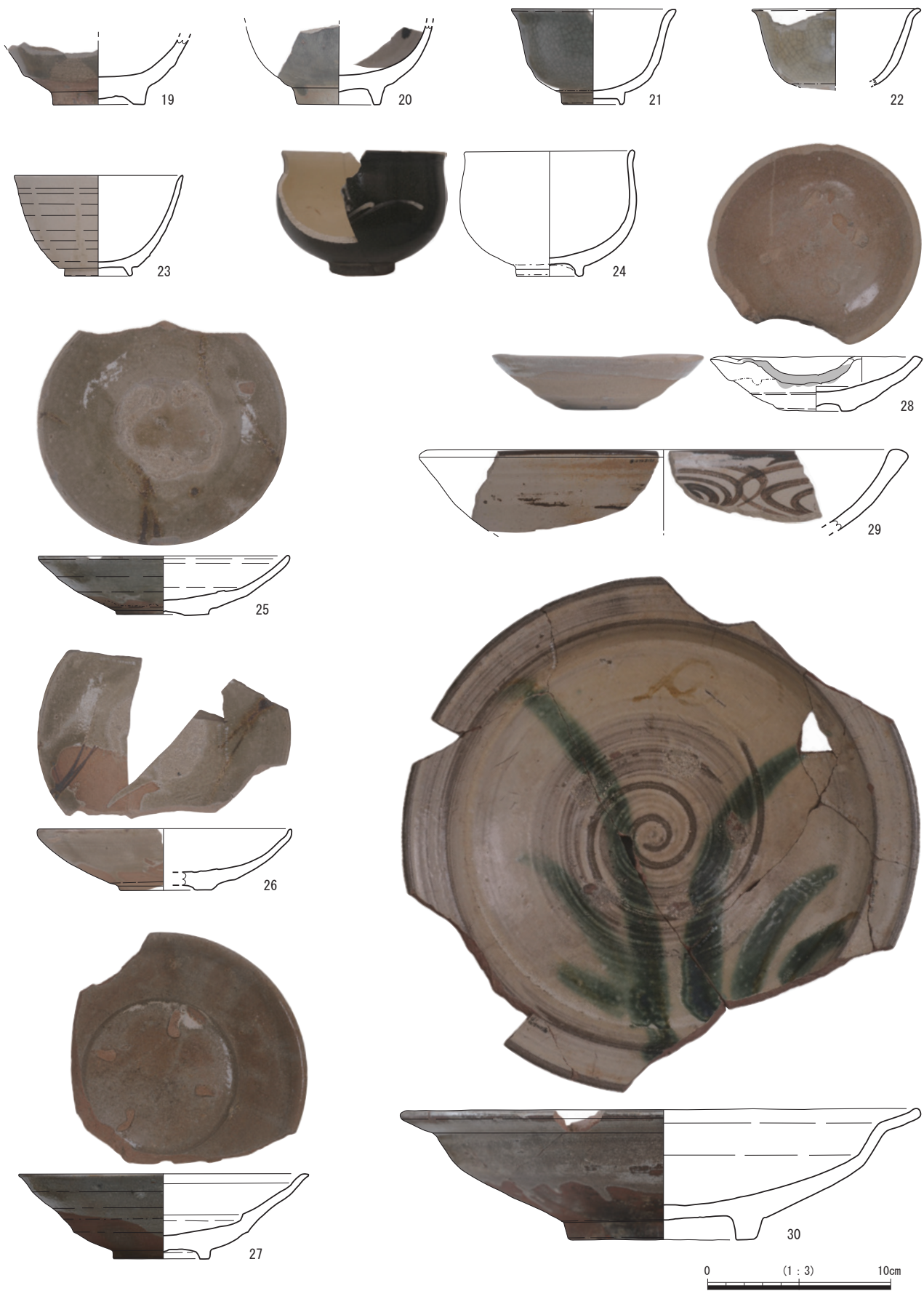


第132図 SK192

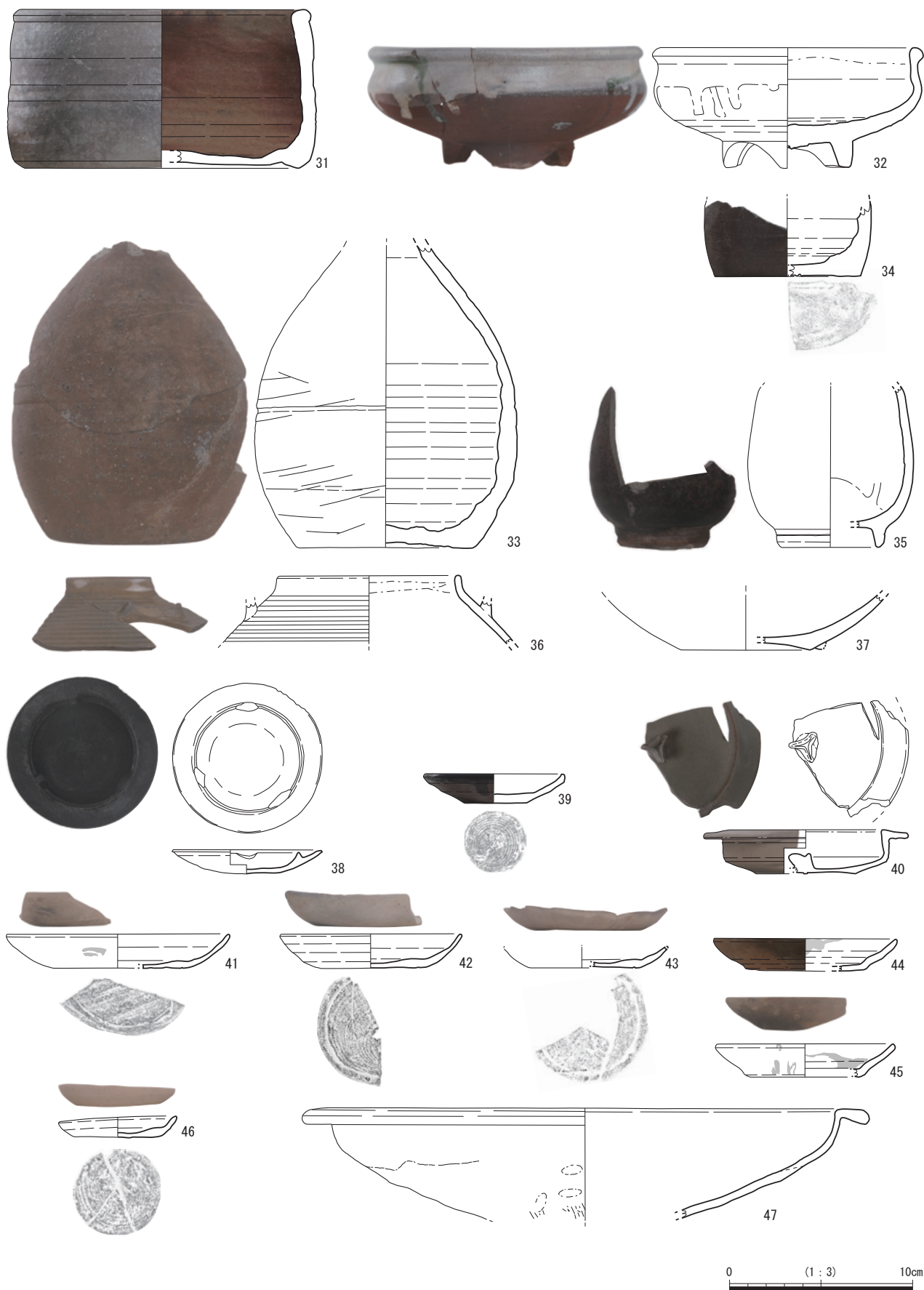
1. 遺物出土状況（東から） 2. 土層断面（西から）



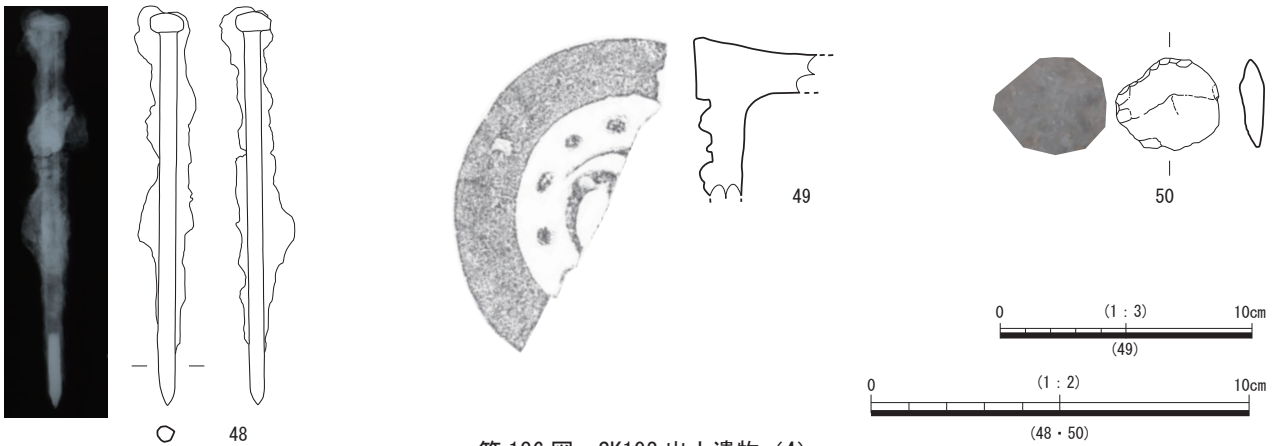
第133図 SK192出土遺物(1)



第134図 SK192 出土遺物 (2)



第 135 図 SK192 出土遺物 (3)



第136図 SK192 出土遺物 (4)

第19表 SK192 遺物観察表 (1)

報告番号	胎質	器種	生産地	口径 (cm)	底径・ 摘み径 (cm)	器高 (cm)	成形技法	釉薬	絵付	装飾技法	銘・刻印・ 墨書	胎土色・ 含有鉱物	遺構・層位	備考
1	磁器	碗	肥前系	11.3	4.6	5.9	ロク口	青磁釉 透明釉 (内面・高台内)	染付	手描き	二重方形枠 内「渦福」 銘(高台内)	灰白色 N8/ (白色味強い)	SK192	撥高台、青磁染付、1820 ～1870年代
2	磁器	碗	肥前系	(11.4)	4.55	5.7	ロク口	透明釉	染付	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	SK192	撥高台、1820～1870年代 SK212・表土と接合
3	磁器	碗	肥前系	—	3.4	—	ロク口	透明釉	染付	手描き	「大明年製」 銘(高台内)	灰白色 N8/ (白色味強い)	SK192	くらわんか、高台釉際処理 不揃い、1680～1860年代
4	磁器	碗	肥前系	(10.8)	—	—	ロク口	透明釉	染付	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	SK192	広東碗、呉須発色悪い、 1780～1840年代
5	磁器	碗	肥前系	(10.2)	—	—	ロク口	透明釉	染付	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	SK192 ㉔	初期伊万里、1610～1650 年代
6	磁器	皿 (小皿)	瀬戸・ 美濃系	(9.8)	(5.5)	2.0	型打	透明釉		型打による 線刻		灰白色 N8/ (白色味強い)	SK192	19世紀
7	磁器	小坏	肥前系	(7.5)	2.75	3.5	ロク口	透明釉				灰白色 N8/ (白色味強い)	SK192	
8	磁器	小坏	肥前系	—	(2.6)	—	ロク口	透明釉	染付	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	SK192 ⑩	焼成不良(釉白濁)、施釉 粗い
9	磁器	仏飯器	肥前系	—	4.4	—	ロク口	透明釉	染付	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	SK192	
10	磁器	仏飯器 ?	肥前系	(6.1)	—	—	ロク口	透明釉	染付	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	SK192 ㉑	
11	磁器	御酒 徳利	肥前系	1.7	2.9	7.2	ロク口	透明釉	染付	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	SK192	呉須発色悪い
12	磁器	御酒 徳利 ?	肥前系	—	4.8	—	ロク口	透明釉	染付	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	SK192	
13	磁器	碗蓋	肥前系	(10.0)	5.85	2.7	ロク口	透明釉	染付	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	SK192	広東碗、呉須発色悪い、 1780～1840年代
14	磁器	碗蓋	肥前系	10.75	5.55	2.7	ロク口	透明釉	染付	手描き	二重方形枠 内変形字銘 (摘み内)	灰白色 N8/ (白色味強い)	SK192	広東碗、1780～1840年代
15	磁器	碗蓋	肥前系	—	4.7	—	ロク口	青磁釉 透明釉 (内面・高台内)	染付	手描き	二重方形枠 内「渦福」 銘(摘み内)	灰白色 N8/ (白色味強い)	SK192	丸碗、青磁染付、18世紀 中頃～18世紀末
16	磁器	碗蓋	肥前系	—	3.7	—	ロク口	透明釉				灰白色 N8/ (白色味強い)	SK192	丸碗?
17	磁器	碗蓋	肥前系	(9.2)	—	—	ロク口	透明釉	染付	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	SK192	撥高台、1820～1870年代
18	磁器	碗蓋	瀬戸・ 美濃系	—	—	—	ロク口	透明釉	染付	手描き 墨弾き		灰白色 N8/ (白色味強い)	SK192	端反形、19世紀第1四半 期～19世紀第3四半期
19	陶器	碗	肥前系	—	5.0	—	ロク口	灰釉(底部除く)				灰色 N5/	SK192	17世紀前葉
20	陶器	碗	肥前系	—	4.5	—	ロク口	鉄釉 (底部除く外面) 透明釉(内面)				灰白色 5Y8/1	SK192	
21	陶器	碗	京・ 信楽系	8.9	3.2	5.2	ロク口	灰釉(底部除く)				灰白色 5Y8/1 (白色味強い)	SK192	端反形、19世紀前半～
22	陶器	碗	京・ 信楽系	9.2	—	—	ロク口	灰釉(胴下部外 面除く)				灰白色 5Y8/1 (白色味強い)	SK192	端反形、19世紀前半～
23	陶器	碗	京・ 信楽系	9.2	3.6	5.5	ロク口	灰釉(底部除く)	鉄絵	手描き		灰白色 2.5Y8/1	SK192	小杉茶碗、18世紀前半～ 幕末
24	陶器	碗	京・ 信楽系	9.2	3.6	6.75	ロク口	鉄釉(黒釉) のち灰釉 (底部除く外面) 錆釉(高台脇～ 畳付除く高台) 灰釉(内面)	白化粧土	手描き		灰白色 10YR8/2	SK192	
25	陶器	皿	肥前系	13.7	5.0	3.2	ロク口	灰釉(底部除く)	鉄絵	手描き		にぶい橙色 7.5YR7/4	SK192 ㉒	絵唐津、見込砂目、畳付 わずかに砂付着、1610～ 1690年代
26	陶器	皿	肥前系	(13.8)	(5.0)	3.4	ロク口	灰釉(底部除く)	鉄絵	手描き		にぶい橙色 7.5YR7/4	SK192 ⑭⑮⑳㉑	絵唐津、見込・畳付砂目、 1610～1690年代
27	陶器	皿	肥前系	(15.8)	5.2	4.6	ロク口	灰釉(底部除く)				にぶい橙色 5YR7/4	SK192 ㉓	見込胎土目跡、1594年頃 ～1610年代
28	陶器	皿	肥前系	4.3	2.9	—	ロク口	灰釉(底部除く)				灰白色 10YR8/2	SK192 ㉔	見込胎土目跡、口縁端部全 体を打ち欠き、灯明皿に転 用、灯芯油痕、1594年頃 ～1610年代

「—」は、「不明」を示す。()内の数字は、残存部から復元した数値を示す。
備考欄に記載した年代は、生産地における製作年代を示す。
遺構・層位欄の丸数字は、第131図と対応する。

第20表 SK192 遺物観察表 (2)

報告番号	胎質	器種	生産地	口径 (cm)	底径・ 摘み径 (cm)	器高 (cm)	成形技法	釉薬	絵付	装飾技法	銘・刻印・ 墨書	胎土色・ 含有鉱物	遺構・層位	備考
29	陶器	皿	瀬戸・ 美濃系	(24.6)	—	—	ロクロ	長石釉	鉄絵	手描き		灰白色 2.5Y8/1	SK192	馬の目皿、18世紀後葉～
30	陶器	鉢	肥前系	27.9	10.2	7.15	ロクロ	灰釉 (底部除く)	白化粧土 下絵付 (緑釉・鉄釉)	二彩手		赤色 10R5/6	SK192 (10)(19)(37)(38)	見込砂胎土目跡 (砂目のみ 残存)、17世紀前半～
31	陶器	サヤ形 鉢	備前系	(15.4)	(15.0)	8.6	ロクロ					灰白色 10YR8/1 灰色 N5/(芯部)	SK192 (34)	塗土 (外面)、火燻 (内面)
32	陶器	香炉	肥前系	(13.9)	(6.8)	6.5	ロクロ	灰釉 (口縁部内 面～外面上半) 緑釉流し掛け (外面)	白化粧土	刷毛目?		赤褐色 10R5/4	SK192 (12)(25)	三方向アーチ状に切り込む 高台
33	陶器	瓶	備前系	—	9.5	—	ロクロ					灰白色 2.5Y7/1	SK192 (18)(27)(50)	内面下半鉄錆状物質付着
34	陶器	瓶?	備前系	—	(8.0)	—	ロクロ				へら描による 1条の線 (黒印?) (底部外面)	にぶい褐色 7.5YR6/3	SK192	塗土 (外面)
35	陶器	水注?	肥前系	—	(5.3)	—	ロクロ	鉄釉 (墨付除く 外面・底部内面)				黄灰色 2.5Y6/1	SK192	墨付アルミナ砂塗布、胴部 内面鉄錆状物質付着
36	陶器	土瓶	—	(9.8)	—	—	ロクロ 貼付 (耳)	灰釉 (口縁部 除く外面)				灰白色 2.5Y7/1 (灰色味強い)	SK192	口縁部内面アルミナ砂塗布
37	陶器	土瓶	—	—	(7.1)	—	ロクロ 貼付 (足)	鉄釉 (底部除く 外面) 錆釉 (内面)				にぶい赤褐色 10R6/4	SK192	
38	陶器	灯明 受皿	備前系	8.1	3.8	1.3	ロクロ 貼付 (仕切り)					灰色 N4/	SK192	仕切りにり字形溝 (3か所)
39	陶器	灯明 受皿 (上皿)	大谷	7.4	3.4	1.6	ロクロ	鉄釉 (内面～ 口縁部外面)				にぶい赤褐色 10R6/4	SK192	脚付灯明受皿、胴下部外面 重ね焼き痕 (環状)、底部 右回転糸切り離し、19世紀
40	陶器	蓋	—	(8.4)	(5.4)	2.4	ロクロ 貼付 (摘み)	灰釉 (上面)				灰白色 2.5Y7/1	SK192	土瓶または水注
41	土師質 土器	皿	—	(12.2)	(7.0)	1.85	ロクロ					灰白色 7.5YR8/1 長石・輝石 (極 小、少量)	SK192	外・内面スス付着、灯芯油 痕 (胴部外面) 外面: 右回転?糸切り離し のち板目状圧痕あり (底 部)、回転ナデ 内面: 回転ナデ、ナデ
42	土師質 土器	皿	—	(10.0)	(5.7)	1.85	ロクロ					灰白色 10YR8/1 長石・金雲母・ 黒色粒 (極小、 少量)	SK192 (23)	内面・底部スス付着 外面: 右回転糸切り離し (底 部)、回転ナデ 内面: 回転ナデ、ナデ
43	土師質 土器	皿	—	—	6.1	—	ロクロ					灰白色 10YR7/1 長石・黒色粒 (極 小、少量)	SK192 (15)	外・内面スス付着 外面: 右回転糸切り離し (底 部)、回転ナデ 内面: 回転ナデ
44	土師質 土器	皿	—	(10.0)	(6.4)	(1.75)	ロクロ					灰黄色 2.5Y6/2 長石・赤色斑粒・ 金雲母 (極小、 少量)	SK192 (13)	灯芯油痕 外面: 回転方向不明糸切り 離し (底部)、回転ナデ 内面: 回転ナデ
45	土師質 土器	皿	—	(9.6)	(6.0)	1.8	ロクロ					褐灰色 7.5YR6/1 長石・赤色斑粒 (極小、少量)	SK192 (24)	外・内面スス付着・灯芯油痕 外・内面: 回転ナデ
46	土師質 土器	皿	—	6.3	4.6	1.2	ロクロ					灰白色 10YR8/2 長石・石英・赤 色斑粒・結晶片 岩 (極小)	SK192 (3)(7)(43)	外面: 回転方向不明糸切り 離し (板目状圧痕あり?) (底部)、回転ナデ 内面: 回転ナデ、ナデ
47	土師質 土器	焙烙	御厩系	(30.2)	—	—	粘土紐巻 上げ					にぶい褐色 7.5YR6/4 長石・金雲母 (極小、少量)	SK192	外面～口縁部内面スス付着 外面: 回転ナデ (口縁部)、 ハケメのちコピオサエ (底部) 内面: 回転ナデ

註は第19表に同じ。

報告番号	遺物名	最大長 (cm) *	最大幅 (cm) *	最大厚 (cm) *	重量 (g) *	材質 **	遺構・層位	備考
48	釘	10.4	0.9 (頭部)	0.4 (身部)	15.90	鉄	SK192	身部断面多角形/円形。

* [] は残存部のサイズを示す。重量は錆びを含む。

** 肉眼観察による。

報告番号	遺物名	瓦当・軒丸部 (cm) *			瓦当・軒平部 (cm) *			筒部 (cm) *				調整	色調 (断面)	胎土	含有 鉱物	離型剤 **	コピキ **	遺構・ 層位	備考	
		文様	瓦当部径	内区幅	珠径	文様	瓦当部 全幅	瓦当部高	筒部全長	筒部全幅	筒部厚									筒部高
49	軒丸瓦	三巴文・ 連珠	13.8	5.2	1.3	—	—	—	(5.0)	?	1.5	?	ナデ	灰白色 2.5Y7/1	緻密	雲母	キラコ	B ?	SK192	瓦当に光沢あり。

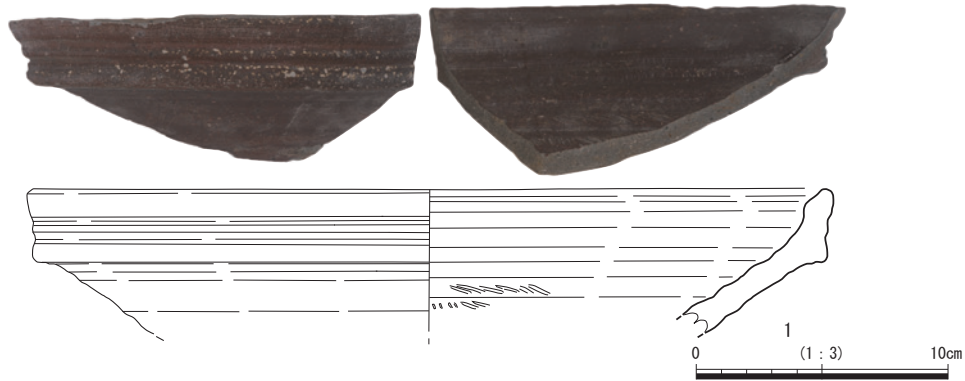
* [] は残存部のサイズを示す。計測部位は原・小林編 (2012) に従う。

** 森田 (1984) に従う。

報告番号	遺物名	最大長 (cm) *	最大幅 (cm) *	最大厚 (cm) *	重量 (g) *	石材 **	遺構・層位	備考
50	火打石	2.7	2.4	0.7	4.10	石英	SK192 2層	剥離を有する。

* [] は残存部のサイズ・重量を示す。

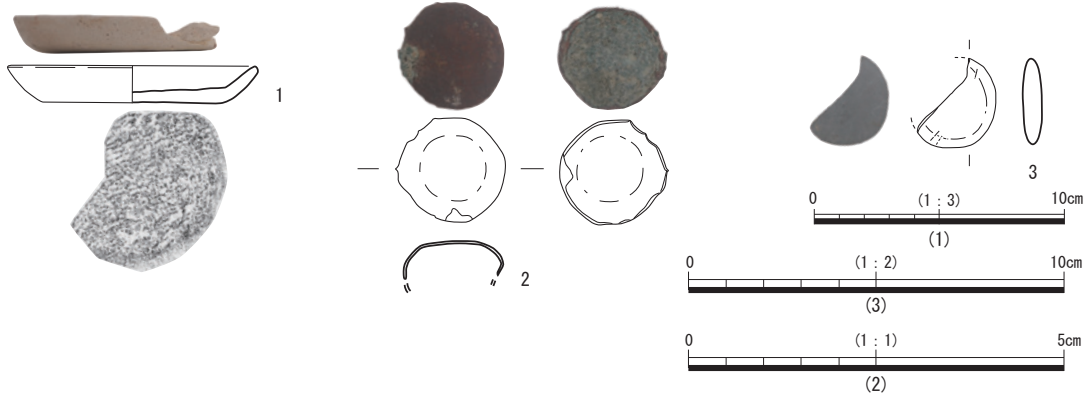
** 肉眼観察による。



報告番号	胎質	器種	生産地	口径 (cm)	底径・摘み径 (cm)	器高 (cm)	成形技法	釉薬	絵付	装飾技法	銘・刻印・墨書	胎土色	遺構・層位	備考
1	陶器	播鉢	備前系	(31.4)	—	—	ロクロ					灰色 5Y5/1 灰赤色 10R5/2 (口縁部芯部)	SK198	口縁部上端と口縁部外面下に重ね焼き痕、口縁部外面に黄ゴマ、胴部外面に内面のスリメに似た痕跡、乘岡近世1期（16世紀第2四半期末～17世紀初） 胴部外面：回転ナデ

「—」は、「不明」を示す。（ ）内の数字は、残存部から復元した数値を示す。
備考欄に記載した年代は、生産地における製作年代を示す。

第137図 SK198 出土遺物



報告番号	胎質	器種	生産地	口径 (cm)	底径・摘み径 (cm)	器高 (cm)	成形技法	釉薬	絵付	装飾技法	銘・刻印・墨書	胎土色・含有鉱物	遺構・層位	備考
1	土師質土器	皿	—	(10.0)	(7.0)	(1.5)	ロクロ					灰白色 10YR8/2 長石・輝石・石英 赤・赤色斑粒・金雲母（極小）	SK207	外面：回転方向不明糸切り 離しのち板目状圧痕あり (底部)、回転ナデ 内面：回転ナデ、ナデ

「—」は、「不明」を示す。（ ）内の数字は、残存部から復元した数値を示す。

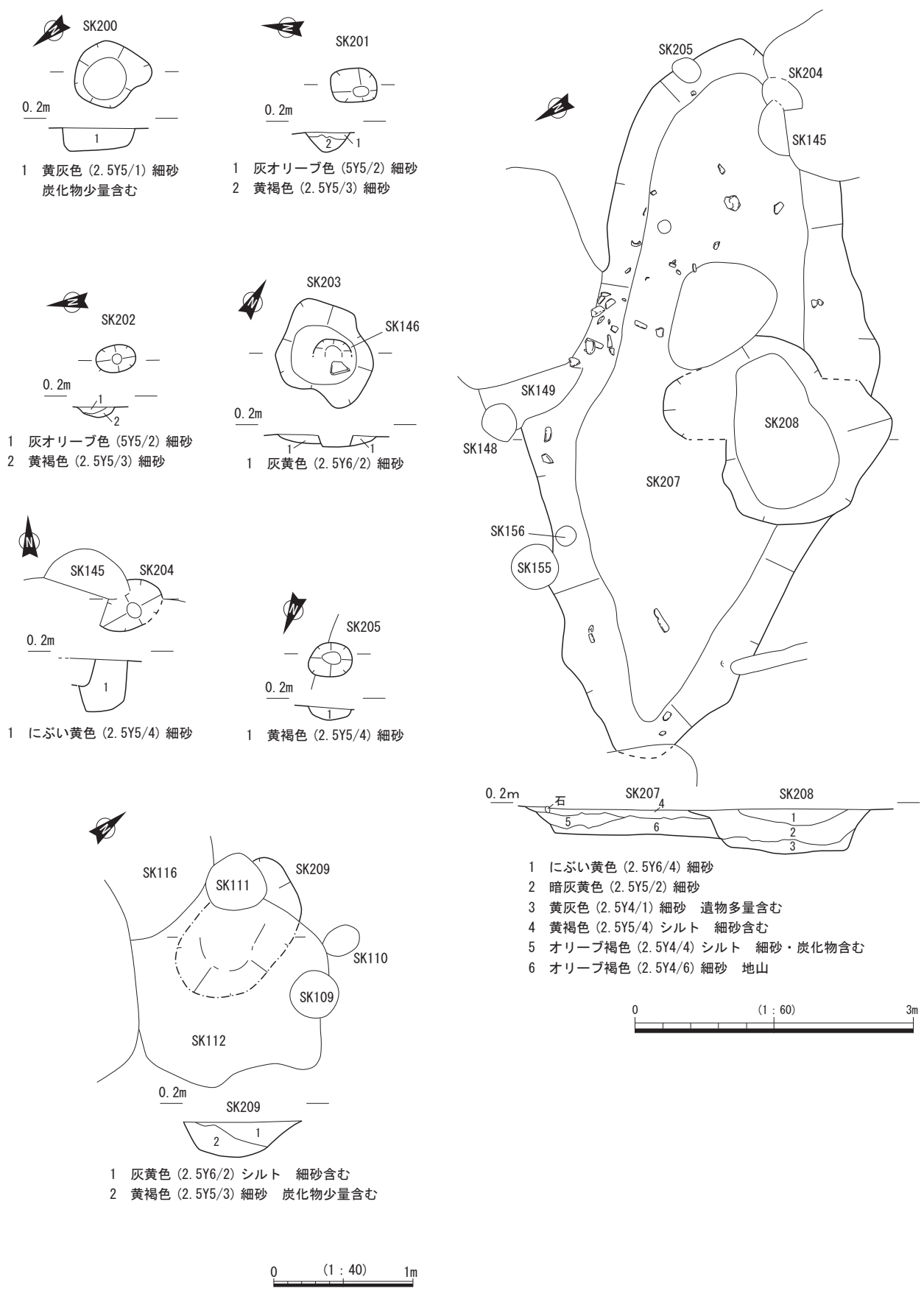
報告番号	遺物名	最大長 (cm) *	最大幅 (cm) *	最大厚 (cm) *	重量 (g) *	材質 **	遺構・層位	備考
2	円状銅製品	1.5	[0.5] (高さ)	0.05	[0.81]	銅	SK207	内面に緑青付着。

* [] は残存部のサイズを示す。重量は錆びを含む。
** 肉眼観察による。

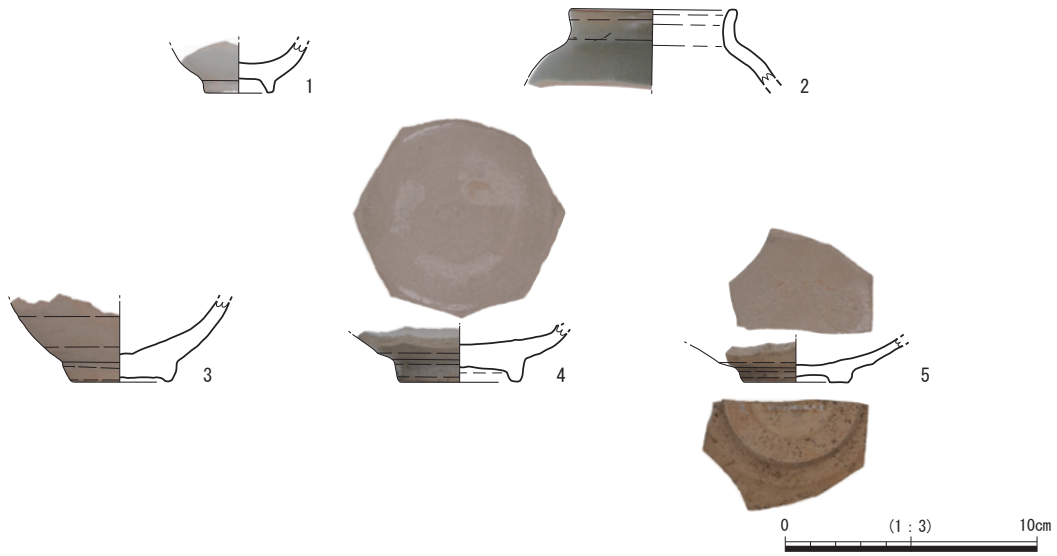
報告番号	遺物名	最大長 (cm) *	最大幅 (cm) *	最大厚 (cm) *	重量 (g) *	石材 **	遺構・層位	備考
3	基石	2.5	[1.4]	0.5	[3.03]	頁岩	SK207	

* [] は残存部のサイズ・重量を示す。
** 肉眼観察による。

第138図 SK207 出土遺物



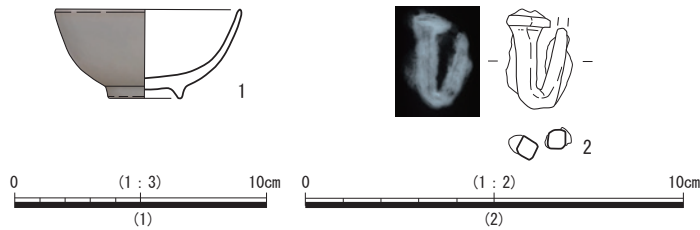
第139図 第1遺構面検出遺構 (16)



報告番号	胎質	器種	生産地	口径 (cm)	底径・摘み径 (cm)	器高 (cm)	成形技法	釉薬	絵付	装飾技法	銘・刻印・墨書	胎土色	遺構・層位	備考
1	磁器	小坏	肥前系	-	2.8	-	ロクロ	透明釉（畳付～高台内除く）				灰白色 N8/ （白色味強い）	SK208	畳付砂付着
2	磁器	壺？	肥前系	(6.6)	-	-	ロクロ	青磁釉（外面）				浅黄橙色 7.5YR8/3	SK208	
3	陶器	碗	肥前系	-	3.95	-	ロクロ	灰釉（内面）				にぶい橙色 5YR7/4	SK208	17世紀前葉
4	陶器	皿	肥前系	-	4.8	-	ロクロ	灰釉（底部除く）				にぶい黄橙色 10YR7/2	SK208	見込・畳付砂目（畳付アルミナ砂？）、1610～1690年代
5	陶器	皿	肥前系	-	(4.2)	-	ロクロ	灰釉（内面）				にぶい黄橙色 10YR7/3	SK208	見込・畳付砂目、1610～1690年代

「-」は、「不明」を示す。（ ）内の数字は、残存部から復元した数値を示す。
備考欄に記載した年代は、生産地における製作年代を示す。

第140図 SK208 出土遺物



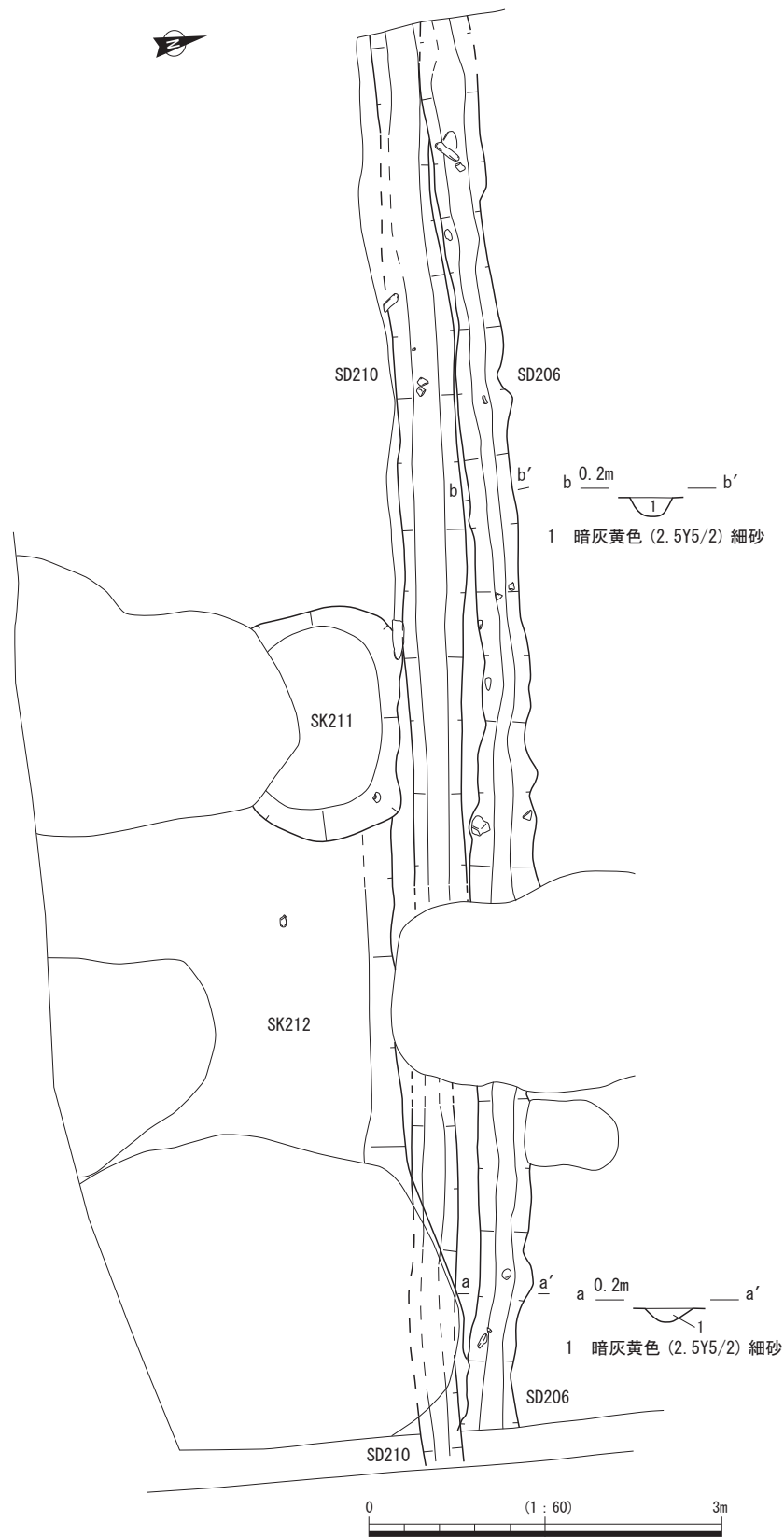
報告番号	胎質	器種	生産地	口径 (cm)	底径・摘み径 (cm)	器高 (cm)	成形技法	釉薬	絵付	装飾技法	銘・刻印・墨書	胎土色	遺構・層位	備考
1	磁器	小坏	肥前系	(7.35)	2.8	3.55	ロクロ	透明釉				灰白色 N8/ （白色味強い）	SK211	高台内側砂付着

（ ）内の数字は、残存部から復元した数値を示す。

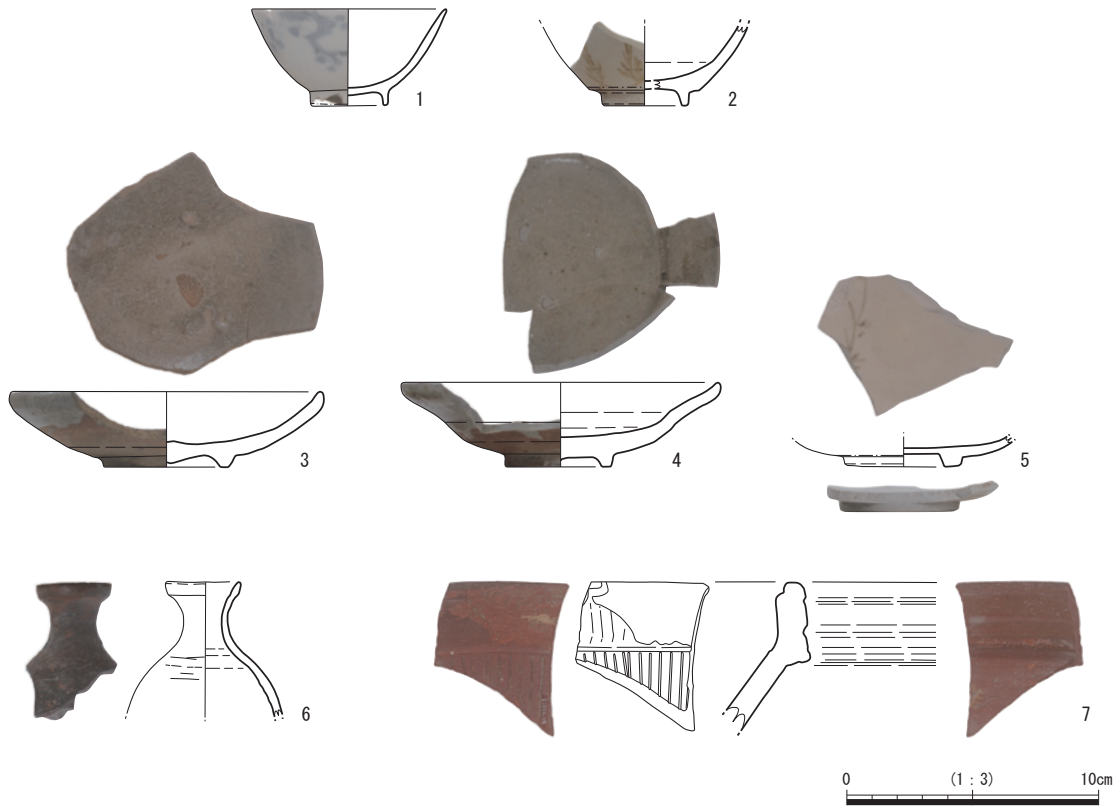
報告番号	遺物名	最大長 (cm) *	最大幅 (cm) *	最大厚 (cm) *	重量 (g) *	材質 **	遺構・層位	備考
2	釘	[4.6]	1.1 (頭部)	0.6 (身部)	[4.25]	鉄	SK211	身部断面方形。折れ曲がる。

* [] は残存部のサイズを示す。重量は錆びを含む。
** 肉眼観察による。

第141図 SK211 出土遺物



第142図 第1遺構面検出遺構(17)



報告番号	胎質	器種	生産地	口径 (cm)	底径・ 揃み径 (cm)	器高 (cm)	成形技法	釉薬	絵付	装飾技法	銘・刻印・ 墨書	胎土色	遺構・層位	備考
1	磁器	小坏	肥前系	(7.35)	2.8	3.55	ロクロ	透明釉	染付	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	SK212	端反形、畳付砂付着、高台に穿孔?
2	陶器	碗	京・ 信楽系	—	(3.3)	—	ロクロ	灰釉 (底部除く)	錆絵	手描き		灰白色 5Y8/1	SK212	小杉茶碗、18世紀前半～幕末
3	陶器	皿	肥前系	(12.2)	4.9	3.0	ロクロ	灰釉 (底部除く)				にぶい黄橙色 10YR7/2	SK212	見込胎土目跡、1594年頃～1610年代
4	陶器	皿	肥前系	(12.5)	4.2	3.35	ロクロ	灰釉 (底部除く)				灰白色 N8/	SK212	見込胎土目跡、1594年頃～1610年代
5	陶器	皿	京・ 信楽系	—	4.5	—	ロクロ	灰釉 (底部除く)	錆絵	手描き		灰白色 5Y8/1 (白色味強い)	SK212	
6	陶器	瓶	備前系	2.9	—	—	ロクロ					灰赤色 2.5YR5/2	SK212	口縁部内面～頸部外面一部 自然釉 胴部外面：回転ヘラケズリ
7	陶器	搦鉢	堺・ 明石系	—	—	—	ロクロ					赤橙色 10R6/6	SK212	白神II型式 (18世紀後半～19世紀) 胴部外面：回転ヘラケズリ

「—」は、「不明」を示す。()内の数字は、残存部から復元した数値を示す。
備考欄に記載した年代は、生産地における製作年代を示す。

第143図 SK212 出土遺物

面はU字形を呈する。

SK202 (第139図)

B-3区で検出された土坑。平面形は楕円形で、長径0.3m、短径0.2m、深さ0.1mである。断面はレンズ形を呈する。

SK203 (第139図)

B-3・4区で検出された土坑。平面形は不整形で、南北0.7m、東西0.7m、深さ0.1mである。断面はレンズ形を呈する。

SK204 (第139図)

B-4区で検出された土坑。平面形は楕円形で、長径0.5m、短径0.3m、深さ0.4mである。断面はU字形を呈する。

SK205 (第139図)

B-4区で検出された土坑。平面形は楕円形で、長径0.3m、短径0.2m、深さ0.1mである。断面はU字形を呈する。

SK207 (第139図)

B・C-3・4区で検出された土坑。平面形は不整な楕円形で、長径7.8m、短径3.3m、深さ0.3mである。断面は台形を呈する。遺物は土師質土器の皿(第138図1)、円状銅製品(第138図2)、碁石(第138図3)が出土した。

SK208 (第139図)

B・C-3区で検出された土坑。平面形は不整形で、南北1.9m、東西2.0m、深さ0.5mである。断面は台形を呈する。遺物は、肥前系磁器の小坏・壺(第140図1・2)、肥前系陶器の碗・皿(第140図3～5)が出土した。3は17世紀前葉、4・5は17世紀代のものである。

SK209 (第139図)

F-2区で検出された土坑。平面形は不整な楕円形で、長径1.1m、短径0.6m、深さ0.3mである。断面はU字形を呈する。

SK211 (第142図)

B-3区で検出された土坑。平面形は楕円形で、長径2.0m、残存短径1.2mである。断面は台形である。遺物は、肥前系磁器の小坏(第141図1)、鉄釘(第141図2)が出土した。遺物の時期は17世紀後半であるが、遺構検出面から、18世紀後半～19世紀代と判断する。

SK212 (第142図)

A・B-4区で検出された土坑。平面形は不整形と推定され、南北最大値3.0m、東西残存値5.2mである。断面は台形である。遺物は、肥前系陶磁器の小坏・皿(第143図1・3・4)、京・信楽系陶器の碗・皿(第143図2・5)、堺・明石系陶器の播鉢(第143図7)、備前系陶器の瓶(第143図6)が出土した。2が18世紀前半～幕末、3・4が16世紀末～17世紀初頭、7が18世紀後半～19世紀代のものである。
(脇山佳奈)

6. 包含層出土遺物（第144～157図・第21～26表）

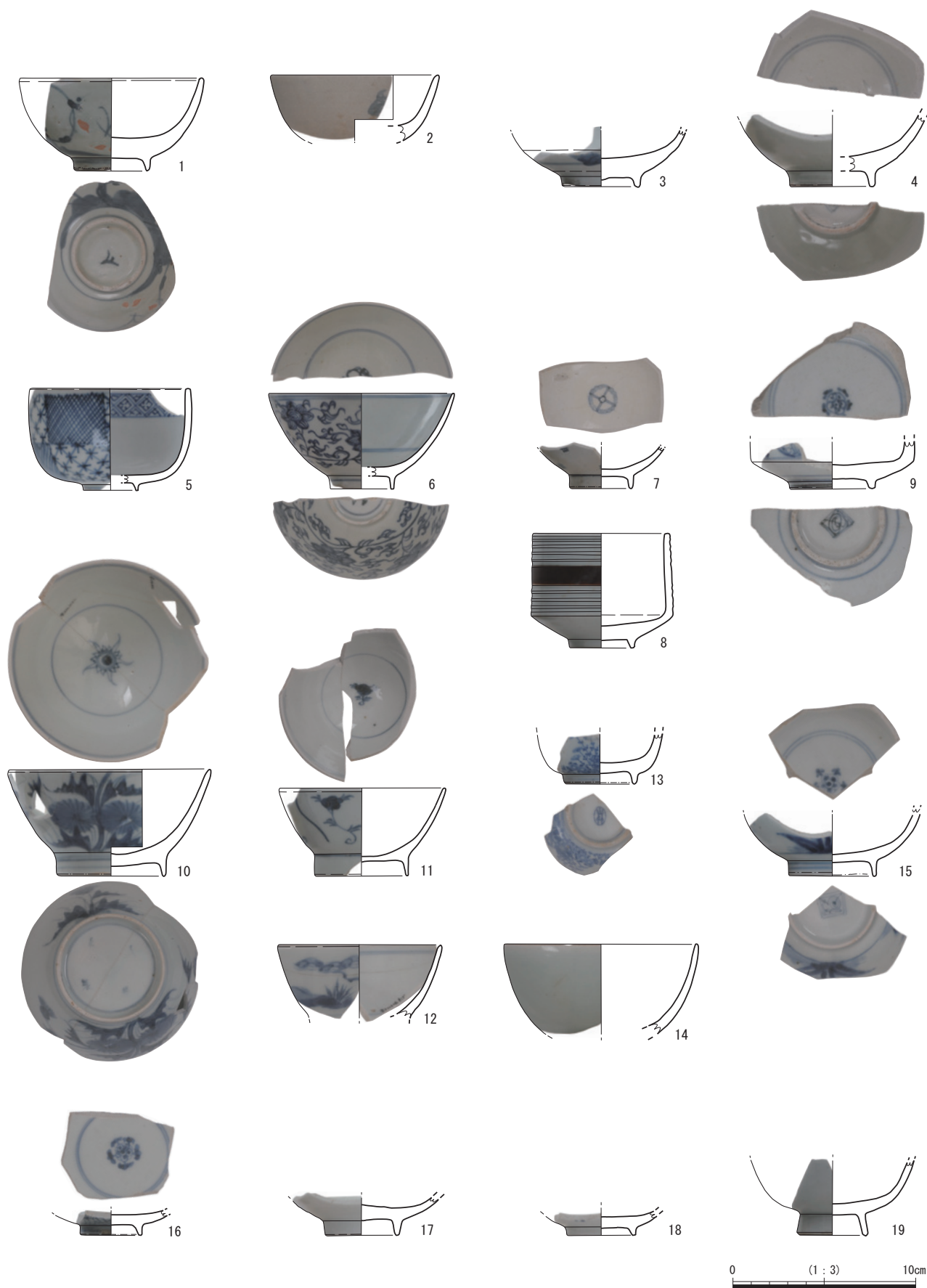
包含層からは、陶磁器・土器・土製品、金属製品、ガラス製品、瓦、石製品、骨製品が出土した。ここでは残存状態が良好で、図化し得たものだけを報告する。陶磁器には、肥前系磁器、肥前系陶器、京・信楽系陶器、備前系陶器、瀬戸・美濃系陶器、堺・明石系陶器、瀬戸・美濃系磁器、大谷焼、関西系磁器、丹波系陶器、萩系陶器がある。構成比は、肥前系磁器（39%）が最も高く、それに肥前系陶器（17%）、京・信楽系陶器（15%）とつづき、そのほかは1割を下回る。そのほか、火鉢・焜炉といった瓦質土器、各種の土師質土器・土製品がある。これらは、おおむね16世紀末～近代にかけてのものである。金属製品には、鉄製品と銅製品とがあり、鉄製品には飾り金具、釘、鉄砲玉が、銅製品には輪状銅製品、円状銅製品がある。ガラス製品には、化粧瓶がある。瓦には、軒丸瓦、軒棧瓦、軒平瓦／軒棧瓦がある。瓦の再加工品もある。石製品には、碁石、硯、火打石がある。骨製品には、歯ブラシ形骨加工品がある。（端野晋平）

註

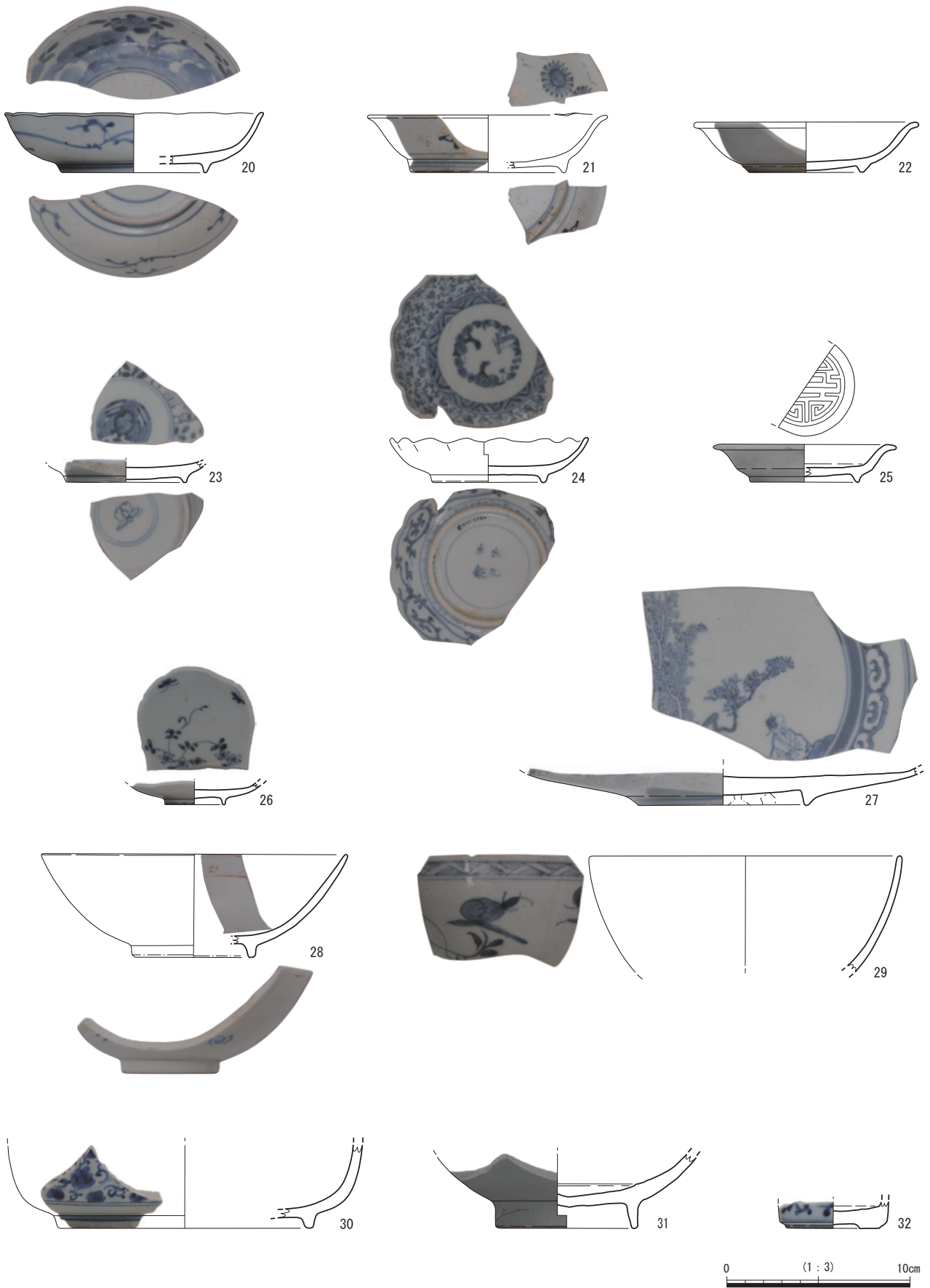
1. 根津寿夫氏（徳島市立徳島城博物館）からのご協力を得た。
2. 近世徳島城下での水売り商人の存在は、延宝4年（1678）、藩が水売り商人を16人に限定したという記録（『藩署紀聞』徳島県立図書館蔵）から知られる。徳島市に上水道が敷設される大正初期までは、鮎喰川の地下水脈からはずれ、飲料水に恵まれない地域、内町（出来島を除く）・新町・富田・佐古の一部に住む人びとは、毎日、水売り商人から錦竜水などの眉山の湧水を買っていたという（河野1982）。ただし、こうした水売り商人が常三島地区でも、水を販売していたという記録は見つかっていない。ちなみに、明治31年の徳島県による市内の井戸の水質調査では7割以上、大正8年の徳島市による市内の井戸の水質調査ではほぼ半数が飲料不適とみなされた（団1962；徳島市水道部1966）。

文献

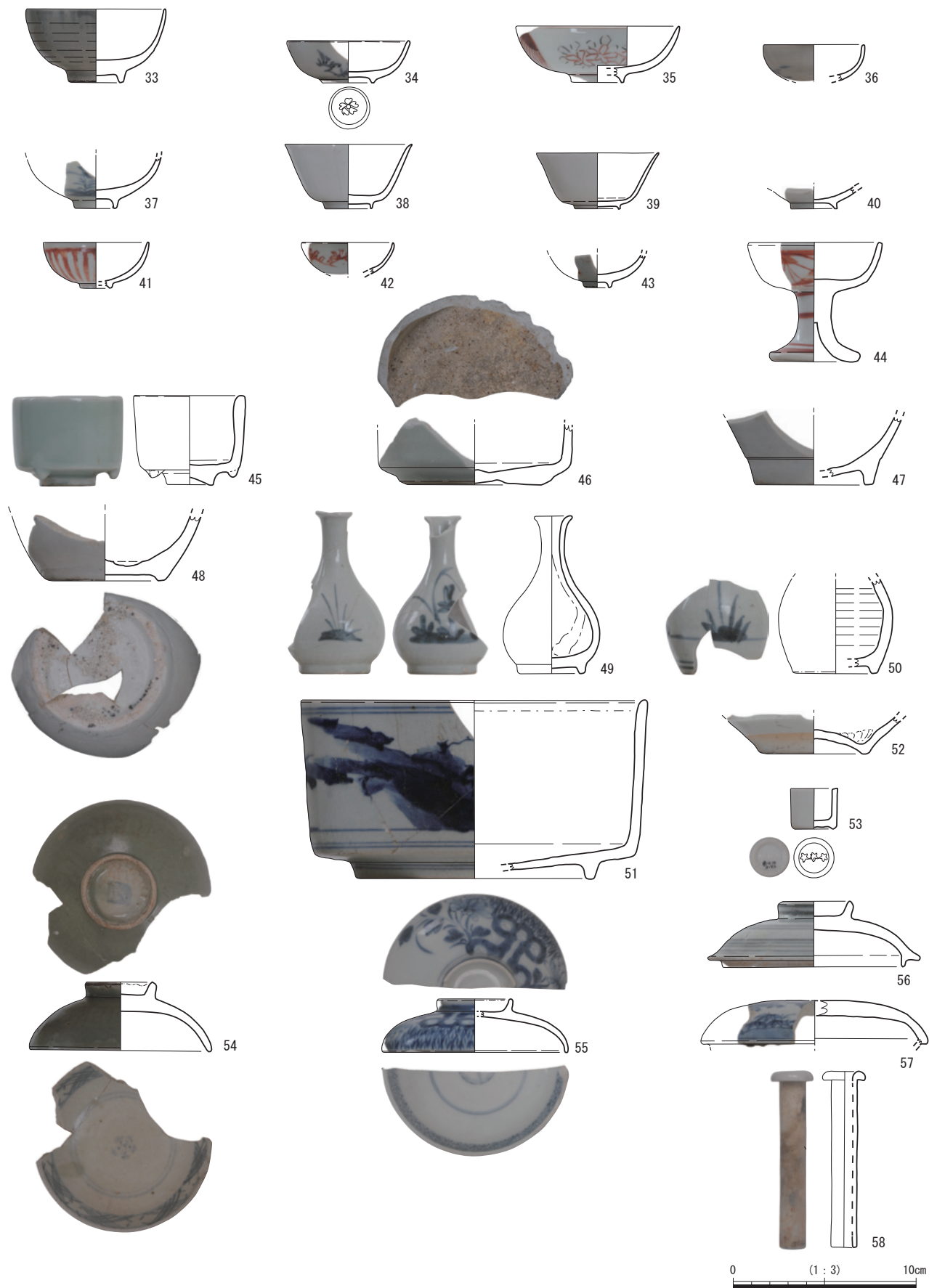
- 河野幸夫，1982. 徳島・城と町まちの歴史. 聚海書林，東京.
- 久保和士，1999. 久保和士遺稿集刊行会編，動物と人間の考古学. 真陽社，京都，pp. 245-262.
- 団武雄，1962. 徳島城下と飲料水. ふるさと阿波. 阿波郷土会，徳島.
- 徳島市水道部，1966. 徳島市水道40年史. 徳島市水道部，徳島.
- 乗岡実，1999. 近世備前焼の播鉢. 関西近世考古学研究7，119-130.
- 乗岡実，2002. 近世備前焼播鉢の編年案. 岡山城三之曲輪跡. 岡山市教育委員会，岡山. pp. 190-197.
- 端野晋平，2015. 発掘調査の概要. 国立大学法人徳島大学埋蔵文化財調査室紀要1，121-143.
- 原祐一・小林照子編，2012. 東京大学本郷構内の遺跡 医学部附属病院受変電設備棟地点，東京大学埋蔵文化財調査室発掘調査報告書12. 東京大学埋蔵文化財調査室，東京.
- 北條芳隆，2006. 徳島城下町の屋敷境1—常三島地区—. 近世の屋敷境とその周辺. 四国城下町研究会，板野，pp. 9-15.
- 町田章・上原真人編，1985. 木器集成図録：近畿古代篇，奈良国立文化財研究所史料第27冊. 奈良国立文化財研究所，奈良.
- 森田克行，1984. 屋瓦. 撰津高槻城：本丸跡発掘調査報告書，高槻市文化財調査報告書第14冊. 高槻市教育委員会，大阪. pp. 129-142.
- 藪田みゆき，2013. 寒梅館地点出土の歯ブラシ形骨加工品：2002年度学会館（室町殿跡）発掘調査に伴う事例報告. 同志社大学歴史資料館館報16，54-62.
- 藪田みゆき，2015. 近世・近代遺跡出土歯ブラシ形骨加工品：植毛孔に着目した分類試案の提示と時期差の予察. 松藤和人編，同志社大学考古学シリーズXI. 同志社大学考古学シリーズ刊行会，京都，pp. 741-754.
- 山崎信二，2008. 近世瓦の研究. 同成社，東京.



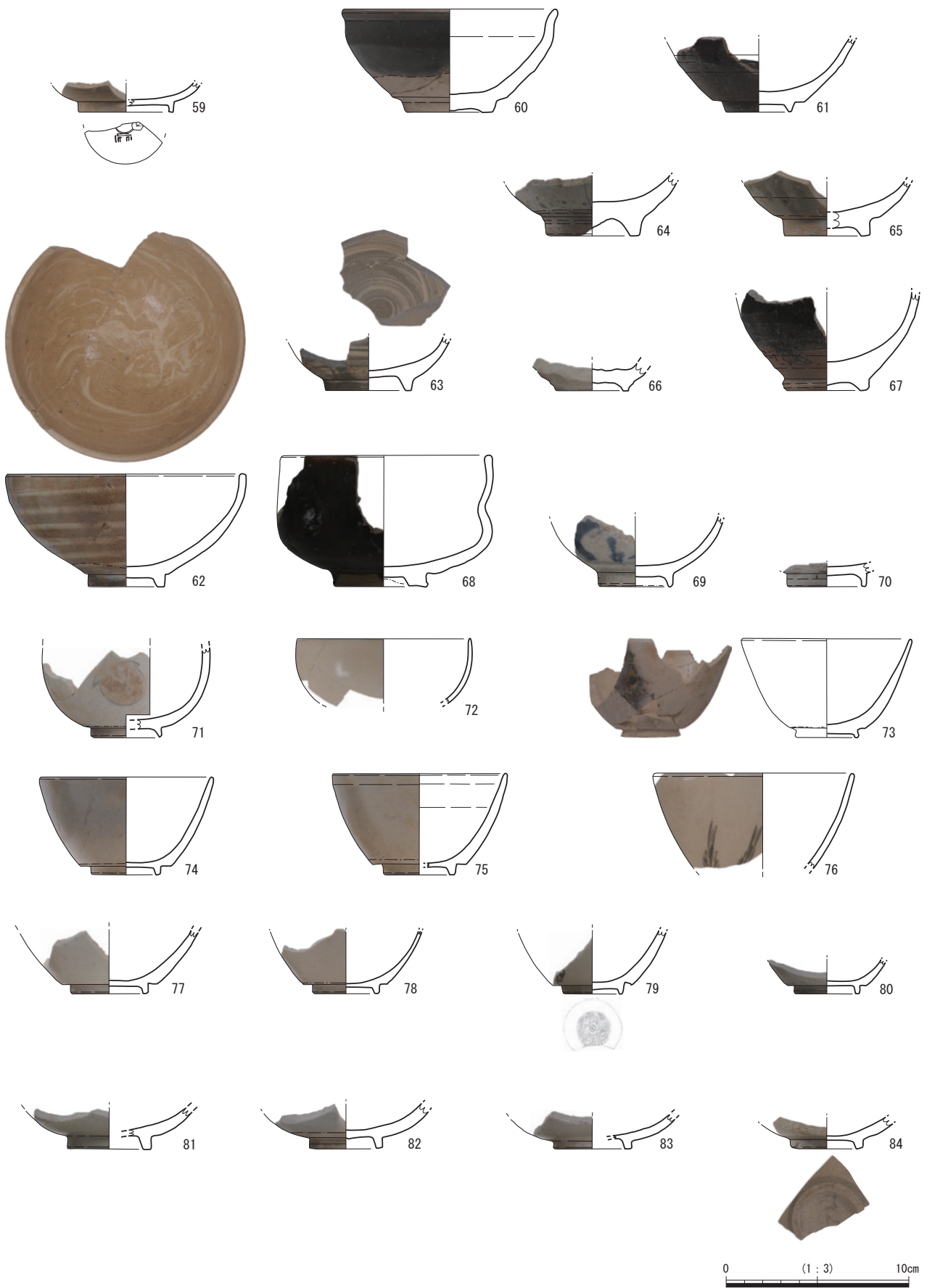
第144図 包含層出土遺物(1)



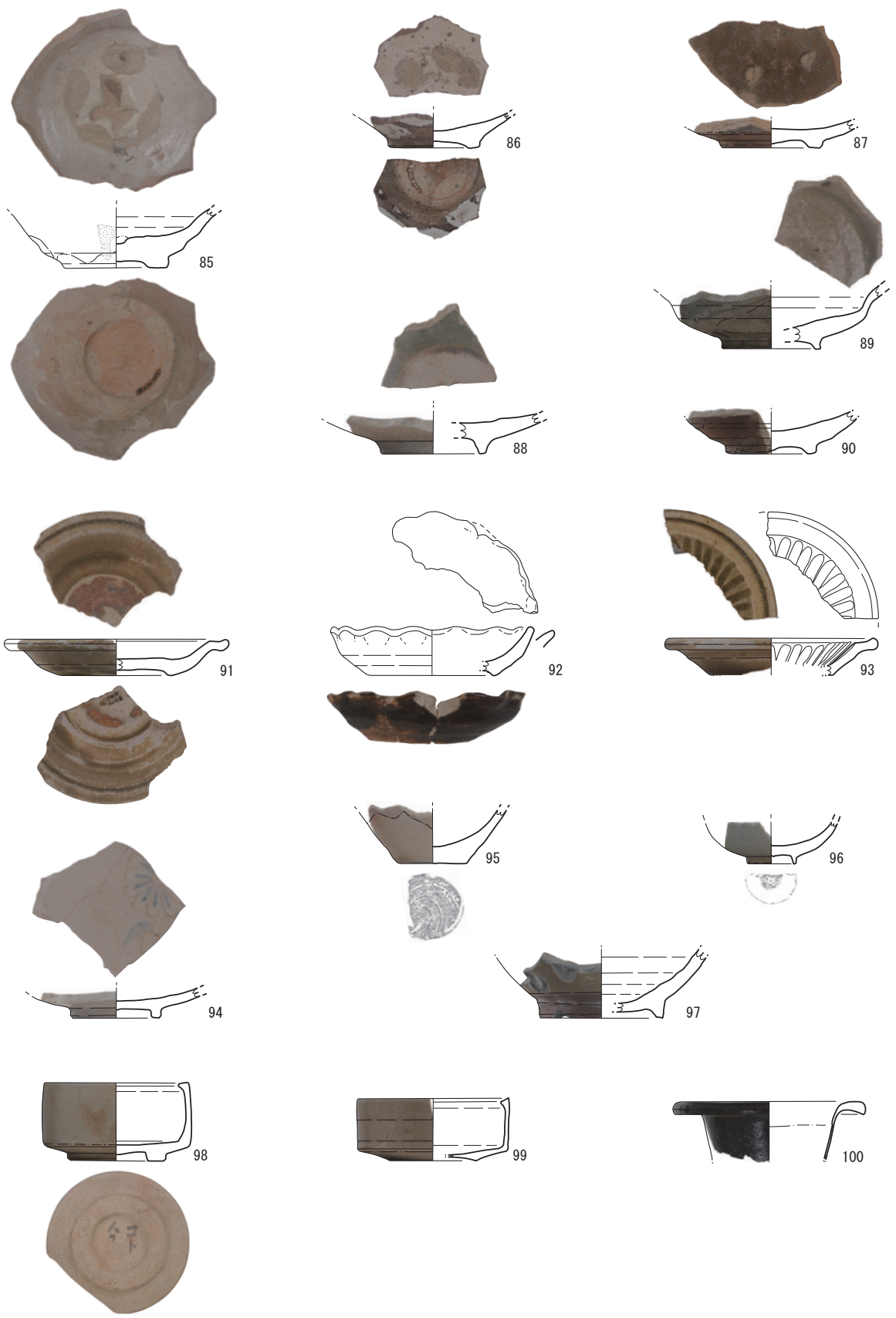
第145図 包含層出土遺物（2）



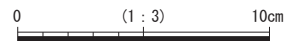
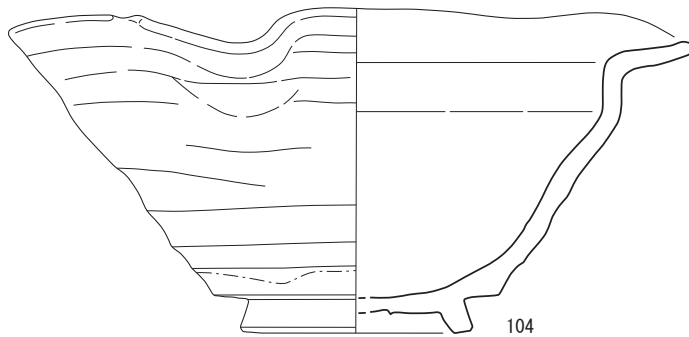
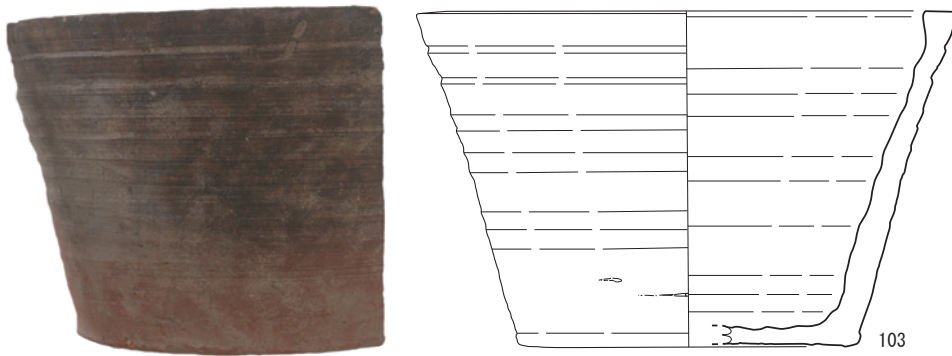
第146図 包含層出土遺物(3)



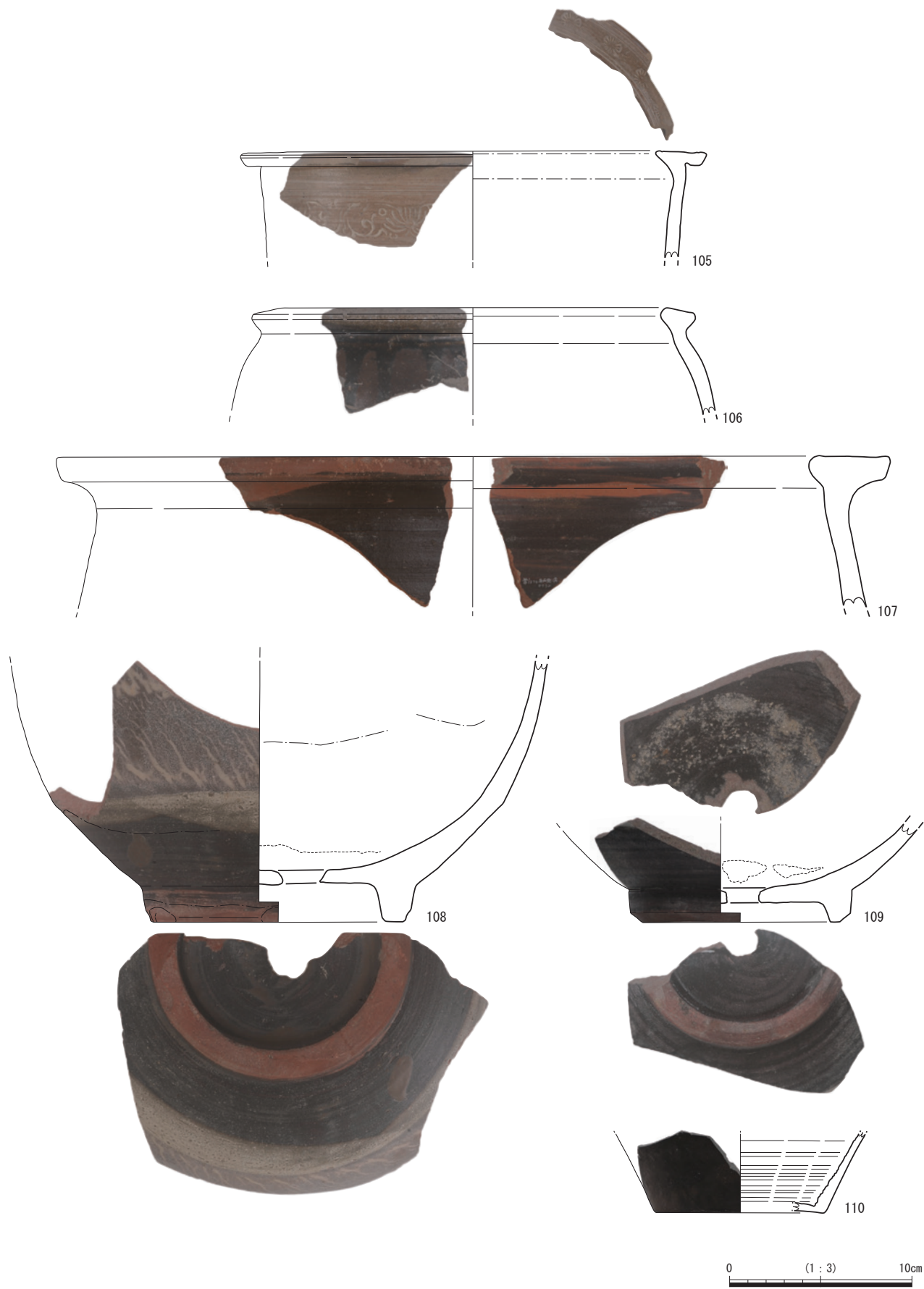
第147図 包含層出土遺物（4）



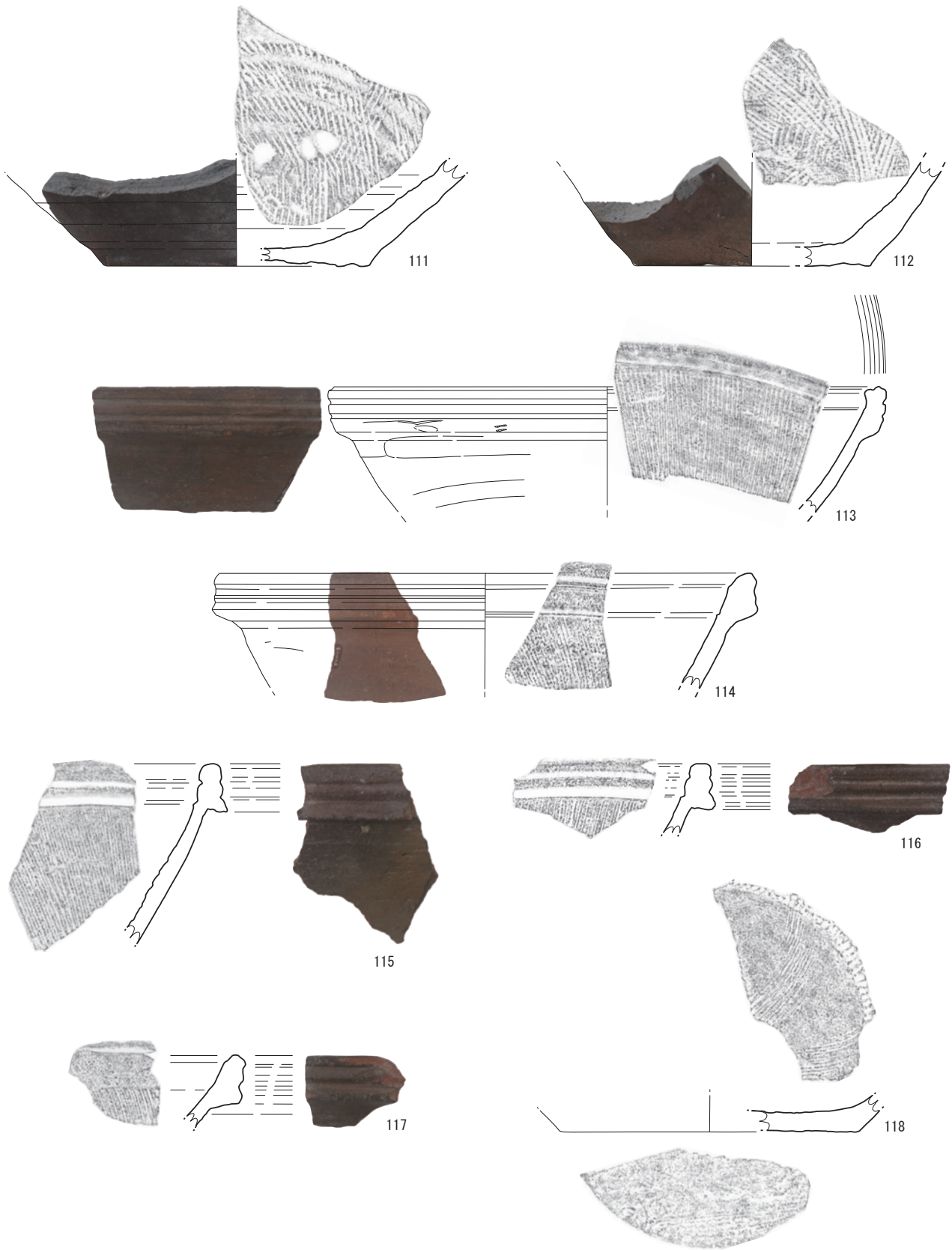
第148図 包含層出土遺物(5)



第149図 包含層出土遺物(6)



第150図 包含層出土遺物(7)

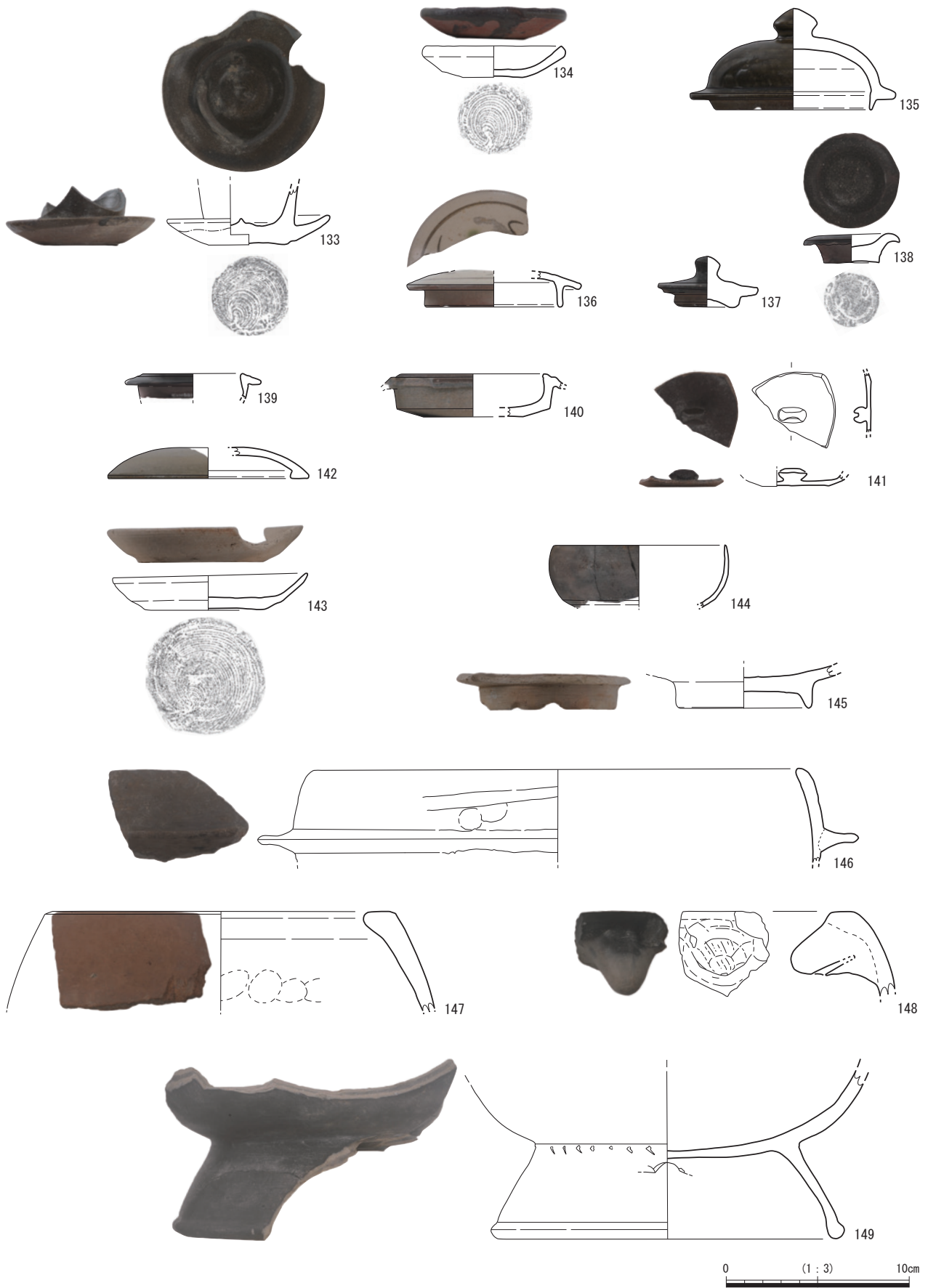


0 (1:3) 10cm

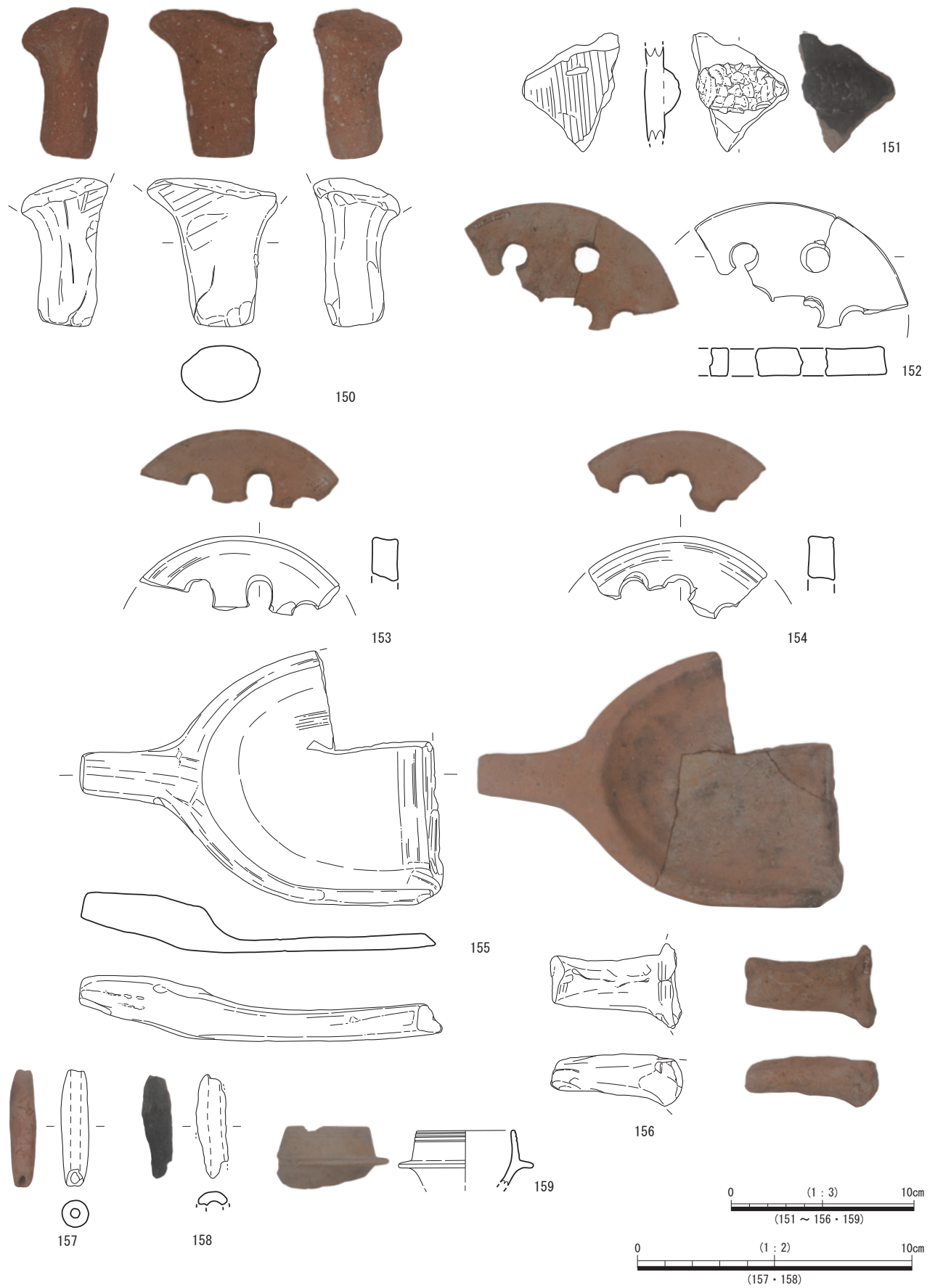
第151図 包含層出土遺物(8)



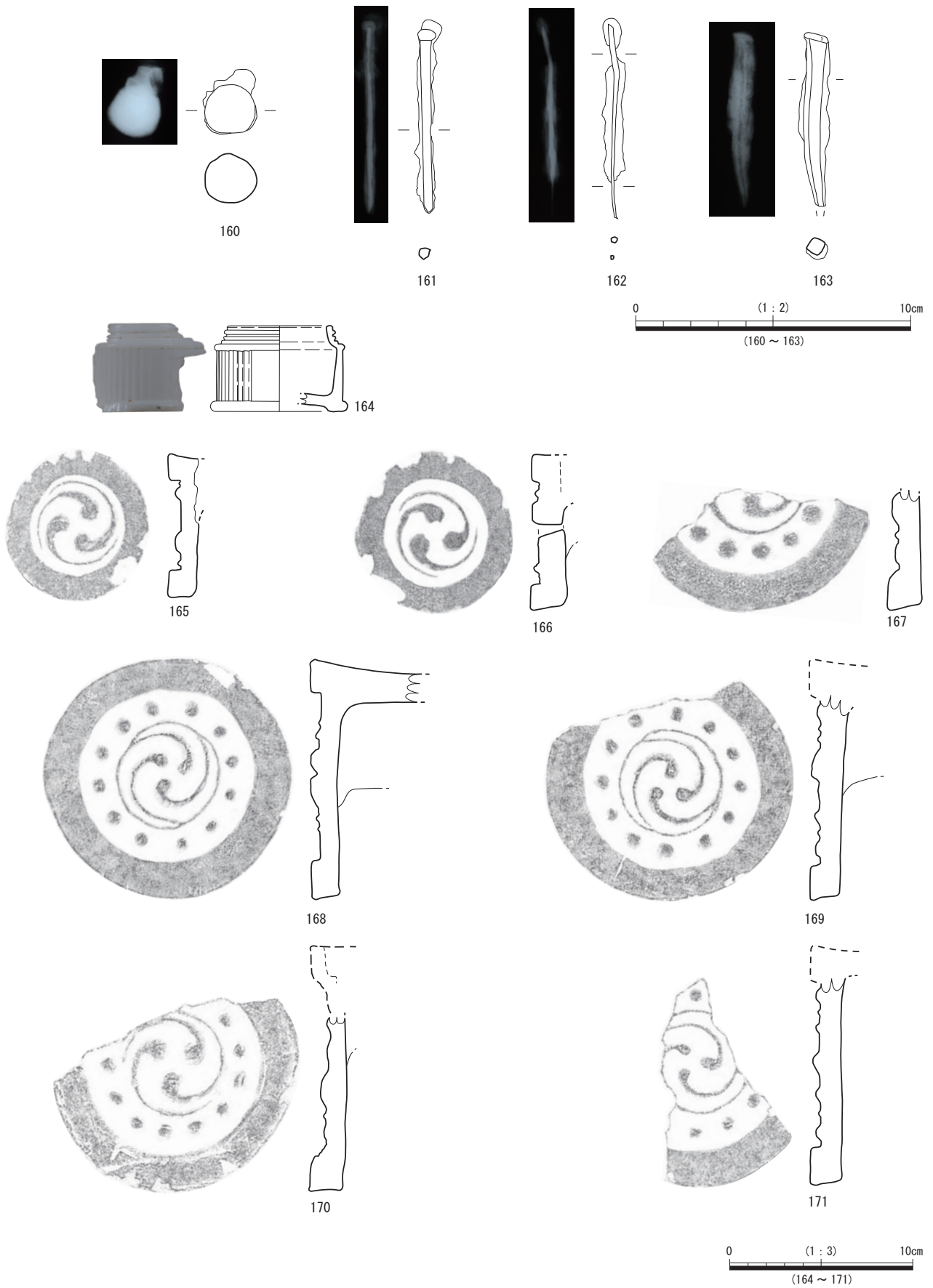
第152図 包含層出土遺物(9)



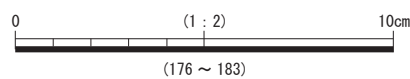
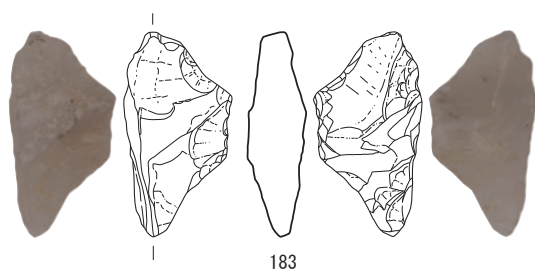
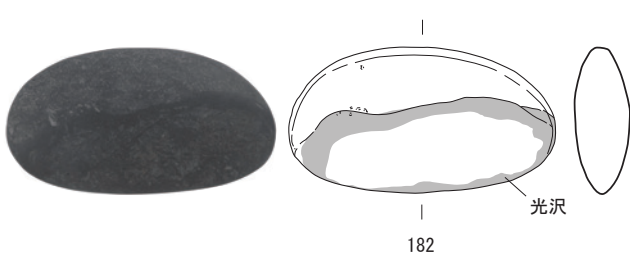
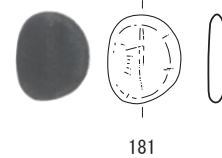
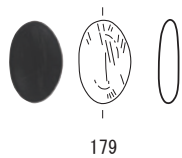
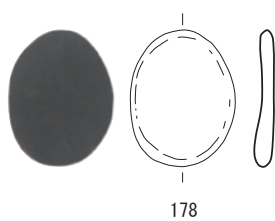
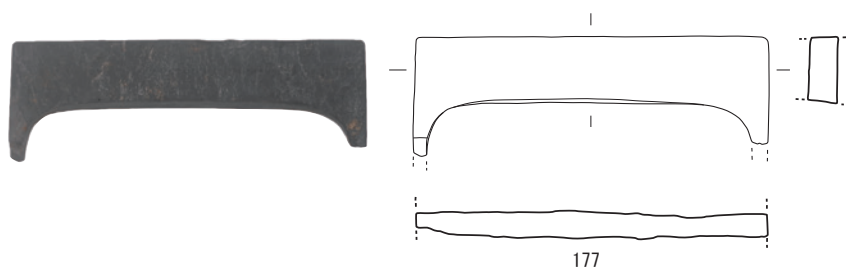
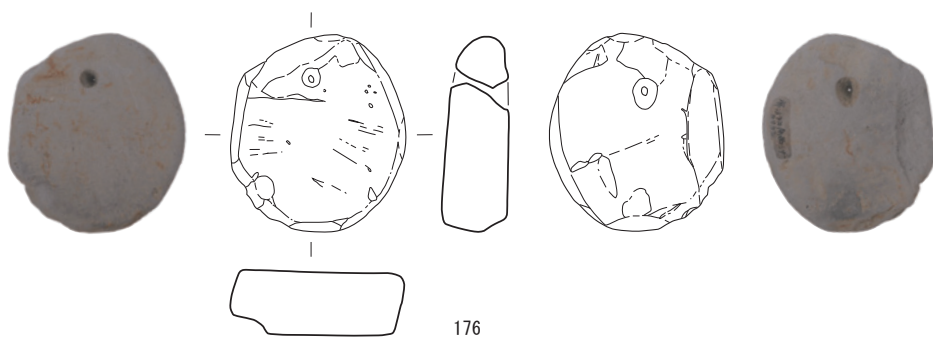
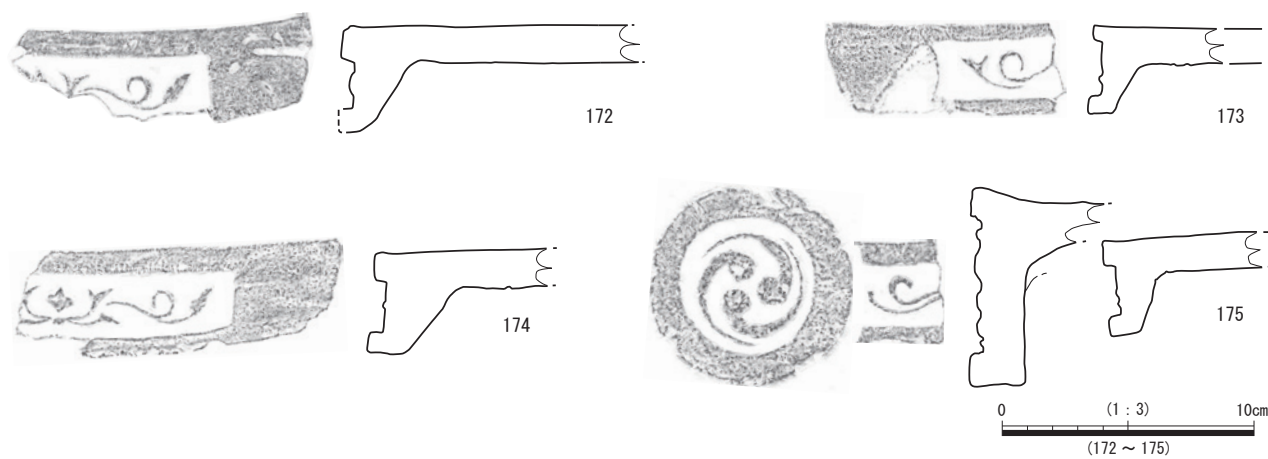
第153図 包含層出土遺物（10）



第154図 包含層出土遺物(11)



第155図 包含層出土遺物 (12)



第156図 包含層出土遺物 (13)



第157図 包含層出土遺物（14）

第21表 包含層遺物観察表（1）

報告番号	胎質	器種	生産地	口径 (cm)	底径・ 掴み径 (cm)	器高 (cm)	成形技法	釉薬	絵付	装飾技法	銘・刻印・墨書	胎土色・ 含有鉱物	遺構・層位	備考
1	磁器	碗	肥前系	(9.9)	4.1	5.05	ロク口	透明釉 (明緑灰色)	染付	手描き	不明銘 (高台内)	灰白色 N8/ (やや白色味強い)	南側溝・ 壁	くらわんか、高台融処理 不揃い、1680～1860年代
2	磁器	碗	肥前系	(8.6)	—	—	ロク口	透明釉	染付	コンニャク 印判		灰白色 N8/ (灰色味強い)	南側溝・ 壁	くらわんか、焼成不良（外 面釉白濁、呉須発色悪い）、 1680年代～19世紀初頭
3	磁器	碗	肥前系	—	4.0	—	ロク口	透明釉	染付	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	攪乱	くらわんか、高台内粗く施 釉、1680～1860年代
4	磁器	碗	肥前系	—	(4.2)	—	ロク口	青磁釉 透明釉 (内面・高台内)	染付	手描き	二重方形枠内 「渦福」銘？ (高台内)	灰白色 N8/ (灰色味強い)	攪乱・ 南西側溝	くらわんか、青磁染付、呉 須発色悪い、高台砂付着、 18世紀中頃～18世紀末
5	磁器	碗	肥前系	(8.8)	(3.0)	(5.55)	ロク口	透明釉	染付	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	攪乱	腰張碗、1710～1810年代
6	磁器	碗	肥前系	(10.2)	(3.5)	5.2	ロク口	透明釉	染付	手描き (素書)	銘あり（高台内）	灰白色 N8/ (白色味強い)	攪乱	小広東碗、1780～1820年 代
7	磁器	碗	肥前系	—	(3.4)	—	ロク口	透明釉	染付	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	南側溝・ 壁	小広東碗、1760～1820年 代
8	磁器	碗	肥前系	7.5	3.6	6.25	ロク口	透明釉	鉄絵	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	攪乱・ 南西側溝	筒形碗、沈線（胴部外面）、 18世紀第2四半期～1810 年代
9	磁器	碗	肥前系	—	(4.2)	—	ロク口	透明釉	染付	手描き	二重方形枠内 「渦福」銘 (高台内)	灰白色 N8/ (白色味強い)	攪乱・ 南西側溝	筒形碗、18世紀第2四半 期～18世紀末
10	磁器	碗	肥前系	11.0	5.8	5.9	ロク口	透明釉	染付	手描き	「太明年製」銘 (高台内)	灰白色 N8/ (白色味強い)	攪乱	広東碗、18世紀末
11	磁器	碗	肥前系	(9.0)	5.1	4.8	ロク口	透明釉	染付	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	南側溝・ 壁	広東碗、1780～1840年代
12	磁器	碗	肥前系	(9.0)	—	—	ロク口	透明釉	染付	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	攪乱・ 東側溝	広東碗、1780～1840年代
13	磁器	碗	関西系	—	(3.8)	—	ロク口	透明釉	染付	手描き	楕円枠内「山？」 銘（高台内）	灰白色 N8/ (白色味強い)	南側溝・ 壁	湯飲碗、焼継？、1820年 代～明治
14	磁器	碗	肥前系	(10.6)	—	—	ロク口	青磁釉（外面） 透明釉（内面）				灰白色 N8/ (白色味強い)	攪乱・ 東側溝	口紅、1640年代～
15	磁器	碗	肥前系	—	(4.8)	—	ロク口	透明釉	染付	手描き	二重方形枠内 「渦福」銘 (高台内)	灰白色 N8/ (白色味強い)	攪乱	1670年代頃～18世紀末
16	磁器	碗	肥前系	—	3.4	—	ロク口	透明釉	染付	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	攪乱・ 南西側溝	
17	磁器	碗	肥前系	—	3.7	—	ロク口	透明釉				灰白色 N8/ (白色味強い)	攪乱・ 南西側溝	量付わずかに砂付着
18	磁器	碗	肥前系	—	3.8	—	ロク口	透明釉	染付	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	攪乱	
19	磁器	碗	肥前系	—	3.65	—	ロク口	透明釉				灰白色 N8/ (白色味強い)	攪乱	
20	磁器	皿	肥前系	(14.2)	(7.9)	3.25	型打	透明釉	染付	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	南側溝・ 壁	輪花

「—」は、「不明」を示す。（ ）内の数字は、残存部から復元した数値を示す。
含有鉱物は、土器のみ記載。備考欄に記載した年代は、生産地における製作年代を示す。

第22表 包含層遺物観察表(2)

報告番号	胎質	器種	生産地	口径(cm)	底径・ 握み径 (cm)	器高 (cm)	成形技法	釉薬	絵付	装飾技法	銘・刻印・墨書	胎土色・ 含有鉱物	遺構・層位	備考
21	磁器	皿	肥前系	(12.9)	(8.3)	3.15	型打	透明釉	染付	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土	輪花
22	磁器	皿	瀬戸・ 美濃系?	(12.1)	6.2	2.75	ロクロ	透明釉 (高台除く)				灰白色 N8/ (白色味強い)	表土	焼成不良?(釉白濁)
23	磁器	皿	肥前系	-	(6.6)	-	ロクロ	透明釉	染付	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	攪乱・ 南西側溝	
24	磁器	皿 (小皿)	肥前系	(10.8)	6.3	2.4	型打	透明釉	染付	手描き	「成化年製」銘 (高台内)	灰白色 N8/ (白色味強い)	攪乱	輪花、18世紀中頃~19世紀前半
25	磁器	皿 (小皿)	瀬戸・ 美濃系	(10.0)	(6.0)	2.1	型打	透明釉		陰刻(型打)		灰白色 N8/ (白色味強い)	攪乱・ 東側溝	白磁文皿、1855年~
26	磁器	皿 (小皿)	肥前系	-	3.4	-	ロクロ	透明釉	染付	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	南側溝・ 壁	初期伊万里、1610~1650年代
27	磁器	皿 (大皿)	肥前系	-	(9.3)	-	ロクロ	透明釉	染付	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	攪乱	初期伊万里、1610~1650年代
28	磁器	鉢	瀬戸・ 美濃系	(16.6)	(6.4)	5.65	ロクロ	透明釉	上絵付 (赤・青・黄・ 黒色絵具)	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・ 調査区壁	
29	磁器	鉢	肥前系	(15.8)	-	-	ロクロ	透明釉	染付	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	南側溝・ 壁	
30	磁器	鉢?	肥前系	-	(13.9)	-	ロクロ	透明釉	染付	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	攪乱・ 東側溝	鉢または蓋物、漆継
31	磁器	鉢	肥前系	-	(7.5)	-	ロクロ	透明釉 (壘付施釉)				灰白色 N8/ (灰色味強い)	I・II層	壘付砂付着
32	磁器	向付?	肥前系	-	5.1	-	ロクロ	透明釉	染付	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	攪乱・ 東側溝	向付または蓋物、蛇ノ目高台
33	磁器	小坏	肥前系	7.6	3.0	4.0	ロクロ	透明釉	染付	手描き		灰白色 N8/ (灰色味強い)	攪乱・ 南西側溝	くらわんか、焼成不良(呉須灰色がかかる、外面釉白濁)、1680~1860年代
34	磁器	小坏	肥前系	(6.6)	(2.8)	2.3	ロクロ	透明釉	染付	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	攪乱・ 南西側溝	
35	磁器	小坏	瀬戸・ 美濃系	(8.4)	(2.7)	2.9	ロクロ	透明釉	上絵付 (赤・黒・ 白色絵具)	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	南側溝・ 壁	
36	磁器	小坏	肥前系	(5.5)	-	-	ロクロ	透明釉	染付	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	攪乱・ 南西側溝	半球形
37	磁器	小坏	肥前系	-	(2.1)	-	ロクロ	透明釉	染付	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	攪乱	半球形、壘付砂付着
38	磁器	小坏	肥前系	(6.9)	2.5	3.5	ロクロ	透明釉	上絵付 (見込赤色 絵具?、 外面は痕 跡のみ)	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	南側溝・ 壁	薄手酒杯、1780~1820年代
39	磁器	小坏	肥前系	6.7	2.5	3.05	ロクロ	透明釉	上絵付 (外面・ 見込に痕 跡のみ)	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	南側溝・ 壁	薄手酒杯、38と同一文様、1780~1820年代
40	磁器	小坏	肥前系	-	(2.55)	-	ロクロ	透明釉				灰白色 N8/ (白色味強い)	攪乱・ 東側溝	
41	磁器	紅皿	肥前系	(5.8)	(1.7)	2.5	ロクロ	透明釉	上絵付 (赤色絵具)	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	南側溝・ 壁	
42	磁器	紅皿	肥前系	(5.0)	-	-	ロクロ	透明釉	上絵付 (赤色絵具)	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土	
43	磁器	紅皿	肥前系	-	1.5	-	ロクロ	透明釉	上絵付 (赤色絵具)	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土	
44	磁器	仏飯器	瀬戸・ 美濃系	(6.7)	4.5	6.1	ロクロ	透明釉 (底部除く)	上絵付 (赤色絵具)	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	攪乱	
45	磁器	香炉	肥前系	(6.1)	(2.5)	4.85	ロクロ 貼付 (三足)	青磁釉 (胴上部内面~ 外面、壘付~高 台内除く) 透明釉(胴上部 内面~見込)				灰白色 N8/ (白色味強い)	攪乱・ 東側溝	壘付砂付着
46	磁器	香炉	肥前系	-	(7.4)	-	ロクロ	青磁釉(外面)				灰白色 N8/ (白色味強い)	攪乱	蛇ノ目高台、見込砂付着
47	磁器	瓶	肥前系	-	(6.0)	-	ロクロ	透明釉(外面)				灰白色 N7/ (白色味強い)	攪乱	高台砂付着
48	磁器	瓶	肥前系	-	6.5	-	ロクロ	透明釉	染付	手描き		灰白色 2.5Y8/1	表土	初期伊万里、高台内粗い砂付着、1610~1650年代
49	磁器	御酒德利	肥前系	(2.0)	3.7	8.7	ロクロ	透明釉(明緑 灰色)(外面)	染付	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	攪乱	高台内側砂付着
50	磁器	御酒德利	肥前系	-	(4.6)	-	ロクロ	透明釉(外面)	染付	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	攪乱	壘付砂付着
51	磁器	蓋物	肥前系	(18.8)	(13.0)	(9.8)	ロクロ	透明釉(口縁 部内面除く)	染付	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	攪乱・ 東側溝	
52	磁器	急須?	瀬戸・ 美濃系	-	(6.0)	-	型押	透明釉 (底部外面除く)				灰白色 N8/ (白色味強い)	攪乱	底部内面釉下に痕型押成形時のユビオサエ痕
53	磁器	絵具 容器	瀬戸・ 美濃系?	2.6	2.2	2.2	型押	透明釉		陽刻(型押)		灰白色 N8/ (白色味強い)	攪乱	近代~
54	磁器	碗蓋	肥前系	9.9	3.6	3.8	ロクロ	青磁釉 透明釉 (内面・高台内)	染付	手描き	二重方形枠内 「渦福」銘 (高台内)	灰白色 10Y8/1	攪乱	くらわんか、青磁染付、呉須発色悪い、透明釉灰色がかかる、高台釉際処理不揃い、高台内側砂付着、18世紀中頃~18世紀末
55	磁器	碗蓋	肥前系	(10.2)	(4.2)	2.9	ロクロ	透明釉	染付	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	攪乱	撥高台、1820~1870年代
56	磁器	段重・ 蓋物蓋	肥前系	9.3	3.35	3.35	ロクロ	透明釉 (合わせ目除く)	染付	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	攪乱	呉須発色悪い、合わせ目に砂付着、漆継
57	磁器	段重・ 蓋物蓋	肥前系	-	-	-	ロクロ	透明釉 (合わせ目除く)	染付	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	攪乱・ 東側溝	合わせ目アルミナ砂塗布
58	磁器	栓?	肥前系?	2.35	1.4	9.65	ロクロ?	透明釉(上下 面・穿孔内)				灰白色 2.5Y8/1	攪乱・ 東側溝	水注の栓?、中央部に直径9mm程の穿孔

註は第21表に同じ。

第23表 包含層遺物観察表（3）

報告番号	胎質	器種	生産地	口径 (cm)	底径・ 摘み径 (cm)	器高 (cm)	成形技法	釉薬	絵付	装飾技法	銘・刻印・墨書	胎土色・ 含有鉱物	遺構・層位	備考
59	陶器	碗	肥前系	—	(5.2)	—	ロク口	灰釉 (底部除く)			刻印・円刻 (高台内)	灰白色 2.5Y8/2	表土・ 調査区壁	京焼風陶器、17世紀後半 ～18世紀前半
60	陶器	碗	瀬戸・ 美濃系	(11.7)	4.8	5.6	ロク口	鉄釉 (天目釉) (外面下半除く)				灰白色 2.5Y8/1	表土/ I・II層	天目碗、17世紀初頭
61	陶器	碗	肥前系	—	3.6	—	ロク口	鉄釉 (底部除く)				赤褐色 10R5/3	I・II層	天目碗、1594年頃～1690 年代
62	陶器	碗	瀬戸・ 美濃系	13.0	4.15	6.15	ロク口	灰釉 (底部除く)	白化粧土	刷毛目		灰白色 10YR8/2	攪乱	1760年代～
63	陶器	碗	肥前系	—	4.7	—	ロク口	灰釉 (底部除く)	白化粧土	刷毛目		灰色 5Y6/1	表土	17世紀後半～
64	陶器	碗	肥前系	—	(5.1)	—	ロク口	灰釉 (底部除く)				褐灰色 5YR6/1	I・II層	外面被熱?、17世紀前葉
65	陶器	碗	肥前系	—	(4.7)	—	ロク口	灰釉 (底部除く)				淡黄色 2.5Y8/4	I・II層	17世紀前葉
66	陶器	碗	肥前系	—	(4.0)	—	ロク口	灰釉 (底部除く)				灰白色 7.5Y8/1	攪乱・ 東側溝	17世紀前葉
67	陶器	碗	肥前系	—	4.4	—	ロク口	鉄釉 (底部除く)				灰白色 2.5Y8/1	I・II層	
68	陶器	碗	瀬戸・ 美濃系	(11.3)	5.0	7.2	ロク口	鉄釉(黒釉) (高台除く) 長石釉散らし (胴部外面)				灰白色 5Y7/1	攪乱・ 南西側溝	拳骨茶碗、蛇ノ目高台、胴 部外面押圧、18世紀後半～
69	陶器	碗	瀬戸・ 美濃系	—	(4.0)	—	ロク口	透明釉 (白化粧土塗布 のち)	染付	手描き		灰白色 10YR8/1	攪乱	太白手、畳付砂付着、18 世紀後半～19世紀前葉
70	陶器	碗	瀬戸・ 美濃系	—	(4.2)	—	ロク口	鉄釉 (畳付除く)	鉄絵	手描き		灰白色 5Y8/1 (白色味強い)	攪乱・ 南西側溝	
71	陶器	碗	京・ 信楽系	—	(3.6)	—	ロク口	灰釉 (底部除く)	上絵付 (緑・黒色 絵具他)	手描き		灰白色 2.5Y8/2 (白色味強い)	攪乱	
72	陶器	碗	京・ 信楽系	(9.5)	—	—	ロク口	灰釉 (底部除く)				灰白色 2.5Y8/1	南側溝・ 壁	半球形
73	陶器	碗	京・ 信楽系	9.2	3.3	5.4	ロク口	灰釉 (底部除く)	錆絵	手描き		灰白色 2.5Y8/2	攪乱	小杉茶碗、18世紀前半～ 幕末
74	陶器	碗	京・ 信楽系	(8.8)	(3.6)	4.9	ロク口	灰釉 (底部除く)				灰白色 10YR8/2	攪乱	小杉茶碗、18世紀前半～ 幕末
75	陶器	碗	京・ 信楽系	(9.1)	(3.6)	5.1	ロク口	灰釉 (底部除く)				灰白色 2.5Y8/2	攪乱	小杉茶碗、18世紀前半～ 幕末
76	陶器	碗	京・ 信楽系	(10.9)	—	—	ロク口	灰釉 (底部除く)	下絵付 (鉄釉・呉須)	手描き		灰白色 2.5Y8/1 (白色味強い)	南側溝・ 壁	小杉茶碗、18世紀前半～ 幕末
77	陶器	碗	京・ 信楽系	—	3.9	—	ロク口	灰釉 (底部除く)				灰白色 2.5Y8/1	攪乱・ 南西側溝	小杉茶碗、18世紀前半～ 幕末
78	陶器	碗	京・ 信楽系	—	3.5	—	ロク口	灰釉 (底部除く)				灰白色 2.5Y8/1	表土	小杉茶碗、18世紀前半～ 幕末
79	陶器	碗	京・ 信楽系	—	3.2	—	ロク口	灰釉 (底部除く)	錆絵	手描き	円刻(高台内)	灰白色 7.5Y8/1	攪乱・ 南西側溝	小杉茶碗、18世紀前半～ 幕末
80	陶器	碗	京・ 信楽系	—	(3.5)	—	ロク口	灰釉 (底部除く)				灰白色 N8/	南側溝・ 壁	小杉茶碗、18世紀前半～ 幕末
81	陶器	碗	京・ 信楽系	—	(4.5)	—	ロク口	灰釉 (底部除く)				灰白色 7.5Y8/1	攪乱・ 東側溝	見込円錐ピン痕
82	陶器	碗	京・ 信楽系	—	(4.0)	—	ロク口	灰釉 (底部除く)				灰白色 2.5Y8/1 (白色味強い) 灰白色 2.5Y8/2	表土	
83	陶器	碗	京・ 信楽系	—	(4.0)	—	ロク口	灰釉 (底部除く)				灰白色 5Y8/1 (白色味強い)	攪乱・ 南西側溝	
84	陶器	碗	京・ 信楽系	—	(3.9)	—	ロク口	灰釉 (底部除く)			墨書あり (高台内)	灰白色 2.5Y8/2	I・II層	
85	陶器	皿	肥前系	—	5.0	—	ロク口	灰釉 (底部除く)	鉄絵?	手描き		にぶい橙色 5YR7/4	攪乱・ 南西側溝	見込砂目(4か所)、畳付 砂目(4か所)、焼成不良? (釉白濁)、釉は粗く施釉さ れ、見込露胎に鉄釉がみら れる、1610～1690年代
86	陶器	皿	肥前系	—	(4.2)	—	ロク口	灰釉 (底部除く)				にぶい橙色 5YR6/4	攪乱	見込砂目、高台内砂目 跡、焼成不良?(釉白濁)、 1610～1690年代
87	陶器	皿	肥前系	—	5.05	—	ロク口	灰釉 (底部除く)				にぶい黄橙色 10YR7/3	I・II層	見込胎土跡、1594～ 1610年代
88	陶器	皿	肥前系	—	(5.0)	—	ロク口	銅緑釉(内面) 灰釉 (底部除く外面)				灰白色 5Y7/1	攪乱・ 南西側溝	銅緑釉皿、見込蛇ノ目釉刺 ぎ、17世紀末～18世紀前半
89	陶器	皿	肥前系	—	(5.0)	—	ロク口	灰釉 (底部除く)	鉄絵?			灰白色 7.5Y7/1	表土	17世紀
90	陶器	皿	肥前系	—	(4.7)	—	ロク口	灰釉(内面)				灰白色 2.5Y8/2	I・II層	
91	陶器	皿	瀬戸・ 美濃系	(11.3)	(5.6)	1.85	ロク口	灰釉 (高台内除く)				灰白色 2.5Y8/2	I・II層	見込蛇ノ目釉刺ぎ・銅釉塗 布、高台内輪トチン熔着、 16世紀末～17世紀初頭
92	陶器	皿	瀬戸・ 美濃系	(10.8)	(6.5)	2.5	ロク口	鉄釉(胎釉)				灰白色 2.5Y8/1	I・II層	輪花(口縁端部を指で押さ えてヒダ状にする)
93	陶器	皿	瀬戸・ 美濃系	(10.5)	—	—	ロク口	灰釉		ソギ(丸ノミ 状工具)		灰白色 2.5Y8/1	表土	16世紀末～17世紀初頭
94	陶器	皿	京・ 信楽系	—	4.15	—	ロク口	灰釉 (底部除く)	下絵付 (鉄釉・呉須)	手描き		灰白色 5Y8/1 (白色味強い)	攪乱	
95	陶器	小坏	肥前系	—	3.4	—	ロク口	灰釉 (底部除く)				灰白色 5Y8/1	攪乱・ 南西側溝	底部右回転系切り離し、 1580年代～1594年頃
96	陶器	小坏	京・ 信楽系	—	(2.5)	—	ロク口	灰釉 (底部除く)			円刻(高台内)	灰白色 2.5Y8/1 (白色味強い)	表土	
97	陶器	瓶	—	—	(6.3)	—	ロク口	鉄釉? (底部除く外面)				灰色 7.5Y5/1	I・II層	
98	陶器	蓋物	京・ 信楽系	(7.35)	5.1	4.0	ロク口	灰釉(底部・ 蓋受け除く)			墨書あり (高台内)	灰白色 2.5Y8/2	攪乱	

註は第21表に同じ。

第24表 包含層遺物観察表(4)

報告番号	胎質	器種	生産地	口径 (cm)	底径・筒み径 (cm)	器高 (cm)	成形技法	釉薬	絵付	装飾技法	銘・刻印・墨書	胎土色・含有鉱物	遺構・層位	備考
99	陶器	合子	京・信楽系	(7.8)	(4.5)	3.2	ロクロ	灰釉(蓋受け・底部除く)				灰白色 2.5Y8/1	表土	
100	陶器	植木鉢	瀬戸・美濃系	(9.4)	—	—	ロクロ	鉄釉(黒釉)(外面)				灰白色 2.5Y8/1	表土	
101	陶器	鉢	肥前系	—	(10.6)	—	ロクロ	灰釉(内面)	鉄絵	手描き		にぶい黄橙色 10YR7/2	SG401 範囲確認 トレンチ	絵唐津、17世紀
102	陶器	鉢?	備前系	—	(12.8)	—	ロクロ					赤灰色 2.5YR6/1	南側溝・壁	塗土(外面)、火燵(内面)
103	陶器	鉢	備前系	(21.4)	(13.7)	13.4	ロクロ					明赤褐色 2.5YR5/6	攪乱	火燵(底部内面)、外・内面スス付着
104	陶器	鉢	萩系	(25.4)	(8.5)	12.0	ロクロ	裏灰釉(底部除く) 鉄釉流し掛け(内面)				灰白色 2.5Y7/1 (灰色味強い)	南側溝・壁	輪花(口縁端部を指で押さえてヒタ状にする)、渦巻高台、19世紀前半～
105	陶器	壺	肥前系	(23.9)	—	—	ロクロ	灰釉(外面) 鉄釉(胴部内面)	白化粧土	三島手(印花・線彫り)		灰白色 7.5YR8/2	南側溝・壁	17世紀前半～
106	陶器	壺	丹波系	(22.7)	—	—	ロクロ	鉄釉(灰褐色) 灰釉(口縁部外面～内面) 鉄釉(オリブ黒色) 流し掛け(胴部外面)				灰白色 N7/	南側溝・壁	18世紀末～19世紀中頃
107	陶器	壺	大谷?	(42.8)	—	—	ロクロ	鉄釉(胴部、内面粗く刷毛掛け)				橙色 2.5Y6/6	攪乱・南西側溝	19世紀
108	陶器	壺	肥前系	—	(13.0)	—	ロクロ	灰釉(上半) 錆釉(蓋付除く下半、刷毛掛け)	白化粧土	刷毛目		にぶい橙色 2.5YR6/3	攪乱・南西側溝	底部内面砂付着、底部焼成後穿孔→植木鉢に転用、高台残存部外面に焼成前に付けたと思われる指跡のような楕円形のくぼみが3か所みられる、17世紀後半～
109	陶器	壺	肥前系	—	(10.2)	—	ロクロ	鉄釉(蓋付除く、刷毛掛け)				にぶい橙色 5YR7/3	攪乱・南西側溝	残存部上端に刷毛目?、底部内面砂付着、底部焼成後穿孔→植木鉢に転用
110	陶器	壺?	—	—	(9.3)	—	ロクロ	鉄釉(外面)				灰白色 N7/ (灰色味強い)	表土・調査区壁	
111	陶器	播鉢	備前系	—	(14.2)	—	ロクロ					灰色 N7/ 灰色 N6/ (芯部)	SG401 範囲確認 トレンチ	乗間近世1c期(17世紀初) 外面:強い回転ナデ 内面:強い回転ナデ、ユビオサエ(内面)。
112	陶器	播鉢	備前系	—	(12.5)	—	ロクロ					灰白色 10Y7/2	表土	乗間近世1c期(17世紀初) 胴部外面:回転ナデのちナデ
113	陶器	播鉢	堺・明石系	(28.9)	—	—	ロクロ					赤褐色 10R5/3 灰色 7.5Y4/1 (芯部)	攪乱・南西側溝	スリメ10条/単位、白神I型式(18世紀中頃) 胴部外面:回転ヘラケズリのち回転ナデ
114	陶器	播鉢	堺・明石系	(28.3)	—	—	ロクロ					にぶい橙色 2.5YR6/4	表土	白神II型式(18世紀後半～19世紀) 胴部外面:回転ヘラケズリ
115	陶器	播鉢	堺・明石系	—	—	—	ロクロ					にぶい橙色 7.5YR7/3	攪乱	白神II型式(18世紀後半～19世紀) 胴部外面:回転ヘラケズリのち回転ナデ
116	陶器	播鉢	堺・明石系	—	—	—	ロクロ					赤色 10R5/6	攪乱	白神II型式(18世紀後半～19世紀)
117	陶器	播鉢	堺・明石系	—	—	—	ロクロ					赤色 10R6/6	攪乱	白神II型式(18世紀後半～19世紀)
118	陶器	播鉢	堺・明石系	—	(15.8)	—	ロクロ					明赤褐色 2.5YR5/6	攪乱・東側溝	塗土(胴部外面)、見込スリメ放射状(9条/単位)、見込焼き台痕?、底部板目状圧痕、白神II型式(18世紀後半～19世紀)
119	陶器	片口	肥前系	(18.6)	8.2	9.6	ロクロ	灰釉(蓋付～高台内除く)				橙色 2.5YR6/6	攪乱	焼成不良?(釉白濁)
120	陶器	土瓶?	—	(9.7)	—	—	ロクロ	鉄釉(外面・口縁部除く内面屈曲部より上) 錆釉(内面屈曲部より下)				にぶい黄橙色 10YR7/2	攪乱	
121	陶器	水注	—	—	(9.5)	—	ロクロ	鉄釉(底部除く外面)				灰白色 7.5Y7/1	攪乱・東側溝	底部右回転系切り離し
122	陶器	鍋	—	(19.7)	—	—	ロクロ	鉄釉(柿釉)				灰白色 N8/	攪乱・東側溝	
123	陶器	鍋	—	(13.5)	—	—	ロクロ 貼付(把手)	鉄釉(柿釉)				灰白色 2.5Y7/1	攪乱	
124	陶器	燗鍋	—	(15.35)	—	—	ロクロ 貼付(耳・注口)	鉄釉(柿釉)(蓋受け・胴下部外面除く)				灰黄色 2.5Y7/2 (灰色味強い)	南側溝・壁	
125	陶器	鍋	—	—	(8.0)	—	ロクロ 貼付(足)	鉄釉(柿釉)(底部除く)				灰白色 5Y7/1	表土	露胎部にスス付着
126	陶器	灯明皿	備前系	8.1	3.05	1.4	ロクロ					赤褐色 10R5/4	攪乱	塗土(内面)、灯芯油痕
127	陶器	灯明皿	備前系	7.8	1.4	1.4	ロクロ					赤褐色 10R5/4	攪乱	塗土(内面～口縁部外面)、灯芯油痕
128	陶器	灯明皿	備前系	(8.2)	(3.0)	1.6	ロクロ					赤色 10R5/6	攪乱・南西側溝	塗土(内面～口縁部外面)
129	陶器	灯明受皿	京・信楽系	(13.2)	(5.5)	2.6	ロクロ 貼付(仕切り)	灰釉(仕切り端部除く内面)				灰白色 N8/	攪乱・南西側溝	
130	陶器	灯明受皿	備前系	7.6	3.2	1.35	ロクロ 貼付(仕切り)					赤褐色 10R5/4	攪乱	塗土(内面)、仕切りにU字形溝(3か所)、底部右回転系切り離し

註は第21表に同じ。

第25表 包含層遺物観察表（5）

報告番号	胎質	器種	生産地	口径 (cm)	底径・摘み径 (cm)	器高 (cm)	成形技法	釉薬	絵付	装飾技法	銘・刻印・墨書	胎土色・含有鉱物	遺構・層位	備考
131	陶器	灯明受皿	備前系	7.6	3.6	1.2	ロク口貼付(仕切り)					橙色 2.5YR6/6	攪乱・東側溝	塗土（内面）、仕切りにU字形溝2か所残存、灯芯油痕
132	陶器	灯明受皿	備前系	7.7	4.6	0.8	ロク口貼付(仕切り)					赤褐色 10R4/3	攪乱	塗土（全面）、仕切りにU字形溝2か所残存、灯芯油痕
133	陶器	灯明受皿	肥前系	—	4.3	—	ロク口	灰釉（受皿外面除く）				灰色 N6/ 灰褐色 7.5YR4/2	攪乱	受皿底部右回転系切り離し
134	陶器	灯明受皿(土皿)	大谷	7.4	3.4	1.7	ロク口	鉄釉（内面）				橙色 2.5YR6/8	攪乱・東側溝	脚付灯明受皿、底部右回転系切り離し、19世紀
135	陶器	壺蓋	—	8.55	2.4	5.5	ロク口貼付(摘み)	灰釉（外面）				灰黄色 2.5Y6/2	攪乱	合わせ目に重ね焼き痕（環状）
136	陶器	土瓶蓋	—	(7.5)	—	—	ロク口	透明釉（外面白化粧土塗布のち）	下絵付（鉄釉・緑釉）	手描き		灰白色 2.5Y7/1	攪乱	
137	陶器	水注蓋	肥前系	3.55	1.35	2.8	ロク口貼付(摘み)	鉄釉（上面）				灰色 N6/	攪乱・東側溝	
138	陶器	水注蓋	大谷	3.7	3.0	1.6	ロク口	鉄釉（上面）				灰赤色 2.5YR4/2	攪乱・南西側溝	底部右回転系切り離し、19世紀
139	陶器	蓋	大谷	(5.4)	—	—	ロク口	鉄釉（上面）				灰赤色 7.5R5/2	攪乱・南西側溝	土瓶または水注、19世紀
140	陶器	蓋	—	(7.2)	(5.1)	2.15	ロク口	鉄釉（上面）				灰白色 10YR8/2 灰色 N6/（外側）	南側溝・壁	土瓶または水注
141	陶器	蓋	—	—	(3.65)	—	ロク口貼付(摘み)	鉄釉（柿釉）（上面）				にぶい橙色 5YR6/4	I・II層	土瓶または水注
142	陶器	鍋蓋	—	(11.0)	—	—	ロク口	灰釉（外面）				にぶい黄橙色 10YR7/3	表土	
143	土師質土器	皿	—	10.6	6.4	2.05	ロク口					灰白色 10YR8/2 長石・石英・黒色粒・金雲母（極小、少量）	表土	外面：底部右回転系切り離し（板目状圧痕なし）、回転ナデ 内面：回転ナデ、ナデ
144	土師質土器	碗型土器	—	9.4	—	—	ロク口					黒色 5Y2/1 長石・金雲母（極小、少量）	不明	硬質、全面スス付着
145	土師質土器	火入？	—	—	6.8	—	ロク口	透明釉（外面）				灰白色 10YR8/2 長石・金雲母・赤色斑粒・黒色粒（極小、少量）	攪乱・南西側溝	釉剥離顕著（高台脇・高台内にわずかに残存）、内面スス付着
146	土師質土器	羽釜	—	(24.9)	—	—	型成形貼付(鋳部)					にぶい赤褐色 5YR5/3 長石（極小～中）、石英・金雲母・黒色粒（極小、少量）	攪乱	鋳部下面スス付着 外面：ナデ、ユビオサエ 内面：ナデ
147	土師質土器	火鉢・焔炉	—	(18.5)	—	—	ロク口					にぶい橙色 7.5YR6/4 長石・金雲母・赤色斑粒・黒色粒（極小、少量）	攪乱・南西側溝	風炉、残存部下端に穿孔1か所、口縁部上面スス付着 外面：ミガキ、回転ナデ 内面：ユビオサエ、回転ナデ
148	土師質土器	火鉢・焔炉	—	—	—	—	ロク口貼付(角状突起)					灰色 N6/ 金雲母・長石（極小、少量）	表土・調査区壁	風炉、外面スス付着 外面：ミガキ、ナデ 内面：ナデ、ユビオサエ
149	瓦質土器	火鉢・焔炉	—	—	(18.6)	—	ロク口					灰白色 5Y8/1 灰色 N5/（芯部） 長石（極小、少量）	南側溝・壁	高台に穿孔1か所残存・工具痕？ 外面：ミガキ（胴部）、回転ナデ 内面：回転ナデ
150	土師質土器	火鉢・焔炉？（足）	—	—	—	—	型成形？					橙色 2.5YR6/6 長石・石英・赤色斑粒（極小～中、非常に多い）	表土	板ナデ？
151	瓦質土器	火鉢・焔炉	—	—	—	—	板作り型押・貼付(把手)					淡橙色 5YR8/4 長石・石英・金雲母・赤色斑粒・黒色粒（極小、少量）	攪乱	内面：縦ハケ
152	土師質土器	さな	—	(15.1)	(14.9)	1.5	型成形棒状工具による穿孔					にぶい橙色 2.5YR6/4 長石・石英・金雲母・黒色粒・結晶片岩（極小）	攪乱・東側溝	上面・側面スス付着
153	土師質土器	さな	—	(13.3)	(12.8)	1.3	型成形棒状工具による穿孔					にぶい橙色 5YR7/4 長石・石英・金雲母・黒色粒（極小）	攪乱	154と同一個体？
154	土師質土器	さな	—	—	—	1.35	型成形棒状工具による穿孔					にぶい橙色 5YR7/4 長石・石英・金雲母・黒色粒（極小）	攪乱	153と同一個体？
155	土師質土器	十能	—	長さ 19.4	幅 13.9	3.6	板作り					にぶい橙色 5YR7/4 長石・石英・赤色斑粒・黒色粒（極小、少量）	攪乱	皿部外・内面スス付着 外・内面：ナデ
156	土師質土器	十能(柄)	—	—	—	—	—					にぶい橙色 7.5YR7/3 長石・金雲母・赤色斑粒・黒色粒（極小）	攪乱・東側溝	
157	土師質土器	管状土鉢	—	—	—	—	粘土巻付け					にぶい橙色 5YR7/3 長石・金雲母（極小、少量）	表土	
158	土師質土器	管状土鉢	—	—	—	—	粘土巻付け					褐灰色 10YR4/1 長石・金雲母（極小、少量）	表土	全面スス付着
159	土師質土器	ミニチュア羽釜	—	(5.2)	—	—	ロク口					灰白色 10YR8/2 黒色粒・長石・金雲母（極小、少量）	南側溝・壁	銀彩痕跡？（口縁部外面・内面全面）、沈線

註は第21表に同じ。

第26表 包含層遺物観察表(6)

報告番号	遺物名	最大長 (cm) *	最大幅 (cm) *	最大厚 (cm) *	重量 (g) *	材質 **	遺構・層位	備考
160	鉄砲玉	1.9	1.8	—	9.39	鉄	I・II層	
161	釘	6.7	0.7 (頭部)	0.5 (身部)	4.97	鉄	表土	身部断面多角形。
162	釘?	7.1	—	0.2 (身部)	4.57	鉄	表土	頭部欠損?身部断面多角形。
163	釘	[6.3]	0.9 (頭部)	0.7 (身部)	[8.21]	鉄	表土	

* [] は残存部のサイズを示す。重量は錆びを含む。
** 肉眼観察による。

報告番号	胎質	器種	産地	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	遺構・層位	備考
164	ガラス	化粧瓶	—	(5.5)	(7.0)	4.7	攪乱・南西側溝	白色・不透明

「—」は、「不明」を示す。
() 内の数字は、残存部から復元した数値を示す。

報告番号	遺物名	瓦当・軒丸部 (cm) *				瓦当・軒平部 (cm) *			筒部 (cm) *				調整	色調(断面)	胎土	含有鉱物	離型剤 **	コピキ **	遺構・層位	備考	
		文様	瓦当部径	内区幅	珠径	文様	瓦当部全幅	瓦当部高	筒部全長	筒部全幅	筒部厚	筒部高									
165	軒棧瓦	三巴文	8.0	4.5	—	?	?	?	[2.0]	[8.2]	?	—	瓦当表面に、タタキ調整	灰白色 2.5Y7/1	緻密	雲母	キラコ?	?	表土壁精査	瓦当丸瓦部裏面に芋付けの櫛目あり。	
166	軒棧瓦	三巴文	8.6	4.6	—	?	?	?	[2.3]	[4.6]	?	—	ナデ	灰白色 2.5Y7/1	緻密	雲母	?	?	攪乱・東側溝	瓦当中央部に焼成後穿孔。再加工品か?	
167	軒丸瓦	三巴文、連珠	13.2	6.0	1.2	—	—	—	[1.9]	?	?	?	ナデ	灰黄色 2.5Y7/2	緻密	雲母	キラコ?	?	攪乱・南西側溝		
168	軒丸瓦	三巴文、連珠	13.3	5.8	1.0	—	—	—	[6.1]	?	1.6	6.4	ナデ、ケズリ	灰白色 2.5Y7/1	緻密	雲母	ハナレ砂	B?	?	瓦当表面に芋付けの櫛目あり。	
169	軒丸瓦	三巴文、連珠	13.4	6.0	1.1	—	—	—	[4.6]	?	?	?	ナデ、ケズリ	灰白色 2.5Y7/1	緻密	雲母	ハナレ砂	?	?	攪乱一括	
170	軒丸瓦	三巴文、連珠	13.3	5.5	1.2	—	—	—	[2.1]	?	?	?	ナデ	黄灰色 2.5Y6/1	緻密	雲母	?	?	攪乱・東側溝	瓦当に光沢あり。瓦当表面に芋付けの櫛目あり。	
171	軒丸瓦	三巴文、連珠	13.1	5.7	1.1	—	—	—	[1.6]	?	?	?	ナデ	灰白色 2.5Y7/1	緻密	雲母	ハナレ砂	?	?	攪乱一括	
172	軒平瓦/軒棧瓦	?	?	?	—	均整唐草文	[12.5]	4.1	[11.5]	[13.0]	1.6	—	ナデ	灰白色 2.5Y7/1	緻密	雲母	キラコ	B?	?	攪乱・南西側溝	
173	軒平瓦/軒棧瓦	—	—	—	—	均整唐草文	[10.3]	3.5	[7.5]	[10.5]	1.5	—	ナデ	灰白色 2.5Y7/1	緻密	雲母	キラコ	?	?	攪乱	瓦当表面に芋付けの櫛目か?
174	軒平瓦/軒棧瓦	?	?	?	—	均整唐草文	[12.9]	4.1	[6.8]	[13.0]	1.5	—	ナデ	灰白色 2.5Y7/1	緻密	雲母	?	B?	?	攪乱	
175	軒棧瓦	三巴文	8.1	4.4	—	均整唐草文	[3.3]	3.8	[8.1]	[11.2]	1.5	—	ナデ、コピキサエ	灰白色 2.5Y7/1	緻密	雲母	?	?	?	攪乱	

* [] は残存部のサイズを示す。計測部位は原・小林編(2012)に従う。
** 森田(1984)に従う。

報告番号	遺物名	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	調整	色調	胎土	含有鉱物	遺構・層位	備考
176	瓦再加工品	5.7	4.4	1.7	ナデ	灰白色 2.5Y7/1	緻密	雲母	攪乱・南西側溝	上下からの穿孔により貫通する孔があげられる。

報告番号	遺物名	最大長 (cm) *	最大幅 (cm) *	最大厚 (cm) *	重量 (g) *	石材 **	遺構・層位	備考
177	硯	[3.2]	9.4	[0.8]	[29.47]	頁岩?	南側溝	
178	基石	4.5	2.8	0.5	7.32	頁岩	表土	
179	基石	2.2	1.4	0.5	2.61	頁岩	表土	
180	基石	[1.7]	1.8	0.5	[2.6]	頁岩	表土	
181	基石	2.3	1.9	0.5	3.61	頁岩	—	I・II層
182	不明	7.0	3.8	1.5	52.5	玄武岩?	東側溝	片面下半に光沢を有する。
183	火打石	5.4	2.9	1.6	22.9	石英	表土	剥離を有する。

* [] は残存部のサイズ・重量を示す。
** 肉眼観察による。

報告番号	遺物名	最大長 (cm) *	最大幅 (cm) *	最大厚 (cm) *	重量 (g) *	材質	遺構・層位	備考
184	歯ブラシ形骨加工品—骨製歯ブラシ/櫛払(数田2015)	15.1	1.1	0.8	15.09	大型哺乳類の骨?(久保1999)	表土	台部前面に縦4列、左から18・19・19・18個の穿孔が施される。台部背面に溝4条が形成される。櫛毛(動物の毛?)残存。全体に研磨、台部前面と背面の一部が緑色に着色。柄部下端の穿孔部に、乳白色(セルロイド製?)の棒が挿入され、背面に舌こき(舌掻)が装着されていたと考えられる(数田2013)。
185	歯ブラシ形骨加工品—骨製歯ブラシ(数田2015)	[6.2]	[1.3]	[0.6]	[5.24]	大型哺乳類の骨?(久保1999)	北側攪乱	柄部の上から「口」形「口」形の陰刻が残る。「子」は「子」の上半部分とみられる。「虎」は「虎」の旧字体で左半分の「号」は欠損しているが、本来は「號」であったと考えられる。欠損部分も含めると、「(齒刷)子(数字)號形」の文字が記されていたと推定される。

* [] は残存部のサイズを示す。